母校創立50周年
歯技会発足30周年

記念誌

大阪大学歯技会誌　2010

大阪大学歯学部附属
歯科技工士学校同窓会

第32号

吹田校舎

旧中之島校舎

目　次　2010.12　通巻第 32 号

創立 50 周年を迎えて　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校長
大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座教授　矢谷　博文…… 02
同窓会長挨拶　大阪大学歯技会 会長　指輪　光良…… 03
創立 50 周年のお祝い、次のステップは？　大阪大学大学院歯学研究科科長　米田　俊之…… 04
歯学部附属歯科技工士学校「創立 50 周年」を祝して　大阪大学歯学部附属病院長　森崎市治郎…… 06
「チームプレイの大切さ」　大阪大学歯学部同窓会長　尾上　好申…… 07
「創立 50 周年によせて」　大阪大学名誉教授・元歯科技工士学校長　髙橋　純造…… 08
創立 50 周年を祝して　大阪大学名誉教授・元歯科技工士学校長　雫石　聰…… 09
祝辞「創立 50 周年によせて」　大阪大学大学院歯学研究科教授・元歯科技工士学校長　高田　健治…… 10
創立 50 周年によせて　大阪大学大学院歯学研究科教授・元歯科技工士学校長　前田　芳信…… 11
創立 50 周年に寄せて　前歯科技工士学校長　荘村　泰治…… 12
大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年ならびに大阪大学歯技会発足 30 周年事業概要
…… 13
大阪大学歯学部附属歯科技工士学校年史…… 14
大阪大学歯学部附属歯科技工士学校・人事記録…… 20
大阪大学歯技会結成 30 年間のあゆみ…… 22
歯技会会員状況表・会員分布…… 36
回顧録
50 年前に入学して　第 1 期生　津田　靖子…… 38
回顧録　第 2 期生　近江　忠義…… 40
回顧録　第 6 期生　内田　典夫…… 40
母校創立 50 周年によせて　一卒業生の回顧録　第 9 期生　一棟　徳和…… 42
学生時代　第11期生　森　正文…… 47
タイムスリップ　第12期生　能勢　浩行…… 48
回顧録　第16期生　渡辺　克美…… 49
堂島川のほとりで　第23期生　町　博之…… 51
会員寄稿
選　科 中島　徹 …53
第 2 期 山本　靖廣 …53
第 7 期 竹内　清 …55
第 9 期 中西　政博 …56
第10期 釋　康祐 …57
第13期 北村鉄之助 …58
第18期 星山　相律 …59
第20期 吉岡　宏 …59
第21期 入江　國紀 …60
第25期 一色　忍 …60
研59年 能間　英治 …60
第27期 別所　右一 …61
第28期 後藤　哲史 …61
第33期 石田　真理 …62
第42期 大石　礼子 …62
第45期 林　奈津子 …63
第46期 貞松　寛観 …63
第49期 中島　有香 …66
母校だより
「歯科技工士をめざして」　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校第 2 学年 …… 67
歯技会会員の学術業績…… 71
大阪大学歯技会ホームページ開設によせて…… 95
編集後記…… 96

歯技会会則…… 98
会員名簿…… 101
役員名簿…… 170
名簿索引…… 172

創立 50 周年を迎えて

大阪大学歯学部附属技工士学校長
大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座教授

矢　谷　博　文

酷暑の夏がようやく終わりを告げ、日一日と秋らしい気候になってまいりましたが、同窓会員の皆様におかれましては、益々のご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。私は、平成 17 年度に引き続いて再び本年 4 月から歯科技工士学校長を拝命することになりました。力不足のところも多々あろうかと思いますが、精一杯務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

光陰矢のごとしと申しますが、月日の流れは本当に早いもので、本学校もいよいよ本年度で創立 50 周年という重要な節目を迎えることとなりました。同時に本学同窓会である歯技会は設立 30 周年というこれも節目の年を迎えます。この間に送り出した卒業生は 856 名を数え、第一回卒業生は古希を迎えようかという年齢に達しておられます。このような本学校の発展をお祝いすべく、歯技会と技工士学校は一致協力して「大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年ならびに大阪大学歯技会発足 30 周年記念事業」を早くから立ち上げ、12 月 19 日の創立 50 周年記念講演・式典・祝賀会の開催準備と創立 50 周年記念誌の発刊準備を着々と進めております。 このように盛大な行事で歯科技工士学校創立 50 周年と歯技会創立 30 周年を関係者の皆様とともにお祝いできますことは、学校長として身に余る光栄であります。本紙面をお借りして実行委員長を務めていただいている歯技会会長の指輪光良先生を始め、実行委員会の方々全員に対して満腔の謝意を表したいと存じます。

さて、歯科技工界は歯科界の長引く低迷の影響をもろに受けて入学志望者が減少し、歯科技工士学校は各校とも苦しい学校経営を余儀なくされ、定員の確保に四苦八苦しております。そのような中で本学校は過去 6 年間の入学試験の実質倍率が平均約 2.2 倍であり、特に昨年は 2.7 倍もあり、全国の歯科技工士学校の中でも例外的に高い倍率を維持することができております。この数字は本学校が歯科技工士を目指す受験生にとっていかに魅力的な学校であるかを物語っており、ご同慶の至りであります。しかし、それに胡坐をかくことなく、本年もオープンキャンパスを 3 回開催するとともに、魅力的な学校紹介パンフレットの作成・配布、大手入試情報誌への本学校宣伝ページ掲載、WEB サイトおよび携帯 WEB サイトへの宣伝ページ掲載と受験生の獲得へ向けて地道な努力を積み重ねております。今度の入試に何名の受験生が集まってくれるか今から大変に楽しみです。

社会の中の歯科に視点を移しますと、社会が高齢化し、成熟していくのに伴い、国民の口腔機能や審美性に対するニーズは年々高まっています。そのような社会の変化に合わせて歯科技工士学校のあり方や役割も変わっていかなければなりません。すなわち、社会からは、より高い技術をもった歯科技工士を養成するだけではなく、health care provider の一員としての役割を果たすことのできる歯科技工士を育てることを求められています。このような視点に立って、優れた歯科技工士の育成に微力ながら尽力したいと考えております。大阪大学歯学部附属歯科技工士学校が今後ますます国民の求める優秀な歯科技工士を輩出できますよう先輩諸氏のご協力を心よりお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

ご 挨 拶

大阪大学歯技会長

指 輪 光 良

平素より、「大阪大学歯学部附属歯科技工士学校」の同窓会である「大阪大学歯技会」の活動に於きまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年、母校は創立 50 周年の節目を迎え、折しも弊会も、学校制度以前の同窓会組織「技研会」と母校卒業生からなる同窓会組織「技学会」が昭和 56 年に組織融合し、「大阪大学歯技会」として発足しましてから 30 周年を迎えることができました。

弊会では、この大きな節目を母校とともに祝い、過去 50 年間にわたり母校のためにご尽力いただきました本学内外の諸先生方、各関係団体ならびに関連企業各社に感謝を申し上げ、ささやかながら記念事業を立ち上げました。その一環として記念誌の発刊と去る 12 月 19 日にホテル「シティプラザ大阪」に於いて記念式典と小宴を開催いたしました。

年末のご多忙の時期にも拘わらず、多くの来賓の皆様をお迎えして大過なく式典等を完了することができましたことを同窓会の代表として皆々様に衷心より御礼申し上げます。

今後、弊会は、この大きな節目に同窓会組織のあるべき基本理念・基本方針を再考し、より有益で実践的な事業を推進して参りたいと考えております。先ず､学術活動の充実は極めて重要であります。母校は、教育・技術・研究などの環境に恵まれており、今後、母校、病院中央技工室と同窓会が連携をさらに強化し、相互に学術研鑽を積んでいきたいと存じます。また、同窓会組織の堅確化も今後の大きな課題であり、この記念事業により会員の自覚が同窓会の結束をさらに強め、充実した発展と変革をもたらすものと確信いたしております。

本記念誌では、母校の沿革に始まり、歯技会発足から今に至るまでの同窓会活動や過去 10 年間の会員学術業績を収載いたしております。これらの足跡を次世代に引き継ぐことにより、各人の自覚を高め、優れた人材を歯科界に輩出していく一助になればと考えております。

そして、歯科界に母校出身の歯科技工士が優秀であるとの評価を受けるよう、微力ながら同窓会といたしまして尽力する所存でございます。

何卒、従前同様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末文で失礼とは存じますが、記念誌発刊にあたり、玉稿をお寄せくださいました諸先生方ならびに各関係団体、ご支援をくださいました関連企業各社に衷心より御礼申し上げます。

母校創立 50 周年ならびに歯技会発足 30 周年という大きな節目を機に、母校と同窓会の一層の発展と皆々様のご活躍を祈念申し上げ、記念誌発刊へのご挨拶といたします。

創立 50 周年のお祝い、次のステップは？

大阪大学大学院歯学研究科長

米 田 俊 之

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校は平成 22 年（2010 年）に創立 50 周年を迎えました。一昔前までは人生 50 年と言われていたことから考えると、歯科技工士学校という大きな組織が 50 年間存続してきたということ大変な偉業であり、心から祝福の言葉を述べさせて頂きます。また同時に、この組織をここまで発展させてこられた教職員、同窓会、学生、そして関係者の皆様のご努力、お知恵にも心から敬服する次第です。

言うまでもなく、大阪大学歯学部 / 大学院歯学研究科 / 歯学部附属病院と歯科技工士学校とはチームを組んで歯科医学・歯科医療の変革に努め、国民の口の健康維持、向上、改善をめざさなければならない仲間であります。ご存じない方が多いかもしれませんが、実は大阪大学大学院歯学研究科も今年で創立 50 周年を迎えますし、来年は歯学部創立 60 周年になります。そこで本筋とは少し離れますが、大阪大学歯学部の歴史をご紹介したいと思います。大阪大学歯学部は大正 15 年（1926 年）府立大阪医科大学の歯学教室に端を発し、昭和 7 年（1932 年）大阪帝国大学医学部に歯科学講座設置、昭和 25 年（1950 年）大阪大学医学部に歯学科設置、そして昭和 26 年（1951 年）4 月に大阪大学医学部歯学科より分離独立し、弓倉繁家教授を初代学部長として国立総合大学では最初の歯学部として創設されました。したがって平成 23 年（2011 年）は、創立 60 周年ということになります。昭和 28 年（1953 年）8 月には渡辺悌教授を初代病院長として、27 病床を持つ歯学部附属病院設置、昭和 35 年（1960 年）4 月には大学院歯学研究科、ならびに附属歯科技工士学校が設置されました。したがって平成 22 年（2010 年）は、附属歯科技工士学校と大学院歯学研究科がともに創立 50 周年ということになります。またこの年から学生定員が 40 名となり、昭和 37 年（1962 年）薬剤部設置、昭和 41 年（1966 年）には学生定員が 60 名に増えました。昭和 58 年（1983 年）には大阪市内の中之島から現在の吹田キャンパスに移転、平成 2 年（1990 年）には学生定員が 65 名となり、平成 12 年には大学院重点化、そして平成 16 年（2004 年）には大阪大学は法人化され、現在に至っています。附属歯科技工士学校も歯学部チームの一員としてお互いに切磋琢磨しながら、こういった歴史の中で一貫して活動してこられたことになります。

人間の場合、50 歳というのは働き盛りの年齢で、しかるべく立場に就いて、個人的にも、社会的にも充実していく時期にあたります。しかし人間の場合は 50 歳以降徐々に衰えて行き、いずれは死を迎えるので、そのあとの人生プランは自然と消極的なものになって行きます。一方組織には死というものが無いので、創立 50 年というのは充実、成熟してはいるけれども、その次の 50 年をどう発展させるかというきわめて難しい課題が問われる節目の時期でもあります。世界と日本が大きく揺れ動いているこの時代に、全ての企業、組織が同じような課題を突き付けられてあがいています。大阪大学歯学部・歯学研究科もまさに同じ課題が問いかけられており、その答えを導き出すのに苦慮しています。わたしはこのような激動の時代においても、常に不変であり得るものの一つはサイエンスであると信じています。

歴史を振り返っても、国がどう変わろうともサイエンスは常に真理の探究をめざして人類に無数の貢献を成し遂げてきました。歯科医療においても、ようやく歯周組織の再生や歯科インプラントの骨性植立など、分子細胞生物学的概念、知識、技術を抜きにしては成し得ない、これまでの歯科医療とは様式の異なる新しい分野が芽を出し始めてきました。ここで一つ強調させて頂きたいのは、こういった歯科医療が生まれてきた背景には、何らかの技術の進歩の先行があったことです。組織の再生には細胞の培養技術の進歩、歯科インプラントには適切な材料作成技術と骨の変化を調べる技術の開発がなければ、歯科医療の現場には持ち込めなかったと思われます。わたしは生化学を専門にしていますが、研究においても同様で、新しい技術が開発されて初めてこれまで行えなかった実験が可能となり、学問の進歩が生まれてきます。個人的な考えですが、歯科医療においてもこういった形態があってもいいのではないでしょうか。つまり、始めに材料、技術を含めた新しい技工学があり、それを土台にして新しい歯科医療を展開する、というような形です。もちろんこれを可能にするためには、歯科技工士学校のあり方の再検討や教育システムの大幅な改善が必要であり、一朝一夕にできることではありません。無い物ねだりのようなことを書き述べましたが、創立 50 周年を契機として、こういったことも今後の検討課題の一つとして考えておくべきではないかと思った次第です。最後にもう一度、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年、まことにおめでとうございます！

歯学部附属歯科技工士学校
『創立 50 周年』を祝して

大阪大学歯学部附属病院長

森　崎　市 治 郎

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校の創立50周年おめでとうございます。謹んでお祝い申し上げます。

昭和 6（1931）年に大阪帝国大学が誕生し、来年は創立 80 周年を迎えますが、あわせて昭和 26（1951）年に創設の歯学部 60 周年と、本年は昭和 35（1960）年に設置された歯科技工士学校の 50 周年という記念すべき慶事が続いております。1960 年といえば、第二次世界大戦の終結から 15 年後で、わが国は戦後復興の途上にあり、また「60 年安保」という戦後最大の政治的決断のなかで、国内が真二つに分かれて大きく揺れ動いた世相であったと思います。

その当時、日本には国民のすべてをカバーする医療保険制度はなく、歯科治療のすべてが自費で行われていました。翌（昭和 36）年に今日のような国民皆保険の制度ができ、それ以降、すべての日本国民は医科診療も歯科診療も公的医療保険制度のもとで診療が受けられるという医療形態を保ちながら今日に至っています。また、著しい経済復興と食生活の変化、平均寿命の延伸のなかで歯科疾患は急増し、歯冠修復と歯科補綴の需要増大に応えて歯科技工士の養成が増えてきました。

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校はこのような背景のもとで、優秀な歯科技工士を輩出し、良質の歯科技工物を患者さんに届けるだけでなく、その専門分野において指導的使命を担ってこられました。改めて敬意を表します。

今日、わが国の社会構造、経済、医療は大きな転換期にあると思われます。歯科技工士学校も閉鎖や募集停止などがみられますが、芸術的で技術伝承的な要素の大きな歯科技工の職域での再生は容易なことではありません。このような時勢でこそ、真の存在意義が問われているのではないかと考えられます。

貴校の半世紀にわたる輝かしい歴史に敬意をはらい、さらに発展すべく精進されることと、歯学部附属病院の運営にもご協力いただけることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

「チームプレーの大切さ」

大阪大学歯学部同窓会長

尾　上　好　申

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年おめでとうございます。歯学部同窓会を代表し、心よりお祝い申し上げます。

本体である我々の「大阪大学歯学部」は、来年創立 60 周年を迎えます。歯学部が誕生して 9 年目という早い段階での貴校の創立は、歯科医療の発展には歯科技工士の養成が必要不可欠という、先人の先生方の熱意によるものだったのではないかと、今になってあらためて思います。

大阪大学歯学部同窓会の会員は一昨年 3000 名を越え、その大半が歯科医療に携わっています。患者さんの口腔内の健康の回復と維持のためには、歯科医師による治療、歯科技工士さんによる補綴物作製、そして、歯科衛生士さんによる歯周処置、口腔衛生指導およびメインテナンスが不可欠です。国民に良質の歯科医療を提供していくためには、これら 3 者が、意見交換や情報伝達をしながら、協同作業を行う体制が必要であり、スポーツに例えれば、チームプレーの大切な仲間だと言えるのではないでしょうか。

私事ですが、歯科医院を開院して 35 年、たくさんの技工士さんと一緒に治療を続けてきました。貴校 1 期生の田中淳三元会長とも 30 年以上のお付き合いです。歯科医療においては、歯科医師と歯科技工士さんの気持ちが通じ合うことで、より良い補綴物が生まれると思います。1 年前に 30 年近く勤めてくれた歯科技工士さんが退職して、それからはそばに歯科技工士さんの居ない苦労を味わっています。

歯科医療に携わる者は , 人間にとって大切な「食」を担っています。今後とも国民により良い歯科医療を提供するために一緒に頑張りましょう。

阪大歯技会のますますの発展をお祈りします。

「創立 50 周年によせて」

大阪大学名誉教授
元歯科技工士学校長（2000.3.31 ～ 2002.3.30）

髙　橋　純　造

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年とのこと、誠におめでとうございます。

創立の昭和 35 年、私は高校を卒業し浪人生活を始めました。ということは、1 期生の方と同い年くらいかもしれませんね。私は、昭和 51 年頃、歯学部歯科理工学講座の助手になりました。山賀教授・井田助教授・上新先生・森脇先生・堤先生時代から山賀教授・森脇助教授・高橋・岡崎先生・土井先生へと「歯科理工学」の講義陣が変わった頃です。当時の技工士学校の教務主任は太田先生で、講師には代田先生がおられました。代田先生は仕事のかたわら「歯科鋳造の研究」で歯学博士を取得されたのを思い出します。

歯科技工士学校の「歯科理工学」、「歯科理工学実習」は、他の教科に比べて時間数が多いこともあり、4、5 人のスタッフで講義・実習を分担していました。そのためと、小生の記憶力が悪いせいか、学生さんの名前はほとんど記憶できず、質問を当てるときも「教壇」に置いてある座席名簿を見て当てていました。1 学年 20 名のクラスは、教える立場からは、多すぎず少なすぎず講義しやすかった記憶があります。「ワンランク上の歯科技工士を目指して勉強しなさい。」といつも励ましつつ講義してきましたが、皆さんは覚えておられますか。

林教務主任、町講師、横山講師の時代が長く続きましたが、町講師、横山講師とは、歯科技工士学会の学会発表のお手伝いをさせてもらったことが懐かしいです。松風の新しいアルゴンキャスター DX 鋳造機が実習用においてあり、それを頼み込んで使わせてもらい研究発表したこともありました。歯科技工士学校の図書室には、歯科技工の最新専門書や、専門雑誌「歯科技工」、「QDT」が全巻揃っており、大いに活用させてもらいました。

退官後は、歯科用金属メーカーに勤めておりますが、歯科技工所を訪問したり、歯科材料メーカーの方に会ったりすると、時には「先生、憶えていますか」と話しかけられてどっきりすることがあります。教え子と言えるほど十分に指導してきたわけでもないのですが、教え子の人たちが活躍している姿を見ると、「先生」としてこんなに嬉しい思いはありません。

最後に大阪大学歯学部附属歯科技工士学校の益々の発展と、卒業生の皆様の御健勝とご活躍を祈念しております。

創立 50 周年を祝して

サンスター株式会社顧問
大阪大学名誉教授
元歯科技工士学校長（2002.3.31 ～ 2004.3.30）
雫　石　　聰

この度、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校が創立 50 周年を迎えられることに対しまして、心からお慶び申し上げます。

私は、平成 14 年 3 月から平成 16 年 3 月の 2 年間、本歯科技工士学校の学校長を勤めさせていただきました。予防歯科科学の教授が学校長になるのは珍しいのですが、私どもの初代教授松村敏治先生が本歯科技工士学校の初代の学校長を勤められたということで大変親近感を持っていた次第です。私が学校長を勤めました頃は年々受験生の数が減少していた頃で、受験生を増やすために受験科目や試験内容を変えるなどいろいろと苦労したのが今となっては良い思い出です。また、日頃から本歯科技工士学校の学生さん達と時間を共にする機会がなかなかとれなかったのですが、年 1 ～ 2 回学外での研修旅行としてバスで工場見学に行き、学生さんたちと語り合ったり、一緒に昼食を摂ったりしましたが、みんな気さくな若者で大変楽しい思いをいたしました。

さて、一言で創立 50 年といいますが、この 50 年の間には非常に多くの優秀な学生たちが勉学にいそしみ、わが国でもトップクラスの多くの歯科技工士が本学から輩出されました。このことは沢山の先生方の惜しみない情熱と労力があって初めて達成されたことであり、50 年間かけて築かれた本歯科技工士学校の伝統はこのようなことが基盤になっていることを決して忘れてはならないと思います。そして、次の 50 年間に本歯科技工士学校は何が出来るか、何をやらなければならないかを考えていかなければなりません。言い古されたことですが、現在、歯科技工を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。しかし、わが国の歯科医療の中で歯科技工の役割は大変重要なことはいつの時代も変わりはないでしょうし、高齢社会の中で再生医療など医療が高度化しても、内容や形が変わって歯科技工は発展し続けることでしょう。そのためには時代にニーズに応えられる優秀な人材を供給し続けなければならず、これが本歯科技工士学校の使命だと思います。今後の本歯科技工士学校の更なる発展を心から願っております。

祝辞「創立 50 周年によせて」

大阪大学大学院歯学研究科口腔分化発育情報学講座教授
顎顔面口腔矯正学教室教授
元歯科技工士学校長（2004.3.31 ～ 2005.3.30）
高　田　健　治

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年、ならびに記念誌発行を心からお祝い申しあげます。

ひとくちに 50 年と申しあげても、昭和 35 年の開校から平成 22 年の今日までの間に、歯科技工技術の向上と新規歯科材料の開発ならびに改良が進められ、歯科技工界はめざましい発展を遂げてまいりました。例えば私が専門とする矯正歯科臨床においては、レジン系接着剤の開発と改良により、すべての歯に矯正用バンドをセメント合着する手法から、歯面に直接アタッチメントを接着するダイレクトボンディング法へ移行しました。そして現在では、より正確な位置に効率よくアタッチメントを装着する方法として、インダイレクトボンディング法も広く行なわれています。特にリンガルエッジワイズ装置では、口蓋側（舌側）の複雑な歯面形態に合わせたアタッチメントの位置決めが必要とされるため、原則としてインダイレクトボンディング法が用いられ、その製作過程では精密な技工操作が要求されます。そうした歯科技工技術の変遷の中で、貴学は日本の歯科技工界をリードする教育機関として、多くの優秀な卒業生を輩出し、その社会的責任を果たしてこられました。これまでの 50 年間に築き上げられてこられた貴学の功績は、貴学の教員と卒業生が日夜研鑽を積まれた成果であり、そのたゆまぬ努力と熱意に心から敬意を表します。

歯科医療技術の向上に伴い、今日の歯科臨床における歯科技工士は、付属的な立場ではなく、歯科医師と並立してより高度な歯科医療を国民に提供する重要な役割を担っているものと考えます。これまでの 50 年間に築かれてきた貴学の教育成果は、優秀な卒業生の活躍によって、今後の 21 世紀の歯科医療の発展に大いに生かされることでしょう。

創立 50 周年を機に、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校が更なる飛躍を遂げられ、今後ますますご発展されることを祈念いたします。

創立 50 周年によせて

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座
歯科補綴学第二教室　教授
元歯科技工士学校長（2006.3.31 ～ 2008.3.30）
前　田　芳　信

歯科技工士学校創立 50 周年を迎え、まずこれまで学校運営にご尽力されてこられた先輩の学校長の先生方、職員の方々ならびに卒業生の方々に対して御礼をさせていただくとともに深く感謝いたします。

私自身大学を卒業し補綴学第二教室に残ったとき以来、歯科技工士学校とはきってもきれない関係を続けてきました。河合先生、奥野先生、野首先生がそれぞれ学校長をされていたこともあり、歯科治療のなかでの歯科技工の重要性は日々の臨床の中からも身をもって体験してきました。

残念なことではありますが、私が学校長の大役をお引き受けするようになった時期には、歯科技工士学校への入学希望者が次第に全国的に減少する傾向が顕著になりました。全国各地で重要な役割を果たしていた歯科技工士学校が閉校に追い込まれる場合もみられるようになりました。

その原因には世界的な不況に加えて社会の「歯科技工」あるいは「歯科技工士」に対数認識の不足に加えて、その待遇の問題からも「3K」のイメージのみが広がったことが含まれると思います。

しかしこのことは、歯科技工だけでなく歯科医療全般にも通じることだと考えます。これまでともすれば歯科は「金満」的なイメージを持たれていたものが、一挙に「ワーキングプアー」としてのイメージにまで急降下してきているのが象徴しています。

逆説的にはなりますが、私自身はこのような時代こそが「実力の時代」であり「本物の時代」なのだと思っています。よく IT などが話題になりますが､決してそれだけでは歯科の世界に光はささないでしょう。なぜなら CAD/CAM に代表される IT はあくまでも便利で有効な道具ではありますが、それをつかいこなす磨かれた感性をともなった人の技があってはじめて生きた技工作品ができると思うからです。私自身は幸いにも、そのような歯科技工士の方々とチームワークを組んで患者さんに喜んでもらえる仕事を臨床の現場で、ともにさせてもらってきました。

これまでも、これからも地道に、技を磨き、工夫し、時には悩みながら歯科医療チームの重要な一員としての歯科技工士は世の中からも求められ続けることは間違いないでしょう。

今後の歯科技工士学校においても　さらに多くの優秀な歯科技工士を育成され、広く世界で活躍されることを期待いたします。

創立 50 周年に寄せて

Boonic 株式会社　取締役
前歯科技工士学校長（2008.3.31 ～ 2010.3.30）

荘　村　泰　治

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年、誠におめでとうございます。半世紀に及ぶ長い歴史を築き歯科界に寄与してこられた歯科技工士学校の諸先生方、同窓生、学生の皆様方さらに学校を支援してこられた歯科業界の皆様方に、心よりお祝い申し上げます。

私が歯学部歯科理工学講座の助手に着任したのは昭和 57 年でしたが、それ以降今年の 3 月末に歯学部を退職するまで、歯科理工学の授業を担当させて頂きました。さらに、歯学部での最後の 2 年間は技工士学校校長を拝任し、関係の皆様方とのお付き合いが深まりました。その時は歯学部教授との兼任でもあり極めて多忙でしたが、歯科技工士学校の先生方や学生さんたちとのつき合いも深まり、非常に思い出深い有意義な 2 年間でした。

校長を拝命して最も苦慮したことは、少子化による受験生の減少や歯科業界の状況の厳しさから、歯科技工士学校の入試受験倍率が低下していたことでした。より優秀な学生の確保という面からもなんとか倍率の向上に取り組まねばと先生方と相談し、オープンキャンパスの開催に取り組みました。

それまで個人的な学校見学は受け付けていましたが、日時を設定しての公式なオープンキャンパスは初めての試みで、周囲の学校の取り組みや専門家のアドバイスを参考にし、手探り、手作りの開催でした。この企画には在学生の皆さんも積極的に参加してくれました。技工実技の実演や参加者への説明、質問への回答など大活躍してくれました。お陰で受験倍率をやや改善することができました。

また、カリキュラムの改訂にも取り組み、現在歯科界で注目を集めている CAD/CAM 関連の授業を展開することを試みました。基礎的な手技による技工と共に最新のコンピュータ技術も身につけてこれからの歯科技工業界をリードしてほしいと願っています。

私は今年 3 月に退職してから、Bionic という歯科 CAD/CAM 関連の小さなベンチャ会社に勤務し、同僚の歯科技工士の方達と一緒に新しい技術の開発を試みており、歯科技工そのものの仕事に日々取り組んでおります。

創立 50 周年という輝かしい歴史を刻んでこられた大阪大学歯学部附属歯科技工士学校が今後もさらに発展し、日本さらには世界の歯科技工界、歯科界に大きく寄与されることを心よりお祈りして、お祝いの言葉とさせていただきます。

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立50周年ならびに大阪大学歯技会発足30周年記念事業概要

○日　　時　　平成22年12月19日（日）　午前11時～3時

○会　　場　　シティプラザ大阪

○内　　容　　（敬称略）

・記念講演会（午前11時～正午12時）「燦の間」

司会　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校教務　北原　一慶

座　長　　大阪大学歯技会会長　指輪　光良

演　題「CAD/CAMが拓く歯科技工の新たな流れ」

大阪大学大学院歯学研究科　元教授　荘村　泰治

講　師

・記念式典（正午12時～午後1時）「眺の間」

司会　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校教務　町　博之

物故者への黙祷

式　辞　　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校校長　矢谷　博文

挨　拶　　大阪大学総長　鷲田　清一

大阪大学大学院歯学研究科長　米田　俊之

大阪大学歯学部附属病院長　森崎　市治郎

祝　辞　　全国歯科技工士教育協議会会長　末瀬　一彦

日本歯科技工学会会長　齊木　好太郎

日本歯科技工士会会長　中西　茂昭

閉会の辞　　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校教務主任　林　克哉

・記念祝賀会（午後1時～午後3時）「旬の間」

司会　大阪大学歯技会　山口　静穂

中尾　真由紀

開宴の辞　　大阪大学歯学部附属病院総合技工室主任　能勢　浩行

挨　拶　　大阪大学歯技会会長　指輪　光良

祝　辞　　大阪大学歯学部同窓会会長　尾上　好申

社団法人大阪府歯科技工士会会長　時見　高志

歯科技工士学校同窓会連絡協議会会長　江島　彰徳

歴代学校長紹介

乾　杯　　大阪大学歯技会（同窓生代表）田中　淳三

祝　宴　　和太鼓演奏　　和太鼓集団　雷

祝電披露　　司会

感謝状贈呈　　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校校長　矢谷　博文

大阪大学歯技会会長　指輪　光良

閉会の辞　　大阪大学歯技会副会長　西　康文

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校年史

本資料提供母校教務

（年月日）　　（記事）

35. 4. 1 歯学部に歯科技工士学校が設定された。（文部省令第6号）
〃 初代学校長に松村敏治教授が補せられた。
〃 教務委員長に河合庄二郎教授が併任された。
〃 教務主任に三木敬一助教授が併任された。
4. 5 第1期生入学式挙行
4. 25 専任教官（講師）に真島利雄が就任した。
4. 26 歯科技工法（昭和30年法律第168号）第14条第1号の規定に基づき、歯科技工士養成所として、指定される。（厚生省告示118号）
4. 28 専任教官（講師）に川越昌宣が就任した。
36. 3. 16 川越昌宣専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
〃 専任教官（講師）に小倉正彦が就任した。
11. 15 真島利雄専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
11. 16 専任教官（講師）に鳥居則成が就任した。
37. 3. 31 小倉正彦専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
5. 1 専任教官（講師）に溝口修が就任した。
9. 1 鳥居則成専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
〃 専任教官（講師）に加藤斉久が就任した。
38. 3. 26 第1期生18名が卒業した。
3. 30 松村敏治教授が学校長を免ぜられた。
〃 河合庄治郎教授が教務委員長を免ぜられた。
3. 31 学校長に河合庄治郎教授が補せられた。
9. 30 加藤斉久専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
10. 1 専任教官（講師）に大前洋一が就任した。
39. 11. 7 歯科技工士学校の教室が理学部（元物理学研究室）へ暫定的に移転した。
41. 1. 31 大前洋一専任教官（講師）が辞職した。
2. 16 専任教官（講師）に斉藤俊一が就任した。
5. 20 養成所指定規則（入学資格、就業年限、学科課程）の改正（厚生省令第15号）
5. 25 歯学部第5期工事（A棟）が竣工した（5,034m²）
42. 2. 28 溝口修専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
3. 31 三木敬一教務主任が併任を解かれた。
4. 1 教務主任に奥野善彦助手が併任した。
〃 専任教官（講師）に明石貴雄が就任した。
〃 斉藤俊一専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
4. 16 専任教官（講師）に柳田重明が就任した。
8. 歯科技工士学校の新校舎改修工事（専有面積324m²）が竣工した。（元大阪大学事務局施設部建物）
43. 3. 30 河合庄治郎教授が学校長を免ぜられた。
〃 奥野善彦助手が教務主任を免ぜられた。
3. 31 学校長に下總高次郎教授が補せられた。
3. 31 教務主任に岡田周造助教授が併任された。
10. 31 柳田重明専任教官（講師）が歯学部に配置換となった。
11. 1 専任教官（講師）に代田基朔が就任した。
44 3. 17 第7期生,第8期生の卒業式が挙行された。
10. 28 生徒の被服、その他支給規定の一部を改定した。（生徒手当年額9,600-の廃止）
45. 2. 28 明石貴雄専任教官（講師）が辞職した。
3. 1 歯学部B棟5階が増設された（561m²）。
4. 1 専任教官（講師）に大谷宏が就任した。
46. 3. 30 下總高次郎教授が学校長を免ぜられた。
〃 岡田周造助教授が教務主任を免ぜられた。
3. 31 学校長に河合庄治郎教授が補せられた。
〃 教務主任に奥野善彦助教授が併任された。
10. 16 大谷宏専任教官（講師）が岐阜歯科大学へ転出した。
〃 専任教官（講師）に宇都宮敏が就任した。
47. 3. 30 河合庄治郎教授が学校長を免ぜられた。
〃 奥野善彦助教授が教務主任を免ぜられた。
3. 31 学校長に下總高次郎教授が補せられた。
教務主任に奥野善彦助教授が併任された。
5. 11 教授会において歯学部吹田移転を決定し、その計画案の作成に着手した。
7. 歯科技工士学校々舎の一部改装がおこなわれた。
48. 3. 30 岡田周造助教授が教務主任を免ぜられた。
3. 31 教務主任に宇都宮敏専任教官（講師）が併任された。
5. 1 歯科技工士学校教務委員に附属病院中央

診療施設の技工室から 1 名
（大田正一室長）選出された。
49. 3. 30 下總高次郎教授が学校長を免ぜられた。
〃 宇都宮敏専任教官（講師）が教務主任を免ぜられた。
3. 31 学校長に河合庄治郎教授が補せられた。
〃 教務主任に代田基朔専任教官（講師）が併任された。
4. 1 宇都宮敏専任教官（講師）が辞職した。
〃 専任教官（講師）に宮本昇が就任した。
12. 5 歯科技工法施工規則及び歯科技工士養成所指定規則の一部改正（厚生省令第 45 号）
50 2. 22 厚生省令第 45 号に基づき学則を一部改正した。（学科課程の改正）。
4. 1 歯科技工士養成所教授要綱できる。
5. 1 専任教官（講師）が教務委員に選出された（4.23 教務委員会決定）。
6. 18 吹田移転に於ける歯科技工士学校の将来計画案の作成に着手した。
6. 25 大阪大学評議会で歯学部及び同附属病院の吹田移転が承認された。
10. 20 第 1 回全国国立大学歯学部附属歯科技工士学校長・教務主任会議開催（東京）。
12. 4 歯科技工士養成所管理者講習会（厚生省医務局）開催される。
51. 1. 21 歯科技工士養成所管理者講習会（厚生省医務局）開催される。
3. 31 代田基朔専任教官（講師）が教務主任を免ぜられた。
4. 1 教務主任に宮本昇専任教官（講師）が併任された。
5. 10 教育法第 82 条に基づき名称を大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、歯科技工専門課程、歯科技工学科と改めた（専修学校制度・法律第 59 号第 75 国会通過）。
10. 20 第 2 回全国国立大学歯学部附属歯科技工士学校長・教務主任会議開催（東京）。
11. 18 歯科技工士養成所管理者講習会（厚生省医務局）開催される。
52. 3. 30 河合庄治郎教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に下總高次郎教授が補せられた。
4. 1 宮本昇教務主任（専任教官・講師）が辞職した。
〃 太田正一附属病院中央診療施設技工室長が専任教官（講師）に配置換となり教務主任を併任した。
10. 28 第 3 回全国国立大学歯学部附属歯科衛生士・歯科技工士学校長及び教務主任会議開催（大阪）
53. 6. 9 歯学部吹田移転計画実行委員会が発足した。
11. 9 第 4 回全国国立大学歯学部附属歯科衛生士・歯科技工士学校長及び教務主任会議開催（東京）
54. 3. 30 下總高次郎郎教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に土谷裕彦教授が補せられた。
〃 代田基朔専任教官（講師）が辞職した。
4. 1 林克哉附属病院中央診療施設技工室技官が専任教官（講師）に配置換となる。
4. 東京医科歯科大学歯学部附属の両学校長に管理職手当てが支給されるようになった。
5. 18 吹田移転に伴う歯科技工士学校の計画案できる。
10. 12 学則の一部を改正した（入学検定料 5,000 円徴収）。
10. 第 5 回全国国立大学歯学部附属歯科衛生士・歯科技工士学校長及び教務主任会議開催（仙台）
55. 10. 5 歯科技工士学校創立 20 周年記念行事を挙行した。
10. 17 関西地区歯科技工士学校連絡協議会、全国歯科技工士教育協議会に入した。
10. 22 第 6 回全国国立大学歯学部附属歯科衛生士・歯科技工士学校長及び教務主任会議開催（新潟）
11. 26 歯科技工士養成所管理者講習会（厚生省医務局）開催される。
56. 3. 12 吹田キャンパスに新学舎の建設が着工された。
3. 17 学則の一部を改正した（授業料年額 24,000 円）。
〃 授業料取扱規定並びに授業料免除及び徴収猶予に関する規定を制定した。
3. 30 土谷裕彦郎教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に奥野善彦教授が補せらた。
5. 18 専修学校各種学校学生生徒災害傷害保険に加入決定。
10. 13 第 7 回全国国立大学歯学部附属歯科衛生士・歯科技工士学校長及び教務主任会議開催（東京）
57. 10. 1 第 8 回全国国立大学歯学部附属歯科衛生士・歯科技工士学校長及び教務主任会議

開催（東京）
11. 30 新学舎（A ～ D 棟、25,152m²）が竣工し歯学部に引き渡された。
12. 10 歯科技工士養成所管理者講習会（厚生省医務局）開催される。
58. 7. 12 歯科技工士学校が吹田キャンパス（専有面積 340m²）へ移転した。
9. 10 歯科技工士養成所の指定が取り消された。
9. 11 歯科技工士養成所として指定された。
10. 4 第 9 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（東京）。
10. 23 歯科技工士学校新校舎移転の式典を挙行した。
59. 10. 1 第 10 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（東京）。
60. 3. 30 奥野善彦教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に作田守教授が補せられた。
〃 太田正一教務主任（専任教官・講師）が停年退官した。
辞職した。
4. 1 教務主任に林克哉専任教官（講師）が併任した。
〃 中川潤一附属病院中央診療施設の技工室技官が専任講師に配置換となる。
8. 9 歯科技工士学校の短大昇格に関する打ち合わせを行った。
10. 8 第 11 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（新潟）。
10. 29 歯科技工士養成所管理者講習会（厚生省医務局）開催される。
61. 11. 14 第 12 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（広島）。
62. 2. 25 歯科技工士学校学務委員会規定を制定した。
7. 27 歯科技工士養成所管理者講習会（厚生省医務局）開催される。
9. 17 大阪大学歯学部に学校長候補者選考内規を制定。
11. 17 第 13 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（仙台）。
63. 3. 23 非常勤講師の大幅な増員及び担当室技官が専任教官（講師）に配置、時間数の増加を計る。
3. 30 作田守教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に丸山剛郎教授が補せられた。
11. 11 第 14 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（東京）。
64. 1. 2 歯科技工士教育白書出版される（全国国立大学歯学部附属歯科技工士学校長会議編）。
3. 9 歯学部に医療科学部口腔医療技術学科設置構想委員会が設置された。
3. 15 専任教官（講師）1 名の増員が諮られた。
5. 1 専任教官（講師）に歯学部附属病院第一補綴科医員、中村康弘が就任し専任教官が 3 名となった。
9. 27 第 1 回学外研修旅行が学校行事として初めて実施された。（東京 2 泊 3 日）
11. 14 第 15 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（大阪）。
2. 3. 30 丸山剛郎教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に祖父江鎭雄教授が補せられた。
4. 1 授業（歯科技工実習）の一部を 28 年間にわたり、附属病院の総合技工室の中の一つである技工士技工室で実施していたが本校の施設内で行うことにした。
5. 28 第 2 回学外研修旅行が実施された。
（静岡・東京 2 泊 3 日）
9. 21 平成 3 年度外国人受託研修員制度（ＪＩＣＡ）申請。
11. 20 第 16 回全国国立大学歯学部附学校長・教務主任会議開催（広島）。
11. 23 歯科技工士学校創立 30 周年記念の式典を挙行した。
3. 4. 1 歯科技工士学校教官に国家公務員法第 104 条、教育公務員特例法 21 条を適用。
6. 13 第 3 回学外研修旅行が実施された。
（四国、2 泊 3 日）
7. 31 中村康弘専任教官（講師）が辞職した。
8. 1 専任教官（講師）に横山菜穂子が就任した。
10. 24 第 17 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（東京）。
11. 8 平成 4 年度外国人受託研修員制度（ＪＩＣＡ）申請。
4. 3. 30 祖父江鎭雄教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に岡田宏教授が補せられた。
5. 27 第 4 回学外研修旅行が実施された。
（ニセコ・小樽・札幌 2 泊 3 日）
9. 15 外国人来訪者（中華人民共和国・第四軍医大学口腔医学院　歯科技工士　王子兢）を受け入れた。
10. 8 第 18 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（新潟）。

5. 3. 15 外国人来訪者（王子兢）に学校長より修了証書が発行された。
3. 31 中川潤一専任教官（講師）が辞職した。
4. 1 町博之附属病院総合技工士技工室技官が専任講師（講師）に配置換となる。
7. 18 第5回学外研修旅行が実施された。（札幌・然別3泊4日）
10. 7 第19回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（広島）。

6. 1. 26 衆議院本会議全会一致可決承認により歯科技工法一部改正（歯科技工士法）。
7. 11 中華医学会口腔科学会矯形技術学組長一行3名（呉景輪、王寶成、王子兢）の来訪があった（7/11 ～ 13）。
7. 20 第6回学外研修旅行が実施された。（札幌・トマム3泊4日）
10. 20 第20回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（東北）。

7. 1. 23 専修学校の専門課程の修了者に対する専門士の称号の付与に関する規定（平成6年6月21日文部省告示84号）に基づき修了者が専門士と称することができる課程となった。
4. 1 歯科技工士法（昭和30年法律第168号）第14条第1号に規定する学校（歯科技工士学校）として指定された（文部省に指定替え）。
〃 平成7年度入学者より入学料7,000円を徴収。（平成6年6月24日文部省令第23号）
〃 歯科技工士学校養成所指定規則の一部改正する省令（平成4年12月10日厚生省令第68号）の公布及び歯科技工士養成所教授要綱（昭和50年4月1日医発第339号）の全面改正（平成5年1月8日健政発第7号厚生省通知）に伴い専門的な科目を再編成し、教育内容の充実を図るため学科目及び授業時間の改正をした。（平成7年度入学者より）
7. 5 林克哉教務主任（専任教官・講師）が文部大臣賞（専修学校教育功労者）を授賞した。
7. 18 第7回学外研修旅行が実施された。（札幌・然別3泊4日）
9. 13 林克哉教務主任（専任教官・講師）第四軍医大学口腔医学院（西安＝中華人民共和国）を訪問し学術交流した（9/13 ～ 17）。
11. 17 第21回全国々立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（大阪）。
11. 20 第四軍医大学口腔医学院口腔材料学学教研室の学術交流者（唐　立輝）の来訪があった。（11/20 ～ 26）。

8. 3. 30 岡田宏教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に野首高祠教授が補せられた。
5. 12 第1回海外研修旅行が実施された。（ロサンゼルス5泊7日）
7. 15 歯学部附属病院の技官（歯科技工士）1名を預かることになった。
9. 28 林克哉教務主任（専任教官・講師）が第84回FDI世界大会（オーランド＝アメリカ）に参加（9/28 ～ 10/1）。
10. 18 第22回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（東京）。

9. 2. 24 第四軍医大学口腔医学院の学術交流者（馬桂芳）の来訪があった（2/24 ～ 3/1）
10. 31 第23回全国国立大学歯学部附属学校長・

【表1】学級目及び授業時間表

学科目	総時間数
外国語（英語）	40
造形美術概論	20
関係法規	20
歯科技工概論	50
歯科理工学	220
歯の解剖学	180
顎口腔機能学	60
有床義歯技工学	440
歯冠修復技工学	440
矯正歯科技工学	30
小児歯科技工学	30
歯科技工実習	750
保健体育	60
顎顔面生理特論	12
顎口腔疾病特論	50
情報処理学	20
歯科技工特論	20
合計	2442

教務主任会議開催（新潟）。
11. 1 第２回海外研修旅行が実施された。
（ロサンゼルス６泊８日）
10. 2. 5 野首孝祠学校長が教育助成金を関連団体に依頼。
2. 16 教授要綱（シラバス）が承認された。
3. 30 野首孝祠教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に栗栖浩二郎教授が補せられた。
〃 歯学部附属病院の技官（歯科技工士）１名の預かりを終了した。
4. 1 平成 10 年度入学者より授業料が改定（年額 84,00 円）。
5. 1「学生研修旅費」（＝学外見学費）
野首孝祠教授が学校長を免ぜられ積算が半額になる。
6. 8 林克哉教務主任（専任教官・講師）が第７回中國先進醫療機械設備展覧會技術交流會（北京＝中華人民共和国）参加、ならびに第四軍医大学口腔医学院（西安）を表敬訪問した。（6/7 ～ 12）
6. 12 学校教育法等の一部改定（法第 82 条の 10）により専修学校の専門課程（修業年限２年以上であることその他文部大臣の定めるところにより、大学に編入学することができることになった。）
11. 6 第３回海外研修旅行が実施された。
（ロサンゼルス６泊８日）
11. 20 第 22 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（広島）。
11. 4. 1 授業（歯科技工実習）の一部を 37 年間にわたり、附属病院の総合技工室の中の一つである矯正科技工室で実施していたが、本校の施設内で行うことになった。
4. 13 林克哉教務主任（専任教官・講師）が関西地区歯科技工士学校連絡協議会より海外研修（ケルン･フランクフルト＝ドイツ）に派遣された。
5. 1「学生研修旅費」（＝学外見学費）
及び「学生被服費」の予算項目が削除された（文部省積算前年度限り）。
5. 14 第４回海外研修旅行が実施された。
（ロサンゼルス６泊８日）
5. 20 平成 12 年度入学者より入学金が改定される（30,000 円）。
5. 28 厚生省の専門委員会が歯科衛生士学校の修学年限を２年から３年に延長する意見書を提出。
10. 29 第 25 回全国国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議開催（東北）。
12. 3. 30 栗栖浩二郎教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に髙橋純造教授が補せられた。
4. 1 歯学部の大学院重点化により“大阪大学大学院歯学研究科”に改組。
5. 19 第５回海外研修旅行が実施された。
（ロサンゼルス６泊８日）
10. 20 平成 12 年度国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議。
11. 19 歯科技工士学校創立 40 周年の式典を挙行した。
13. 11. 16 平成 13 年度国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議。
14. 3. 30 髙橋純造教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に雫石聰授が補せられた。
5. 12 平成 14 年度全国歯科技工士教育協議会。
5. 16 第７回海外研修旅行が実施された。
（ロサンゼルス７泊９日）
8. 2 平成 14 年度関西地区歯科技工士学校連絡協議会。
8. 9 平成 14 年度国立大学歯学部附属歯科技工士学校教官会議。
11. 7 平成 14 年度国立大学歯学部附属歯科技工士学校教務主任会議。
11. 8 平成 14 年度国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議。
15. 5. 15 第８回海外研修旅行が実施された。
（ロサンゼルス７泊９日）
〃 平成１５年度全国歯科技工士教育協議会（5 月 15 日、16 日）
10. 17 平成１５年度国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議。
16. 3. 30 雫石聰教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に高田健治授が補せられた。
平成 16 年４月１日をもって独立行政法人に移行したことに伴い大阪大学
4. 1 歯学部附属歯科技工士学校学則（一部改正）。
5. 13 第９回海外研修旅行が実施された。
（ロサンゼルス７泊９日）
11. 4 国立大学法人歯学部附属学校長・教務主任会議。
5 平成 16 年度国立大学歯学部附属学校長・教務主任会議。
17. 3. 31 高田健治教授が学校長を免ぜられた。
4. 1 学校長に矢谷博文授が補せられた。

5. 9 平成 17 年度第 1 回教務主任会議。
5. 12 平成 17 年度全国歯科技工士教育協議会（5 月 12 日、13 日）
5. 18 第 10 回海外研修旅行が実施された。（ロサンゼルス 6 泊 8 日）
8. 5 平成 1 7 年度関西地区歯科技工士学校連絡協議会。
10. 1 入学料及び授業料の徴収・免除基準等の見直しのため大阪大学歯学部附属歯科技工士学校学則（一部改正）
10. 21 平成 17 年度国立大学法人歯科医療従事者養成機関担当者会議（大阪）。

18. 3. 30 矢谷博文教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に前田芳信授が補せられた。
5. 11 平成 18 年度全国歯科技工士教育協議会（5 月 11 日、12 日）
5. 18 第 11 回海外研修旅行が実施された。（ロサンゼルス 7 泊 9 日）
8. 4 平成 18 年度関西地区歯科技工士学校連絡協議会。
10. 16 平成 18 年度国立大学法人歯科医療従事者養成機関担当者会議。

19. 4. 1 授業料の納付時期の変更のため大阪大学歯学部附属歯科技工士学校学則（一部改正）。
5. 10 平成 19 年度全国歯科技工士教育協議会（5 月 10 日、11 日）
17 第 12 回海外研修旅行が実施された。（ロサンゼルス 7 泊 9 日）
8. 3 平成 19 年度関西地区歯科技工士学校連絡協議会。
10. 21 平成 19 年度国立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議。
12. 26 学校教育法の一部改正のため大阪大学歯学部附属歯科技工士学校学則（一部改正）。

20. 3. 30 前田芳信教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に荘村泰治教授が補せられた。
横山菜穂子専任教官（講師）が辞職した。
4. 1 専任教官（講師）に北原一慶が就任した。
5. 15 第 13 回海外研修旅行が実施された。（ロサンゼルス 7 泊 9 日）
8. 9 平成 20 年度関西地区歯科技工士学校連絡協議会。
10. 19 平成 20 年度国立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議。

21. 5. 14 平成 21 年度全国歯科技工士教育協議会（5 月 14 日、15 日）。
8. 1 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校における授業料免除等に関する規定を整備するため、大阪大学歯学部附属
歯科技工士学校入学料免除・授業料免除等に関する選考基準及び内規を制定。また、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校入学料免除取扱要領廃止。授業料取扱規程廃止。授業料免除及び徴収猶予に関する規程及び選考基準の申し合わせ事項を廃止。
10. 17 第 7 回市民フォーラムにて、町博之専任教官が「入れ歯を作っているのは､だれ？」を講演。
10. 22 平成 21 年度国立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議
（10 月 22 日、 23 日）。
10. 第 14 回海外研修旅行が実施された。（ロサンゼルス 7 泊 9 日）

22. 3. 30 荘村泰治教授が学校長を免ぜられた。
3. 31 学校長に矢谷博文教授が補せられた。
4. 1 学科目及び授業時間数の見直しに伴う大阪大学歯学部附属歯科技工士学校学則一部改正。新しい学科として CAD/CAM 基礎工学、CAD/CAM 歯科技工学が取入れられた。
4. 27 平成 22 年度全国歯科技工士教育協議会（4 月 27 日、28 日）。
5. 22 第 15 回海外研修旅行が実施された。（ロサンゼルス 7 泊 9 日）
12. 19 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年の式典を挙行した。（シティプラザ大阪）

大阪大学歯学部附属歯科技工士学校・人事記録

年度	学校長	教務主任	専任教官（講師）		
35	松村　敏治　35. 4. 1	三木　敬一		川越　昌宣　35. 4. 28	
				〃　36. 3. 16	
36	〃	〃	真島　利雄　35. 4. 25	小倉　正彦　36. 3. 16	
			〃　36. 11. 15	〃　37. 3. 31	
37	〃　38. 3. 30	〃	鳥居　則成　36. 11. 16	溝口　修　37. 5. 1	
			〃　37. 9. 1		
38	河合庄治郎　38. 3. 31	〃	加藤　斉久　37. 9. 1	〃	
			〃　38. 9. 30		
39	〃	〃	大前　洋一　38. 10. 1	〃	
			〃		
40	〃	〃	〃　41. 1. 31	〃	
			斉藤　俊一　41. 2. 16		
41	〃	〃	〃　42. 4. 1	〃　42. 2. 28	
42	〃　43. 3. 30	奥野　善彦	柳田　重明　42. 4. 16	明石　貴雄　42. 4. 1	
			〃　43. 10. 31		
43	下總　高次　43. 3. 31	岡田　周造	代田　基朔　43. 11. 1	〃	
44	〃	〃	〃	〃　45. 2. 28	
45	〃　46. 3. 30	〃	〃	大谷　宏　45. 4. 1	
				〃　46. 10. 16	
46	河合庄治郎　46. 3. 31 47. 3. 30	奥野　善彦	〃	宇都宮　敏　46. 10. 16	
47	下總　高次　47. 3. 31	岡田　周造	〃	〃	
48	〃　49. 3. 30	宇都宮　敏	〃	〃　49. 4. 1	
49	河合庄治郎　49. 3. 31	代田　基朔	〃	宮本　昇　49. 4. 1	
50	〃	〃	〃	〃	
51	〃　52. 3. 30	宮本　昇	〃	〃　52. 4. 1	
52	下總　高次　52. 3. 31	大田　正一	〃	大田　正一　52. 4. 1	
53	〃　54. 3. 30	〃	〃　54. 3. 31	〃	
54	土谷　裕彦　54. 3. 31	〃	林　克哉　54. 4. 1	〃	
55	〃　56. 3. 30	〃		〃	
56	奥野　善彦　56. 3. 31	〃	〃	〃	
57	〃	〃	〃	〃	
58	〃	〃	〃	〃	
59	〃　60. 3. 30	〃	〃	〃　60. 3. 31	
60	作田　守　60. 3. 31	林　克哉	〃	中川　潤一　60. 4. 1	
61	〃	〃	〃	〃	
62	〃　63. 3. 30	〃	〃	〃	
63	丸山　剛郎　63. 3. 31	〃	〃	〃	

年度	学校長	教務主任	専任教官（講師）		
1	丸山　剛郎　2. 3. 30	〃	林　　克哉	林　　克哉	中村　康博　1. 5. 1
2	祖父江鎭雄　2. 3. 31	〃	〃	〃	〃
3	〃　　4. 3. 30	〃	〃	〃	〃　　3. 7. 31 横山菜穂子　3. 8. 1
4	岡田　　宏　4. 3. 31	〃	〃	〃　　3. 3. 31	〃
5	〃	〃	〃	町　　博之　5. 4. 1	〃
6	〃	〃	〃	〃	〃
7	〃　　8. 3. 30	〃	〃	〃	〃
8	野首　孝祠　8. 3. 31	〃	〃	〃	〃
9	〃　　10. 3. 30	〃	〃	〃	〃
10	栗栖浩二郎　10. 3. 31	〃	〃	〃	〃
11	〃　　12. 3. 30	〃	〃	〃	〃
12	髙橋　純造　12. 3. 31	〃	〃	〃	〃
13	〃　　14. 3. 30	〃	〃	〃	〃
14	雫石　　聰　14. 3. 31	〃	〃	〃	〃
15	〃　　16. 3. 30	〃	〃	〃	〃
16	高田　健治　16. 3. 31 17. 3. 31	〃	〃	〃	〃
17	矢谷　博文　17. 4. 1 18. 3. 30	〃	〃	〃	〃
18	前田　芳信　18. 3. 31	〃	〃	〃	〃
19	〃　　20. 3. 30	〃	〃	〃	〃　　20. 3. 31
20	荘村　泰治　20. 3. 31	〃	〃	〃	北原　一慶　20. 4. 1
21	〃　　22. 3. 30	〃	〃	〃	〃
22	矢谷　博文　22. 3. 31	〃	〃	〃	〃

大阪大学歯技会結成 30 周年のあゆみ

大正 15 年来の歯科技工士養成機関時代の同窓会「技研会」と昭和 35 年母校開校以来の同窓会「技学会」とが昭和 55 年の母校創立 20 周年記念時に統一され「大阪大学歯技会」が発足され現在に至っています。

（前 20 年間分は過去資料から抜粋）

【昭和56年】

3 月 29 日　母校創立 20 周年の各種記念事業を通じ、阪大技研会と阪大技学会の組織融合が計られ、新たに「大阪大学歯技会」として共通の同窓会同窓会組織が設立された。

会　　長　　西田圭介
副 会 長　　中谷昌弘・田中淳三
専務理事　　中西茂昭
監　　事　　嶋渡　壮・橋本　章
理　　事　　岩本欣久・太田紀明
　　竹内　清・森　正文
　　東　郁夫・能勢浩行
相 談 役　　太田正一

【昭和57年】

10 月 15 日　第 1 回学術講演会
「歯（H）の教え」
大阪歯科学院専門学校副校長
西嶋庄次郎先生

11 月 17 日　第 2 回学術講演会
「歯科技工理論の臨床応用の実際」
㈱昭和歯研社長　森田一人先生

【昭和58年】

1 月 19 日　第 3 回学術講演会
「金属焼付ポーセレンによる審美的回復の技工」
㈱大阪デンタルスタジオ
専務取締役技術部長　山本真先生

1 月 28 日　評議員会において、母校の吹田地区への新築移転、歯学部同窓会館新築竣工に対し、大阪大学歯技会より記念品「ホールロック」および金一封の贈呈を決定。

3 月 31 日　大阪大学歯技会報　創刊号　発行

5 月 7 日　総会において新役員決定
会　　長　　田中淳三
副 会 長　　大熊　昇・大番敏行
　　一棟徳和
専務理事　　中西茂昭
監　　事　　松村一郎・内田典夫
理　　事　　横山亜紀男・竹内　清
　　林　克哉・東　郁夫
　　能勢浩行・亀井百合子
議　　長　　山本靖廣
相 談 役　　太田正一

7 月 15 日　同窓会支部を設置を決定
北海道・東北支部
　支部長　近江忠義（本 2 期）
関東・東海支部
　支部長　宮地　清（本 3 期）
近畿・北陸支部
　支部長　安倍友明（本 1 期）
中国・四国支部
　支部長　栗山卓也（本 2 期）
九州・沖縄支部
　支部長　小山富夫（本 5 期）

8 月　歯技会報　第 2 号　発行

10 月 23 日　新学舎移転記念総会
校舎見学のあと総会、記念講演（河合庄治郎先生）とつづき、記念式典、祝宴と盛大に進められた。

12 月　歯技会報　第 3 号　発行

【昭和59年】

1 月 22 日　技同協（技工士学校同窓会連絡協議会）が発足
世話人として藤原（行岡）、速水（行岡）、麻生（大歯）、一棟（歯科学院）、田中（阪大）の 5 氏が、相談役として玉置先生（大歯）と奥野先生（阪大）が選出された。

3 月 19 日　23 期卒業生、技工実習成績優秀者に第 1 回歯技会賞が贈呈される。

7月　歯技会報　第4号　発行

11月11日　歯技会第1回記念学術大会
於…大阪ガーデンパレス
―会員発表―
1.「レジン重合収縮が金属床に及ぼす影響について」　川本（本20期）
2.「FRPフラスコを用いた重合法」　大西寛保（本10期）
3.「レギュレックスアタッチメントについて」　多賀義晃（本17期）
4.「コーヌス・テレスコープを用いた局部床義歯」　岸田正人（研22期）
5.「メタル接着性のある硬質レジン前装冠用レジンの維持接着法について」　川角正豊（本18期）
6.「バイオセラムインプラント上部補綴物の一製作法」　宮地清（本3期）
7.「加圧埋没機の効果について」　北尾彰久（本16期）
8.「HBV消毒剤が印象材および模型材に及ぼす影響」　森正文（本11期）、珍坂俊弘（本17期）
9.「静電法空気清浄機により捕集された技工室内浮遊粉塵粒子の分析」　宮地忠義（本5期）
10.「ビタVMKショルダーパウダーを使用した、カラーレス金属焼付ポーセレン冠の製作と臨床観察」　嶋渡　壮（選科）
※特別講演　「21世紀への道標…口の働きの再確認」
大阪大学歯学部教授　河村洋二郎先生
※懇親会（斎田先生の喜寿、太田先生の還暦を祝して）

【昭和60年】

1月　歯技会報　第5号　発行
3月30日　太田正一先生退官記念祝賀会
於…新大阪チサンホテル
太田先生記念講演　「温故知新・私の46年」
懇親パーティー

4月27日　総会にて役員改選
会　　長　　田中淳三
副 会 長　（広報　総務）　山本靖廣
（学術　福祉）　横山亜紀男
（会計　組織）　内田典夫
専務理事　（総括　庶務）　中西茂昭
理　　事　（総務）　林　克哉
（会計）　能勢浩行
（学術）　塩満晴雄
（広報）　町　博之
（福祉）　村上陸夫
（組織）　下条敬次郎
（庶務）　亀井百合子
監　　事　西田圭介・一棟徳和
相 談 役　太田正一
顧　　問　作田　守

7月　歯技会報　第6号　発行

7月20日　第1回技工研究談話会
於…モリタ　デンタルプラザ（江坂）
テーマ…最近の歯科事情を語る
1.「欧米の歯科事情とルネッサンスクラウン」
㈱モリタ　増田道夫課長
2.「ミッドウインター歯科学会に参加して」
中西茂昭（本5期）
3.「西独歯科事情」
一棟徳和（本9期）

10月19日　第2回技工研究談話会
於…モリタ
テーマ…私の日常歯科技工
1.「造形の基本」山本靖廣（本2期）
2.「総義歯の人工配列について」
渡辺克美（本16期）
※昭和60年度大阪大学歯学部附属歯科技工士学校　特別講演
於…歯学部4階大講義室
〔第1回〕　9月27日　「私の見聞きした海外の歯科事情」
㈱和田精密歯研研　専務取締役
中西茂昭先生
〔第2回〕10月11日「無機材料について」
新大阪歯科技工学院学院長
中沢省三先生
〔第3回〕11月29日「クラスプについて」
大阪大学歯学部補綴学第二講座教授
奥野善彦先生

11月17日　第2回歯技会学術大会

於…大阪・サニーストンホテル
—会員発表—
1.「分割ポストを応用した連結固定について」
和気坂六義（本 16 期）
2.「接着性レジンによる床の補強効果」
大番敏行（本 7 期）
3.「サンドブラストによる鋳造体の変形（特に接着ブリッジの製作にあたって）」
珍坂俊広（本 17 期）
森　正文（本 11 期）
多賀義晃（本 17 期）
4.「大きく見ながらミクロの技工」
大西和久（本 23 期）
川本浩司（本 20 期）
5.「ポリウレタンを応用したテレスコープクラウン『ソフトアタッチメント』について」
岸本真一（本 23 期）
6.「大阪府下地域別歯科技工所数について」
一棟徳和（本 9 期）
7.「金属焼付ポーセレン補綴物の破損例における修理（その一方法について）」
多賀義晃（本 17 期）
※特別講演　「21 世紀への道標…40 年の歩みより」
大阪大学歯科部口腔外科学第一講座教授
宮崎　正先生
※記念懇親会

【昭和61年】

2 月　歯技会報　第 7 号　発行

3 月 29 日　第 3 回技工研究談話会
於…江坂・サニーストンホテル
「歯科技工業の環境と展望」
田中淳三（本 1 期）

6 月 7 日　第 4 回技工研究談話会
1.「大学病院における顎顔面補綴」
東郁夫（研 12 期）
2.「ポーセレンワークにおけるサンドイッチシステム」
藤原芳生（本 12 期）

8 月　歯技会報　第 8 号　発行

9 月 20 日　第 5 回技工研究談話会
於…モリタ
テーマ…私の日常歯科技工
1.「前歯部に於ける硬質レジン前後冠のメタルフレームの形態について」
西　康文（本 20 期）
2.「技工の眼（あなたは右利き！左きき！）」
山田和彦（本 2 期）
※大阪大学歯学部附属歯科技工士学校特別講演
〔第 1 回〕 9 月 26 日 「補綴と口腔病変」
大阪大学歯学部部長（口腔病理学講座教授）
八木俊雄先生
〔第 2 回〕11 月 6 日 「歯科技工のモラル」
新大阪歯科技工士学院教務部長
太田正一先生
〔第 3 回〕12 月 5 日 「歯科技工士 50 年の歩み」
㈱昭和歯研代表取締役　森田一人先生

11 月 16 日　第 3 回学術大会
於…チサンホテル心斎橋
—会員発表—
1.「光重合レジンの特徴及び操作法」
大西和久（本 22 期）
2.「メタルボンド用セミプレシャス合金（Ag-Pd 合金＆ Pd 合金）の問題点とその対策」
黒田正道（本 17 期）
3.「顎欠損部のアンダーカットに維持を求めた顎補綴義歯の製作について」
経種順治（本 24 期）
4.「ポーセライト（コンポジット・ベイスドポーセレンベニヤセメント）を使用したコスメティックシェルの印象における一考察と作製方法」
竹内　積（本 5 期）
5.「レジン床義歯における人工歯の移動と適合性について」
杉田順弘（研 20 期）
6.「サンドイッチ・テクニックについて」
藤原芳生（本 12 期）
※特別講演　「こう変わる！交合への概念、新しい概念の臨床的生理交合」
大阪大学歯学部歯科補綴学第一講座
教授　丸山剛郎先生
※懇親パーティー

【昭和62年】

2 月 28 日　第 6 回技工研究談話会

於…モリタ
テーマ…私の日常歯科技工
1.「技工における精度について」
藤原芳生（本 12 期）
2.「接着ブリッジのメタルフレームに関する考察」
森　正文（本 11 期）

4 月 25 日　定例総会
於…江坂サニーストンホテル
※役員改選

会　　長	山本靖廣	
筆頭副会長	（総括）	中西茂昭
副 会 長	（広報担当）	竹内清
	（会計担当）	林克哉
	（学術担当）	大番敏行
専務理事	内田典夫	
会計理事	能勢浩行	
学術理事	多賀義晃	
広報理事	町　博之	
庶務理事	村上温子	
福祉理事	塩満晴雄	
組織理事	珍坂俊広	
評議員会議長	東　郁夫	
監　　事	大熊　昇・一棟徳和	
相 談 役	田中淳三	

8月1日、2日　第 9 回日本歯科技工学会
於…東京・全共連ビル
—歯技会会員による研究発表者—
大番敏行（本 7 期）、森　正文（本 11 期）、多賀義晃（本 17 期）、珍坂俊広（本 17 期）、川本浩司（本 20 期）、杉田順弘（研 20 期）、岸田正人（研 22 期）、町　博之（本 23 期）、川岡　浩（研 25 期）、松田　創（研 25 期）

8 月 20 日　歯技会報　第 9 号　発行

9 月 26 日　第 7 回技工研究談話会
於…モリタ第 2 ビル
私の日常歯科技工
1.「技工所経営とコンピューター」
釈　康祐（本 10 期）
2.「あなたの模型は清潔ですか？」
指輪光良（本 21 期）
3.「精度について　その 1」
藤原芳生（本 12 期）

11 月 15 日　※第 4 回阪大歯技会学術大会
於…江坂・サニーストンホテル
※特別講演　「21 世紀への道標」
—矯正歯科技工の観点より—
大阪大学歯学部歯科矯正学講座教授
作田　守先生
—会員発表—
1.「光重合レジンの普及にともなうポーセレンインレーの再考」
藤井　章（本 7 期）
2.「開面金冠人工歯の簡単な製作法」
岩田　清（本 9 期）
3.「中間支台歯を持つブリッジのソフトガム模型製作—分割復位式模型を用いて」
北尾彰久（本 16 期）
4.「ワイヤークラスプとレストの低温鋳接法に関する研究」
第 1 報　本法の紹介と各種鋳造機の応用について
第 2 報　適性鋳型温度についての検討
森　正文（本 11 期）
多賀義晃（本 17 期）
珍坂俊広（本 17 期）
町　博之（本 23 期）
5.「栓塞部を有する顎義歯を光重合レジンを用いて製作する一考察について」
倉根宏明（研 25 期）
荘司哲也（研 25 期）
6.「大阪府下地域別歯科技工所数について－その 2」
一棟徳和（本 9 期）
7.「マイクロ波重合用模型材の開発に関する研究」
杉田順弘（研 20 期）
8.「石膏模型表面の細菌による汚染について」
指輪光良（本 21 期）
※懇親パーティー

【昭和63年】

2 月 28 日　第 8 回技工研究談話会
於…モリタ
テーマ…21 世紀への準備
「技工社会と個人のとりくみについて」
—やりがい、生き甲斐、働きがい—
田中淳三（本 1 期）

4月16日　定例総会
於…江坂・サニーストンホテル

7月16日　第9回技工研究談話会
於…モリタ第2ビル
1.「技工料金保険制度内位置付けに見る今後の対応」
田中淳三（本1期）
2.「委託技工料金問題があなたにどう影響するか」
内田典夫（本6期）

8月6日、7日　日本歯科技工学会第10回学術大会
於…大阪国際交流センター
—歯技会会員発表—
1.「ネパールにおける歯科技工の現状と医療協力」
森　正文（本11期）
珍坂俊広（本17期）
2.「光重合レジン（トライアド）と流し込みレジン（パラプレス）による積層重合の研究」
その1　総義歯への応用
中島義明（選科）
内田多恵子（本7期）
3.「光重合レジン（トライアド）と流し込みレジン（パラプレス）による積層重合の研究」
その2　理工学的考察
中島義明（選科）
内田多恵子（本7期）
4.「鈎用コバルトクロム合金線の曲げ特性について」
森　正文（本11期）
珍坂俊広（本17期）
多賀義晃（本17期）
町　博之（本23期）
5.「吸水、急加熱による短時間鋳造法の研究　第3報　硬化時間の短縮における促進剤の及ぼす影響」
坂口賢司（本7期）
6.「硬質レジンFRPフレームの開発に関する研究」
杉田順弘（研20期）
7.「既製ワックスパターンによるクラウン・ブリッジ製作の一方法」
青木千春（研25期）
8.「口腔内細菌による石膏模型表面の汚染について」
指輪光良（本21期）
9.「チタンのロウ接について—赤外線ロウ接の検討—」
関谷鐵志（本11期）
10.「超弾性合金Ni-Tiを応用したロック型テレスコープクラウン」
森　正文（本11期）
珍坂俊広（本17期）
11.「アンケートからみた大阪府の歯科技工所の規模について」
一棟徳和（本9期）

10月　歯技会誌　第10号（創刊号）　発刊

10月16日　第5回歯技会学術大会
於…江坂・サニーストンホテル
※特別講演　「21世紀への道標」
—最近の新素材—
大阪大学歯学部歯科理工学講座教授
木村　博先生
※講演　「今、なぜ歯科審美か」
大阪大学歯学部附属歯科技工士学校長
丸山剛郎先生
—会員発表—
1.「光重合レジン（トライアド）と流し込みレジン（パラプレス）による積層重合の総義歯への応用」
中島義明（選）
内田多恵子（本7期）
2.「光重合レジン用FRPフレームの開発に関する研究」
杉田順弘（研20期）
3.「技工研修生の基礎実習における天然歯カービングの効果について」
—昭和63年大阪大学歯学部附属病院歯科技工研修生を対象として—
中臣勝彦（本23期）
4.「鈎用コバルトクロム合金線の曲げ剛性について」
森　正文（本11期）
多賀義晃（本17期）
珍坂俊広（本17期）
町　博之（本23期）
※懇親パーティー

【平成元年】

1月28日　第10回技工研究談話会
於…大阪・弥生会館
「21世紀への歯科技工を共に語る」
中西茂昭（本5期）

4月22日　定例総会
於…江坂・サニーストンホテル
※役員改選
会　　長　中西茂昭
副 会 長（筆頭）　内田典夫
副 会 長　森　正文
専務理事　　林　克哉
理　　事（学術）　岩田　清
理　　事（組織）　能勢浩行
理　　事（広報）　谷野定樹
理　　事（会計）　渡辺克美
理　　事（福祉）　寺石　勝
理　　事（庶務）　村上温子
評議員会議長　川端紘行
監　　事　大熊　昇・山田和彦
相 談 役　山本靖廣
顧　　問（常任）　田中淳三
顧　　問　西田圭介
参　　与　太田正一

7月1日　河合庄治郎先生受賞記念祝賀会
於…大阪・ロイヤルホテル
母校元学校長（本会名誉会員）河合庄治郎先生叙勲（勲三等旭日中綬章）

8月5日、6日　日本歯科技工学会第11回学術大会
於…日本都市センター
—歯技会員研究発表—
1.「マイクロ波重合注入式システムの開発に関する研究」
杉田順弘（研20期）
2.「学生の能力特性に関する多変量解析」
—第2報　昭和62年度入学生の卒業までの解析結果、及び次年度学生との比較—
一棟徳和（本9期）
3.「吸水・急加熱による短時間鋳造法の研究」
—第4報　加熱時間における鋳造精度—
坂口賢司（本8期）
谷内秀寿（本10期）
4.「鈎用コバルトクロム合金線の曲げ特性について」
—第2報—
多賀義晃（本17期）
5.「チタン合金のロウ接について」
—第2報—
関谷鐵志（本11期）
6.「義歯床用光重合レジンと流し込みレジンによる積層重合の開発」
—第3報　理工学的考察（その2）—
中島義明（選）
内田多恵子（本7期）

9月3日　第1回歯科技工臨床研究発表大会
歯科技工士学校同窓会連絡協議会（技同協）主催
於…新大阪・チサンホテル
—歯技会員発表—
1.「マイクロ波重合注入式システムの開発に関する研究」
杉田順弘（研20期）
2.「模型診断を見直す」
松浦久史（研19期）
3.「受注、販売業務におけるコンピューターの活用方法」
釈　康祐（本10期）
4.「コーヌスクローネ（難症例への対応）」
藤原芳生（本12期）

11月　歯技会誌　第11号　発刊

【平成2年】

1月27日　第11回技工研究談話会
於…大阪・弥生会館
1.「UBデンチャーシステムについて」
北村徳和（研26期）
2.「モルテノの使用法」
佐々木健一（本1期）

5月26日　定例総会
於…江坂・サニーストンホテル
※母校創立30周年並びに歯技会発足10周年記念事業実行委員会　発足

11月23日　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立30周年ならびに歯技会発足10周年記念事業
於…太閤園

記念事業当日役務分担

本　　部

大 会 会 長　祖父江　鎮雄
実行委員長　中西茂昭
実行副委員長　内田典夫（総括財務）
実行副委員長　森　正文（記念講演）
実行副委員長　林　克哉（式典祝宴）
講 演 担 当　岩田　清
会 計 担 当　渡辺克美
会 計 担 当　能勢浩行
受 付 担 当　寺石　勝
記念誌担当　谷野定樹
受付接待担当　村上温子
会 場 担 当　川端紘之
監　　事　大熊　昇
監　　事　山田和彦
相 談 役　山本靖廣
顧　　問　田中淳三
顧　　問　西田圭介
顧　　問　太田正一
来賓接待係　◎中島義明、○嶋渡　壮、
田中淳三、 山本靖廣、
山田和子、内田多恵子、
一棟徳和、 高橋恭子
受 付 係　中谷昌弘、 ○寺石　勝
……（来賓）
安部友明、 前川　昭、
◎谷野定樹……（メーカー）
橋本　章、宮地　清、
塩溝晴雄、井上和久、
西　康文、遠矢浩和、
下沢功招……（会員）
講 演 係　◎岩田　清、○田中譲司、
内山　茂、指輪光良、
中臣勝彦、藤井賢治
式 典 係　◎中川潤一、○中村康弘、
杉本　哲、本間　博
会 場 係　◎川端紘之、○早川正晃、
森本佳秀、東　郁夫、
宮内元輔、北口　勤、
後藤哲史
会 計 係　○能勢浩行、中屋郁雄
……（メーカー）
寺野憲治、笹谷和宏
……（会員）
◎渡辺克美、○大山ゆかり、
渡辺謙仁……（同窓会費）
記 録 係　竹内　清、◎大西正和、
大原信夫……（写真）
◎中島　徹、○志水　勝、
大番敏行……（ビデオ）

【平成 3 年】

3 月 22 日　技同協主催「第 2 回歯科技工臨床研究発表大会」に参加
〈於　行岡医療技術専門（大阪市）〉
○顎堤の変化に適応した人工歯配列
渡辺克美（16）
○スルホン義歯における局部床のクラスプ後付法—粘膜面側からの後付法—
杉田順弘（研 59）
○スルホン義歯における局部床のクラスプ後付法—人工歯側からの後付法—
楠　知恵（研 2）
○パルマドールを用いてプレーミングアーム部のミリングを簡素化する方法
黒田正道（研 53）

4 月 13 日　「平成 3 年度定例総会」を開催
〈於　江坂サニーストーン H（吹田市）〉
《改選役員》
会　　長　中西茂昭（5）
副 会 長　内田典夫（6）
副 会 長　森　正文（11）
専務理事　林　克哉（12）
会計理事　寺石　勝（29）
学術理事　渡辺克美（16）
広報理事　西　康文（20）
組織理事　渡瀬謙仁（29）
福祉理事　中川潤一（14）
庶務理事　大山ゆかり（25）
議　　長　藤井　章（7）
監　　事　大熊　昇（選科）
監　　事　山田和彦（2）
相 談 役　山本靖廣（2）
常任顧問　田中淳三（1）
顧　　問　西田圭介（選科）
参　　与　太田正一（選科）

11 月 1 日　会誌「大阪大学歯技会 1991 第 13 号」を刊行

【平成 4 年】

2 月 29 日　「第 13 回技工研究談話会」を開催
〈於　梅新プラザ H（大阪市）〉
○共通演題「歯周組織を考慮した補綴物の製作」
森　正文（11）
梁本　時君（12）

黒木　利実（23）

5月30日　「平成3年度定例総会」を開催
〈於　江坂サニーストーンH（吹田市）〉
会則の一部改正案を承認

9月15日　歯科技工士学校同窓会連絡協議会主催「歯科技工フォーラム」に参加
○基調発表　田中淳三（1）
○コーディネーター　中西茂昭（5）

9月23日　「第6回学術大会」の開催
〈於　江坂サニーストーンH（吹田市）〉
・特別講演「21世紀への道標―子供の口の健康のために―」
小児歯科学講座教授　祖父江鎮雄
・会員発表
○光重合型硬質レジン前装冠マージン部の審美改善
下澤　功招（17）
○遠心鋳造におけるスプルーイング
神谷　潤（16）
○新重合システム（DS-truster システム）によるレジン床の作製
杉田順弘（研56）
○合理的なワイヤークラスプの製作法
―技工術式の寸法安定性のよい蝋付・熱処理操作―
多賀義晃（17）
○接着ブリッジ・接着スプリントの臨床的検討
指輪光良（21）

11月1日　会誌「大阪大学歯技会1992第14号」を刊行

【平成5年】

2月27日　「第14回技工研究談話会」を開催
〈於　㈱モリタ大阪本社（吹田市）〉
○時局報告　中西　茂昭（5）
○ネイル美容と歯科との関係について
川本　浩司（20）

5月29日　「平成5年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　江坂サニーストーンH（吹田市）〉
《改選役員》
会　　長　中西　茂昭（5）
副 会 長　内田　典夫（6）
副 会 長　森　　正文（11）
副 会 長　渡辺　克美（16）
専務理事　林　　克哉（12）
総務理事　松田菜穂子（29）
会計理事　永間　千恵（29）
学術理事　下澤　功招（17）
広報理事　西　　康文（20）
組織理事　山本　康充（29）
福祉理事　寺石　　勝（29）
監　　事　大熊　　昇（選科）
監　　事　山田　和彦（2）
相 談 役　山本　靖廣（2）
常任顧問　田中　淳三（1）
顧　　問　西田　圭介（選科）
参　　与　太田　正一（選科）

8月7日　「第2回東京医科歯科大学技友会・大阪大学歯技会親睦会」を開催
（於　大阪市）

11月1日　会誌「大阪大学歯技会1993第15号」を刊行

【平成6年】

1月29日　「第15回技工研究談話会」を開
〈於　松下電器江坂ビル（吹田市）〉
○時局報告　中西茂昭（5）
○義歯床レジンの精度
・イボカップシステム
中川正史（研4）
・マイクロウエーブ法
多田広宣（研4）
・DSトランスターシステム
北原一慶（研62）
・イントプレスⅡシステム
楠　知恵（研2）　下澤功招（17）
・流し込み注入法
多賀義晃（17）

4月23日　「平成6年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　江坂サニーストーンH（吹田市）〉

11月1日　会誌「大阪大学歯技会1994第16号」を刊行

11月23日　技同協主催「第2回歯科技工フォーラム」

へ参加

【平成７年】

5月13日　「平成７年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　江坂サニーストーンH（吹田市）〉
「第16回技工研究談話会」を開催

11月12日　「第７回大阪大学歯技会学術大会」を開催
〈於　江坂サニーストーンH（吹田市）〉
・特別講演
「21世紀への道標―歯槽膿漏って何～に」
口腔治療学講座教授　岡田　宏
・会員発表
○技工作業におけるエアーの新活用法
坂口　賢司（7）
○歯科技工室の感染防止対策
大西　正和（10）
○クラウン・ブリッジにおけるセメント合着についての一考察
黒木　利実（23）　大塚　正季（29）
○当科における最近の矯正技工法
境　潤哉（31）
○臼歯部補綴物における近似的下部鼓形空隙の製作法
大槇　剛（32）

11月1日　会誌「大阪大学歯技会1995第17号」を刊行

【平成８年】

5月12日　「平成８年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　㈱モリタ第２ビル（吹田市）〉
《改選役員》
会　　長　内田　典夫（6）
副 会 長　森　　正文（11）
副 会 長　渡辺　克美（16）
専務理事　林　　克哉（12）
総務理事　松田菜穂子（29）
会計理事　永間　千恵（29）
学術理事　指輪　光良（21）
広報理事　西　　康文（20）
組織理事　境　　潤哉（31）
福祉理事　寺石　　勝（29）
監　　事　大熊　　昇（選科）
監　　事　山田　和彦（2）
相 談 役　中西　茂昭（5）
顧　　問　田中　淳三（1）
顧　　問　山本　靖廣（2）
参　　与　西田　圭介（選科）
参　　与　太田　正一（選科）

8月31日　「大阪大学歯技会地方懇親会」を開催
〈於　広島市〉

11月1日　会誌「大阪大学歯技会1996第18号」を刊行

【平成９年】

2月1日　「第17回技工研究談話会」を実施
〈於　㈱モリタ本社（吹田市）〉
○各種オールセラミックレストレーションシステムの紹介とワンポイントアドバイス
尾形　暁信（研4）
林　善隆（研4）
○キャスティングシステムにおけるリングレス鋳造によるオールセラミック修復物の適合性について
中臣　勝彦（23）
○コバルトクロム合金鋳造体における鋳肌面の改善法
多賀　義晃（17）
○やさしく活かす技工
稲原　昇（6）

8月1日　「平成９年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉

8月2日　「第３回東京医科歯科大学技友会・大阪大学歯技会親睦会」を開催
〈於　大阪市〉

11月1日　会誌「大阪大学歯技会1997第19号」を刊行

【平成10年】

1月　「第18回技工研究談話会」を開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉
○3i（ブローネマルクタイプ）
黒木　利実（23）
○IMZについて
町　博之（23）
○ITIについて
姜　成道（21）

5月24日　「平成10年度定例総会・評議員会」ならびに「第8回大阪大学歯技会学術大会」を同時開催
〈於　江坂サニーストーンH（吹田市）〉
・特別講演
「21世紀への道標―審美を考慮したインプラント上部構造体」
（有）カロス　デンタル　ジャパン
増田長次郎
・会員発表
○キャスミックシステムにおけるアーニング条件について
尾形　暁信（研4）
林　善隆（研4）
中臣　勝彦（23）
多賀　義晃（17）
○石膏模型の精度
中川　正史（研4）
○総義歯の変形について
北原　一慶（研62）
○レジン床義歯の適合性について
杉田順博（研56）
○海外で活躍している日本人歯科技工士
一棟　徳和（9）

10月31日　「大阪大学歯技会地方懇親会」を開催
〈於　横浜市〉

11月1日　「大阪大学歯技会1998第20号」を刊行

【平成11年】

1月30日　「第19回技工研究談話会」を開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉
○共通演題「歯科技工における感染予防対策」
中澤　純也（研8）
渡辺　克美（16）
森　正文（11）
コーディネーター　大西　正和（10）

5月29日　「平成11年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　北大阪緑地駅ビル（豊中市）〉
《改選役員》
会　　長　森　　正文（11）
副 会 長　大西　正和（10）
副 会 長　指輪　光良（21）
専務理事　渡辺　克美（16）
会費会計理事　石田　真里（33）
一般会計理事　石田　美保（34）
学術理事　吉川　昇平（23）
広報理事　大槇　剛（32）
組織理事　境　潤哉（31）
福祉理事　寺石　勝（16）
監　　事　大熊　昇（選科）
監　　事　山田　和彦（2）
相 談 役　内田　典夫（6）
顧　　問　田中　淳三（1）
顧　　問　山本　靖廣（2）
顧　　問　中西　茂昭（5）
参　　与　西田　圭介（選科）
参　　与　太田　正一（選科）

8月21日　「第4回東京医科歯科大学技友会・大阪大学歯技会親睦会」を開催
〈於　吹田市〉

11月1日　会誌「大阪大学歯技会1999第21号」を発行

【平成12年】

1月29日　「第20回技工研究談話会」を開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉
○共通演題「スポーツ歯学『マウスガードの製作法』」
松田　信介（研修生）　町　博之（23）
○最新歯科材料情報
パナソニックヘレウスデンタル株式会社

5月14日　「平成12年度定例総会・評議員会」を開催
「母校創立40周年ならびに歯技会発足20周年記念事業実行委員会」を結成
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉

7月30日　「第2回実行委員会」開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉

9月10日　「第3回実行委員会」開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉

10月29日　「第4回実行委員会」開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉

11月16日　「第5回実行委員会」開催

〈於　オオサカサンパレス（吹田市）〉

11 月 19 日　「母校創立 40 周年ならびに歯技会発足 20 周年記念式典」を挙行
〈於　オオサカサンパレス（吹田市）〉

【平成13年】

1 月 28 日　〈於　㈱ジーシー大阪営業所（中央区）〉
「第 21 回技工研究談話会」を開催
「次世代コンピューター支援技工システム DENTAL CAD/CAM GN-1 のすべて」
若尾　輝樹・岡田　哲也（㈱ジーシー SP 部 ME 機器課）
「第 6 回記念事業実行委員会」（母校 40 周年ならびに歯技会 20 周年記念）を開催。
監査と決算〈記念事業残金 85 万円を、歯技会賞基金に 35 万円・記念事業積立金に 50 万円として支出を承認〉

1 月 28 日　「新入会員歓迎会　会員懇親会」〈於　志な乃亭〉

5 月 13 日　「平成 14 年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉

11 月 1 日　会誌「大阪大学歯技会 2001 第 23 号」を刊行

【平成14年】

1 月 27 日　「第 22 回技工研究談話会」を開催
〈於　イーストホテル（北区）〉
○「私のラボワーク」
松山　和也（21）
梁本　時君（12）
○「新陶材 ゼオライト」
高橋　久（山本貴金属学術部）
及びテーブルクリニック　同上

5 月 12 日　「平成 14 年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　北大阪急行緑地駅ビル（豊中市）〉

5 月 12 日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　白木屋（豊中市）〉
《改選役員》
会　　長　渡辺　克美（16）
副 会 長　寺石　　勝（16）
副 会 長　指輪　光良（21）
副 会 長　吉川　昇平（23）
専務理事　西　　康文（20）
研修担当理事　神谷　　潤（16）
学術理事　松山　和也（21）
学術理事　黒木　利実（23）
学術理事　大塚　正季（29）
組織理事　境　　潤哉（31）
会誌広報理事　大槙　　剛（32）
会計理事　石田　真里（33）
会計理事　石田　美保（34）
福祉理事　藤岡　千恵（37）
監　　事　中島　義明（選科）
監　　事　大西　正和（10）
相 談 役　森　　正文（11）

8 月 25 日　「祝・日技会長就任 中西茂昭氏を励ます会」を開催
〈於　ハートンホテル西梅田（北区）〉

11 月 1 日　会誌「大阪大学歯技会 2002 第 24 号」を刊行

【平成15年】

1 月 26 日　「第 23 回技工研究談話会」を開催
〈於　イーストホテル（北区）〉
○私のラボワーク 2
「義歯床変形の修正」
植田　秋生（23）
「SO インジェクションシステムについて」
黒木　利実（23）
○「フィジオロジックシステムによる義歯について」（新硬質レジン歯デュラクロスフィジオを用いた義歯製作法）
横江　公司・大西　和久
（株式会社　ニッシン）

6 月 1 日　「平成 15 年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　ドーンセンター（中央区）〉

6 月 1 日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　志な乃亭（中央区）〉

8 月 28 日　「中西茂昭氏を支援する会」有志により発足

9 月 27 日　「大阪大学歯技会臨時評議員会」を開催
「中西茂昭氏を支援する会」を同窓会として認知することに決定

11月1日　会誌「大阪大学歯技会2003第25号」を刊行

【平成16年】

4月18日　「技同協設立20周年記念祝賀会」へ参加
〈於　新大阪ガーデンパレス〉

5月16日　「平成16年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　ドーンセンター（中央区）〉

5月16日　大阪大学歯技会第9回学術大会を開催
〈於　ドーンセンター（中央区）〉
・特別講演
「診療他科と歯科技工」
森下　裕司先生
（愛知医科大学歯科口腔外科技工室）
・会員発表
○「マウスガード用作業模型に関する考察」
町　博之（23）
○「義歯洗浄剤による銀合金の腐食について考える」
小山　潤（研H12）
○「完成歯科技工物の消毒」
大西　正和（10）

5月16日　「新入会員歓迎会および中西氏を励ます会」を開催
〈於　ドーンセンター（中央区）〉

11月1日　会誌「大阪大学歯技会2004第26号」を刊行

【平成17年】

2月6日　「第24回技工研究談話会」を開催
〈於　ドーンセンター（中央区）〉
○「硬質レジン築盛時におけるコアを使った省力法の可能性」
境　　潤哉（31）
○「21世紀の・ひとにやさしい・歯冠修復を実現する」—エステニアC&Bによる最新の審美修復治療—
藤岡　千恵（37）
○「CAD/CAMによるセラミックコーピング製作システム」—セレックin Lab—
㈱モリタ　企画開発部

6月5日　「平成17年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　ドーンセンター（中央区）〉

6月5日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　志な乃亭（中央区）〉

《改選役員》
会　　長　渡辺　克美（16）
副 会 長　寺石　　勝（16）
副 会 長　指輪　光良（21）
副 会 長　吉川　昇平（23）
専務理事　西　　康文（20）
総務理事　神谷　　潤（16）
学術理事　松山　和也（21）
渉外理事　大塚　正季（29）
組織理事　境　　潤哉（31）
広報理事　大槙　　剛（32）
会計理事　石田　真里（33）
会計理事　藪本　圭以子（42）
監　　事　嶋渡　　壮（選科）
監　　事　大西　正和（10）
相談役　森　　正文（11）

9月　日　「第1回国立歯科技工士学校同総会連絡会」を開催
〈於　東京医科歯科大学付属病院内会議室〉

11月1日　会誌「大阪大学歯技会2005第27号」を刊行

【平成18年】

6月11日　「平成18年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

6月11日　「第25回技工研究談話会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉
○「いまさら聞けない技工の話－歯冠修復の流れを知ろう」
小山　潤（研H12）
○「月刊デンタルパワー『院長のバカヤロ～』より」
谷内秀寿（10）
○「睡眠時無呼吸症候群と口腔内装置」
大西正和（10）

6月11日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

9月18日　「第2回国立歯科技工士学校同総会連絡会」を開催
〈於　広島国際会議場（広島市）〉

9月18日　「東京医科歯科大学技友会・大阪大学歯技会懇親会」を開催
〈於　広島市内〉

11月1日　11月1日　会誌「大阪大学歯技会2006第28号」を刊行

【平成19年】

6月17日　「平成19年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

6月17日　「第26回技工研究談話会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉
○「歯科医師になって思うこと～チェアーサイドからラボへ伝えたいこと」
木林　博之（22）

6月17日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

9月23日　「第3回国立歯科技工士学校同総会連絡会」を開催
〈於　仙台市民会館（仙台市）〉

11月1日　会誌「大阪大学歯技会2007第29号」を刊行

【平成20年】

7月6日　平成19年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉
《改選役員》
会　　長　指輪　光良（21）
副 会 長　寺石　　勝（16）
副 会 長　西　　康文（20）
専務理事　吉川　昇平（23）
総務理事　松山　和也（21）
学術理事　町　　博之（23）
渉外理事　大塚　正季（29）
組織理事　境　　潤哉（31）
広報理事　上原　禎治（22）
会計理事　藤本　美紀（37）
会計理事　山口　静穂（42）
監　　事　田中　淳三（1）
監　　事　森　　正文（11）
相 談 役　渡辺　克美（16）

7月6日　「第27回技工研究談話会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉
○ノリタケカタナシステムとジルコニアの基礎知識
㈱ノリタケデンタルサプライ
名倉 拓良
○歯冠修復素材ジルコニアの現状と新素材「ナノZR」
パナソニックデンタル株式会社
田端 宏光

7月6日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

8月18日　会員だより85号発行

11月1日　会誌「大阪大学歯技会2008第30号」を刊行

11月22日　「第4回国立歯科技工士学校同窓会連絡会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

【平成21年】

6月21日　6月21日　「平成21年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

6月21日　「第28回技工研究談話会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉
○「私の携わるCAD/CAM技工の実際“3M LAVA SYSTEM”」　横山　瞳（41）
○「現在の病院研修制度について」
常藤　洋平（研H14）

6月21日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

8月1日　会員だより856発行

11月1日　会誌「大阪大学歯技会2009第31号」を刊行

11 月 7 日　「第5回国立歯科技工士学校同総会連絡会」を開催
〈於　福岡技工学会会場（福岡市）〉

【平成22年】

5 月 16 日　「平成 19 年度定例総会・評議員会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉

5 月 16 日　「第 26 回技工研究談話会」を開催
〈於　大阪大学中之島センター（北区）〉
「技工室の新しい取り組み」新井　恵（46）
「簡便な中空型顎義歯の作成方法について」
嶋本政嗣（研 62）

5 月 16 日　「懇親会・新入会員歓迎会」を開催
〈於　ﾚｽﾄﾗﾝ・ｲﾝﾊﾞｰﾙﾃﾞｨﾌﾟﾝﾄ（北区）〉

6 月 1 日　会員だより 87 号発行

9 月 23 日　「第6回国立歯科技工士学校同総会連絡会」を開催
〈於　（名古屋市）〉

12 月 19 日　「大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年ならびに大阪大学歯技会発足 30 周年記念事業」
記念式典
記念講演
記念祝賀会
会誌「大阪大学歯技会 2010 第 32 号」を刊行

○記念事業関係

3 月 27 日　「第 1 回実行委員会」開催（ドーンセンター）

5 月 16 日　「第 2 回実行委員会」開催（中之島センター）

6 月 12 日　「第3回実行委員会」開催(大阪ドーンセンター)

7 月 10 日　「第 4 回実行委員会」開催（エル大阪）

9 月 4 日　「第 5 回実行委員会」開催（ドーンセンター）

10 月 9 日　「第 6 回実行委員会」開催（ドーンセンター）

11 月 13 日　「第 7 回実行委員会」開催（ドーンセンター）

12 月 11 日　「第 8 回実行委員会」開催（ドーンセンター）

歯技会　会員状況表

平成 22 年 8 月現在

学校卒業生

期	会員	物故者	住所不明者	海外会員
選科	21	17		
1期	16	2	2	
2期	15	1	2	
3期	15	3	5	
4期	18	1	2	1
5期	18	2	3	1
6期	20		2	
7期	12	3	2	
8期	15	2	2	
9期	16	1	4	
10期	18		5	
11期	18	1	2	
12期	18		1	
13期	18		4	
14期	17	1	7	
15期	15		6	
16期	16		5	
17期	12		3	
18期	19		3	1
19期	17		3	
20期	14		3	
21期	16		4	
22期	17		9	
23期	18	1	6	
24期	17	1	10	
25期	15		3	
26期	20		7	
27期	17	1	7	
28期	20		13	
29期	17		9	
30期	16		6	
31期	18		5	
32期	17		4	
33期	20		8	
34期	16		9	
35期	18		9	
36期	20		2	
37期	17		3	
38期	17		8	
39期	16		3	
40期	17		6	
41期	20		5	
42期	18		4	
43期	12		2	
44期	17		4	
45期	20		5	
46期	17		3	
47期	20			
48期	18			
49期	17			
合計	856	37	220	3

研修生

期	会員	物故者	住所不明者	海外会員
S・45	2			
S・46	2			
S・47	3		1	
S・48	6			
S・49	4			
S・50	8	1	2	
S・51	5		1	
S・52				
S・53	2		1	
S・54	2		2	
S・55	5		1	
S・56	5	3	1	
S・57	6		3	
S・58	8		2	
S・59	10	1	4	
S・60	13		7	
S・61	13		6	
S・62	9	1	3	
S・63	9		4	
H・元	8		2	
H・2	6		3	1
H・3	12		4	
H・4	10		6	1
H・5	4		1	
H・6	2			
H・7	7		1	
H・8	2			
H・9	1		1	
H・10				
H・11				
H・12				
H・13				
H・14	11		2	
H・15				
H・16	3		1	
H・17	8		2	
H・18	1			
H・19				
H・20	2			
H・21				
H・22				
合計	189	6	61	2

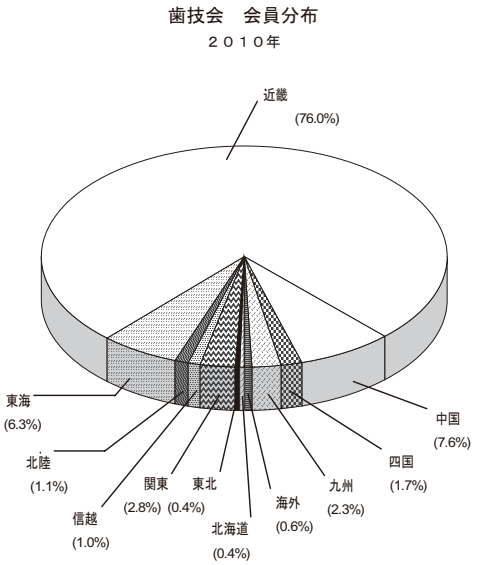
歯技会　会員分布

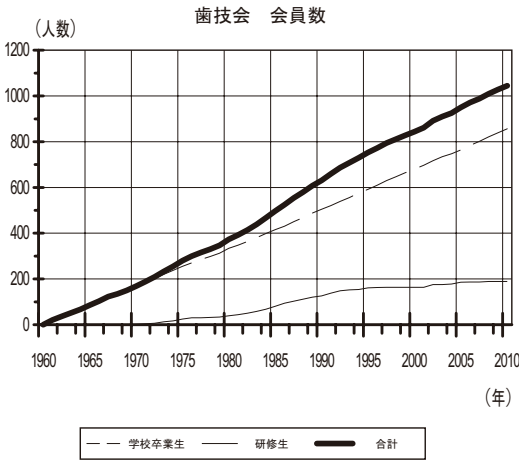
2010 年

地域名	人数	都道府県名	人数
北海道	3	北海道	3
東北	3	青森県	1
		岩手県	1
		福島県	1
関東	23	群馬県	2
		埼玉県	4
		千葉県	3
		東京都	10
		神奈川県	4
信越	8	新潟県	1
		山梨県	2
		長野県	5
北陸	9	石川県	5
		福井県	4
東海	52	岐阜県	6
		静岡県	9
		愛知県	30
		三重県	7
近畿	631	滋賀県	26
		京都府	38
		大阪府	372
		兵庫県	136
		奈良県	44
		和歌山県	15
中国	63	鳥取県	3
		島根県	6
		岡山県	20
		広島県	26
		山口県	8
四国	14	徳島県	3
		香川県	9
		愛媛県	1
		高知県	1
九州	19	福岡県	10
		長崎県	4
		鹿児島県	4
		沖縄県	1
海外	5	アメリカ合衆国	2
		カナダ	1
		ドイツ	1
		台湾	1
合計	830		830

2000 年

地域名	人数	都道府県名	人数
北海道	2	北海道	2
東北	1	青森県	1
関東	19	群馬県	2
		埼玉県	4
		千葉県	1
		東京都	10
		神奈川県	2
信越	6	新潟県	1
		山梨県	2
		長野県	3
北陸	7	石川県	5
		福井県	2
東海	47	岐阜県	4
		静岡県	11
		愛知県	24
		三重県	8
近畿	529	滋賀県	17
		京都府	37
		大阪府	311
		兵庫県	117
		奈良県	32
		和歌山県	15
中国	63	鳥取県	4
		島根県	6
		岡山県	18
		広島県	26
		山口県	9
四国	19	徳島県	2
		香川県	10
		愛媛県	6
		高知県	1
九州	26	福岡県	12
		長崎県	3
		熊本県	1
		大分県	1
		宮崎県	1
		鹿児島県	5
		沖縄県	3
海外	8	アメリカ合衆国	4
		カナダ	1
		ドイツ	1
		台湾	2
合計	727		727





（2010 年、2000 年ともに住所判明者のみ）

回　顧　録

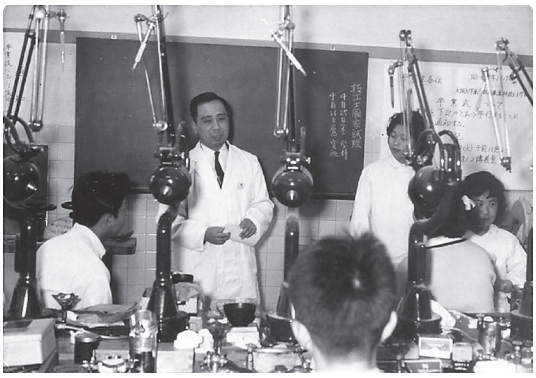
「50 年前に入学して」

1 期生　津田　靖子

昭和 35 年は、まさに 60 年安保の年で、他大学に入った友人達は、大阪城での反対デモに参加した等と言っていた。しかし私達、7 人の女子を含む 20 人は、歯学部付属病院と言う象牙の塔の中で大切に守られて学んでいた。その前年には皇太子のご成婚があり、民間人だった美智子妃殿下は大人気で、ミッチーブームの真っただ中、最初の女性週刊誌、「女性自身」が発刊された。その時から、会社員の女性のことを O.L と呼ぶようになった。

当時の永井巖歯学部長のもと、補綴の河合教授、三木助教授、そして、まだ講師だった奥野先生を中心に、歯学部全体が力を入れて下さり、最初の授業は各研究室の教授の講義で、4 月末にスタートした。

（技工臨床実習　（故）河合庄次郎教授、山本先生）

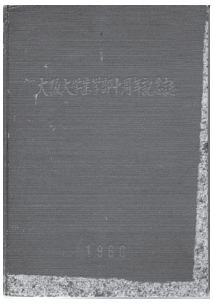


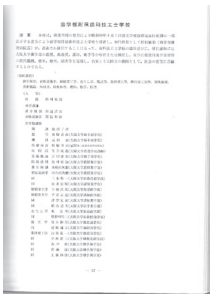
（三木　助教授）

国からの奨学金として毎月 800 円を受け取り、そのうち 600 円は月賦（今で言うローン）で技工実習用の道具を買い、残りの 200 円は、自分たちで話し合って卒業旅行の為に積み立てることにした。

その年の秋、歯学部は創立 10 周年を迎え、堂島川に面した病院玄関前の空き地にテントを張って記念式典が開催された。私達技工士学校生も招かれて、未成年だからとジュースで乾杯した。

（歯学部創立 10 周年記念式典　昭和 35 年 10 月）





講義の内容は、国語、数学、理科、体育等の一般的な教養科目の他、歯牙解剖、歯科理工学等の専門的な科目等が有り、歯牙解剖では、歯冠形成等の実習等が目新しく、難しさもありながらワックスや石膏の扱い方にも慣れていった。実技の指導は、主に斎田先生がされ、2 年目からは技工室の太田先生や、小谷先生から臨床的な技術を習う様になった。

歯科理工学を教わる高田先生は、何時も右手を白衣のポケットに入れていて、左手でチョークを持って字を書く人だった。私達は、研究室に押しかけて、猫の脳に針を刺して神経の反射を見る実験を見せて貰ったりした。月曜日の１時間目の数学の奥野先生は、遅刻の常習者で、私達は教室の窓から覗いてタクシーで来る先生を待っていたものだ。

翌年に２期生が入ってきて、やっと 40 人になり賑やかになったが、女子は２人しかいなかった。男子は、やんちゃが多く、温和しい１期生男子とは好対照だった。３階の踊り場にある卓球台でのメンバーも増えて、時々うるさいと注意されながらも活気の有る学生生活になった。当時は２期制で、後期には自治会らしきものも形をなしてきた。有志と言っても、ほとんどが２期生男子に私も入って数人で事を進め、２期生の稲野君を会長に選んだ。何時も、人の意見を黙って「フン、フン、」と聞いてくれてすっきりさせられる。しかし、最後には、いつの間にか彼の意見になっている、と言う不思議な能力の持ち主だった。そして、会則を作ることになった。　最初簡潔なものが良いと思い、18 条程の会則を提案決めて運用したが、色々な事を進める内に、大まか過ぎると誰かが言いだし、又又遅くまで残って検討して、出来上がったら、60 条にもなってしまった。これも使い難く、事に当たる度に条文を調べるのが、大変だった。

スッタモンダしながら３期生を迎え、色々な個性の人達と楽しい学生生活が過ごせた。

その間、クリスマス会をすると、催眠術を披露する３期生が居たり、看護学校生と合同でダンスパーティーを催したりと、楽しんだ。ある時、学生としての要求を学校側に突き付けて先生方を戸惑わせたりした。

２年度が終わる３月に積み立てたお金を使って卒業旅行をしたいと申し出た所、学校側はそんなことは予定にないと一旦は拒否したが、その後、今回に限り、河合・奥野両先生の引率の下でならと言う条件で OK が出た。

コースや宿の手配、予約などは、全部田中君始め男子がしてくれて、帰阪後の、レントゲン室を借りての写真の現像、焼きつけ、焼き増しなど迄、まったくの手作りの卒業旅行となった。このときは、一期生の男子は、温和しいだけでなく頼もしい人達だと思った。コースは、富士五湖めぐりと伊豆半島を一周する、車中泊を含めた、確か５泊６日だったと思うが、引越し続きで手元には資料もなく、記憶に頼ることになる。確かなことは、富士五湖を回る間は、雪を戴いた富士山がずっと晴れた青空に映えて、その美しさを満喫できた事と、学割と当時あった周遊券をフルに利用して、全部で 8000 円以下で済んだことである。何しろ昭和 37 年当時は、一晩 500 ～ 800 円で泊まれたのだから。伊豆半島は、東側の伊東温泉から最南端の石廊崎・下田を通り、天城峠から修善寺等に泊まった。そのころ、三浦洸一の「踊り子」と言う歌謡曲が流行っていて、河端康成の「伊豆の踊子」に思いを馳せながら伊豆・修善寺を堪能することができた。やはりこの旅は、未だに技工士学校での最大級のイベントとして心に残っている。

（富士山　夜行列車「月光」より）

（卒業旅行　河口湖天上山展望台）

この頃、当時の皇太子ご夫妻（今は平成天皇・皇后陛下）が国際見本市に行かれる為、
近くの新大阪ホテルに泊まられたので、朝のお発ちの時、太田先生にねだって実習を抜け出して、見に行った。その後歯学部の西側にロイヤルホテルが建ち、皇室の方々はそちらに泊まられる様になった。

昭和 36 年に第二室戸台風に襲われた中之島は浸水し、以後は地盤沈下もあって、防潮堤は高くなり、下の道からは川向うが見通せなくなった。かつて、堂島側を挟んで、北側に医学部付属病院、南側には本部、医学部・理学部・松下幸之助寄付による大講堂等が並び、田蓑橋を白衣をひるがえして阪大関係者が行き交っていた、さながら阪大の城下町と言った風情は、今は千里に移転したしまった。跡地は、様変わりしてしまい、地下には京阪新線が通って、又新しい街ができようとしている。中之島を代表していた大ビルも取り壊されて、形を変えて存続すると言う。半世紀というのはや

はり長いものだと思う。以後の半世紀は、残念ながら見ることは出来ないが、
私は、この 50 年の重みを受け止めて残りの人生を大切に生きたいと思う。

（昭和 40 年頃 4 月 西区うつぼ公園　同窓会 1 ～ 4 期生）

（奥野善彦先生退官記念パーティー　‘93・4・17）

回 顧 録

２期生　近江　忠義

阪大技学 2 期生として、卒業してから 8 年目の 29 歳の秋 10 月。札幌の地で兄弟 4 人で㈱近江歯研を開業してから 38 年が経ちました。

当時は FAX さえも無かった事務所にも、数台のパソコン。技工室には、CAD ～ CAM のスキャナー、OPC 用の関連機器。義歯関連ではバルプラスト、エステショット等、高額な機器、材料、又システム導入等、古い頭の歯科技工士には話題についていくのさえ、中々厳しいのが現状です。我々近江兄弟もそろそろ次の段階に進まなければならない時期を迎えつつある訳ですが、身内には跡を継ぐものは居ず、20 数名居る社員にも手を上げるものもなく、会社存続の危機です。そんな折かねてより親交のあった、群馬県の㈱日本デントと平成 17 年 10 月に業務提携を結び、次のステップへと踏み出している所です。

その一環として技術力、意識の向上を目指して、平成 18 年に桑田正博先生を 1 回目の、社内研修にお迎え致しました。その後社員を各種研修会などに出席させ、技術の研鑽に励んできました。先日平成 22 年 6 月 26 日に 2 回目の桑田先生の研修会を行いました。
その中で桑田先生が研究開発された、金属焼付ポーセレン（PMF）の話をされました。1969 年にパリでの FDI 総会で初めて発表した際に、日本から出席していた熱心なラボのオーナーがおられたそうです。そのオーナーがその後、メタルボンドと云う和製英語で商業ベースに乗せて、現在の和田精密を築き上げたそうです。この様に世の中のニーズをいち早く取り入れて、世の中に発信するには、現在はパソコンと云う最高のツールがある訳ですから、患者様に最高の技術を使って最高の補綴物を提供できる様な環境作りこそが、阪大技学を卒業した先駆者としての姿だと確信しながら、今少し頑張って行く覚悟です。
20 周年誌に続き 30 年後の今回も再び投稿出来ましたことを、心より感謝申し上げます。

回 顧 録

６期生　内田　典夫

ちょうど、10 年前の 40 周年記念誌に巻頭言を書かせていただいたのがついこの間のようで、もう 10 年がたったのかと歳月の流れの速さに今更乍らに驚いているところです。

小生が母校に入学したのは、東京オリンピックが開催された翌年の昭和 40 年、入学試験は中之島　常安橋南側にあった医学部の階段教室だったと記憶している。

当時、歯学部は現在の大阪大学中之島センターの場所にあり、新館の新築工事中であった。合格発表の日は、この建物がこれから 3 年間の学舎になるのだなとの思いで家路についた。ところが、入学して連れて行かれたところは、理学部が旧理学部校舎豊中キャンパスに移転した跡（現国立国際美術館の所在地）の人気もなく照明も点いていない建物の 1 階の片隅で、そこには、講義室と技工実習室、教官室があり通用口から外へ出るとこぢんまりとしたグラウンドがあった。後にこのグラウンドは我々の憩いの場として談笑したり、バレーボールやバスケットボール、サッカーなど格好の運動場として大いに学生生活を楽しませてくれ

た場所となった。

旧理学部グランド

この学舎も入学後２年余りで移転となり、本部の吹田移転に伴って、施設部が使用していた歯学部の西に隣接する建物を技工士学校が使用することになった。この引っ越しは３年次の夏休みに実施され、日通が3~400 メートルの距離を台車に機械等を乗せて運んでいるのを手伝った記憶が残っている。新しい学舎は１階が講義室と教官室、２階は実習室が２つあり鉄製の外付け階段で上がるようになっていた。手狭でおんぼろ学舎であったが独立した建物に入れたことが何かしら嬉しく感じられたものである。

３年間の学生生活は充実していてバスツアーやクリスマスパーティー、昨年他界された奥野先生に引率され課外活動で服部緑地に行ったこと、体育の授業を梅田や桜宮にあったアイススケートリンクで受けたことなどが思い出される。春には医歯学合同の運動会を石橋の教養部グラウンドで開催し、秋には中之島地区にある医学部､歯学部及びそれぞれの附属学校（看護学校、放射線技師学校、検査技師学校、歯科技工士学校）合同で開催する中之島祭を盛り上げるため連日遅くまで会議やバレーボール大会や模擬店、バザーなどの準備に励んだものでした。

バスツアー

クリスマスパーティー（6 期生）

対外的には在阪歯科技工士学校４校（大歯大、行岡、堺聾学校、阪大）合同の運動会を実現すべく、都島や堺で各校代表者と会議を重ね、成功裡に終了したときの達成感は今でも忘れられない。当時の各校代表者とはその後も交流を深め現在まで続いている方も多数おられる。この行事の後、せっかくの集まりを恒久的なものとするために組織作りをしようということになり、当時、東京に組織されていた関技連（正式名称は失念）から資料をいただき参考にして関技協（関西技学生連絡協議会）を立ち上げた。この組織はその後数年間活動していたようで後輩諸氏の中には活動に尽力された方が多数おられると思います。

また、遠くは東京医科歯科大学の実習科の方が見学に来られた折に交流を深め、かなりの刺激を受けたものだった。この時から実習科への進学を考えるようになったが、卒業後は太田・小谷両先生の勧めで職員になったため実現しませんでした。ただ、同期の勝田君が実習科に進み、その後、大いに活躍された。

卒業後は、同期の早川君・平井（現姓：住友）君とともに文部技官に任官され歯学部附属病院勤務となり、病院技工室で学生の実技実習指導に当たった。歯学部附属病院には以前から研修制度（何度か制度体系は変わっている）があったが、太田先生はじめ諸先生方の尽力で新制度を創生していただき、同期の太田・大田両君と我々３名計５名が新研修生として研修することになった。カリキュラムは週１回程度歯学部各教室の先生方から講義を受け専門知識を深め、その他の時間、太田・大田両君は鋳造室に設けられた研修室において自身で目標を決めた技工技術の研鑽、技官３名は病院技工室で学生の実技実習指導を行った。この年は、養成所指定規則改正の関係で第７期生・８期生がともに最終学年で、病院技工室は例年の倍近い学生で空席がないような状況でした。新卒ライターとしては、実習指導に追われる中、学外からの新技術の情報収集、習得に一生懸命だったのが思い出される。病院勤務は３年足らずでしたが必死の１年目を終え、２年目に入ると早川・平井両君が退官し替わって７期生の奥井・坂

口両君が任官された。3年目からは研修担当となり9期研修生を指導することになった。又、この年初めて他学から3名の研修生を受け入れた。任官中は学部先生方が学会発表される模型制作のてつだいや万博タイムカプセルに入れる義歯の製作、新しく整備されたポーセレン室の運営委員会を第1補綴丸山先生・第2補綴小山先生とともに立ち上げさせていただいたことなど大田・小谷両先生の大きな心に甘えながら色々なことに挑戦させていただいた。

一方、同窓会を振り返ると現歯技会が旧技研会と旧技学会とが融合して設立されたことは周知のことと思います。小生が卒業した年はこの旧技学会が創立されて2年目初代田中会長の時である。当時の記憶はあまりはっきりしていないが、先輩方との関わりは同窓会ではなく、当時、1・2・3期卒業の有志が主体となり結成されていたスタディーグループに参加させていただいたことに始まる。中央区にあったモリタや東京歯科産業の会議室を拝借し、最先端の技術を勉強し、研鑽を積んだことが懐かしく思い出されます。そうした中で同窓会への関心も強くなり、気がつくと卒業した年の秋には初代会長の田中先輩にまるめこまれ(?)て、2代目の会長を引き受けることになっていました。当時の記憶が非常に曖昧で、何年間会長職にいたのか思い出せませんが、会長就任初年度は副会長以下全職を先輩に助けていただくことになり大変頼りない会長だったと思います。とはいえ在任期間中は先輩諸氏の援助を仰ぎながら、機関誌の発行やキャンプ等の行事を積極的に開催できたように思います。又、大阪万博の年には9期生の協力を得て歯科技工に関するアンケートを万博会場で実施し、その結果を思いきって冊子型にした機関誌に掲載したことが、上海万博開催中の今、感慨深く記憶に残っています。

同窓会のあり方についても検討したことがあった。当時、大田先生から技研会(当時の技研会は技工士学校が設立される前の病院研修生の同窓会組織で現選科に当たる)についてこのままでは新規会員の加入はなく減衰の方向にあるので技学会との統合は考えられないか?との相談があり、任期最後の総会に協議としてあげたところ議論百出で、技学会は設立間もない組織でもう少し単独で育て上げたい等、否定的な意見が多く結果的には何もなかったということになり、小生も5期生の川端先輩に次の会長をお願いして任務を終了しました。その後の経緯は40周年記念誌の1期生田中先輩の回顧録にあるように技研会・技学会が融合し現在の歯技会が発足、今年30周年を迎えることになったわけです。

学校創立50周年並びに歯技会発足30周年の大きな節目にあたってとりとめもないことで貴重な誌面を割愛いただき感謝申し上げます。

母校創立50周年記念誌に寄せて
ー卒業生の回顧録ー

9期生　一棟　徳和

志望動機

大阪大学歯学部等、国公立医歯系大学入試に悉く失敗した。しかし、大学だけは出ておかなければと2年遅れで関西大学文学部哲学科に入学、昭和42年3月卒業したが、学生時代には妻と学外サークルを通じた出会いもあった。実家が歯科医なので、他の職種に就くことは考えていなかった。それで無謀にも、さらに1年間の猶予を得て、大阪大学歯学部を目指し、再挑戦した。その時、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、即ち母校の存在を知り、「歯科医は学力だけあってもダメだ、技術を持っていなければ」と言われ、母校も併せて受験したのだった。歯学部の試験に比べてかなり易しかった。とは言え、定員20名のところ、受験者数は200数十名もいた。既に結婚していたので、無事合格できた時には、「助かった!」という感慨をもったことを思い出す。

技学生の頃

現役の学生に比べ私は7歳年長であったので、学生らしい交友関係は余り持たなかった。唯一人、同級生で歯学部を挑戦すると言っていた安西君が他の学生に比べて少し年長のようであり、話す機会が多かった。

校舎は中之島歯学部の裏、老朽化したコンクリートの2階建で、1階を講義室、2階を実習室にしていた。翌年の2月までに、全ての教科を終えるので、かなりハードであった。

有床義歯学は故奥野善彦(後に阪大教授)、歯冠修復学は故岡田周造(阪大助教授、教務主任、後に住友銀行歯科診療所長)、歯牙解剖は故西嶋庄次郎(阪大教授)、三好作一郎(後に福岡歯大教授)と赤井三千男(後に阪大教授)、矯正学は松本光生(後に福岡歯大教授)、充填学は滝内春雄、小児学は祖父江鎮雄(後に阪大教授)、口腔外科学は下里常弘(後に広大教授)、予防歯科学は佐治靖介(後に厚生省歯科課長)、歯科理工学は井田一夫(後に京大教授)、森脇 豊(後に朝日大教授)、上新和彦(後に神奈川歯大教授)、堤 定美(後に京大教授)の各先生がそれぞれ担当された。歯科理工学実習は歯学部理工学教室でも行い、大学附属だけあってかなり充実したものであった。

1年の歯科技工実習は退官2年前の故斎田弘先生(大正15年(1926)4月、故弓倉繁家初代歯学部長が東京・文部省病院から招聘)が全て行われた。当時は帯環咬合面鋳造冠を製作するなど、フルキャスト冠への移行期であった。

2年生では太田正一(技工室長後に教務主任)、小谷

栄一（後に日本歯科学院教務主任）、そして、6 期卒の内田典夫（後に技工所経営後、関西労災病院勤務）、平井恵美子（後に関女技教務主任）の先生方が臨床実習を担当。2 年の臨床実習ではフルキャスト冠、リバースピンフェーシング冠等、インストラクターなりたての然し上手な平井先生のお世話になった。当時は未だ国産の良いインレーワックスがなく、カーのインレーワックスが重用されていた。

ともあれ、国立大学附属歯科技工士学校生として授業料も免除され、一流の先生方のご指導を得たことは、ありがたいことで、今も誇りに思っている。

母校は、昭和 35 年（1960）、全国第 4 番目の歯科技工士学校として創立。母校が設置されるまでの歩みについては「20 周年記念誌」に書かれており、東京医科歯科大学附属歯科技工士学校に追随する古い歴史を持ち、大正 15 年（1926）まで遡るとのこと。私は大阪市此花区育ちで、中耳炎や他の病気で福島区の阪大病院を何度か訪れたことがある。戦後育ちであるが、中之島堂島川北側にあったステレオ病院以前の旧病院を知っており、往時を想像することが出来る。

私が入学した当時は、堂島川南側に歯学部附属病院が完成して間もないころ。当初、入学資格は中卒、19 歳以下の者であったが、昭和 42 年（1967）より入学資格が高卒となり、年齢制限もなく、3 年制から 2 年制になっていた。私は昭和 43 年（1968）4 月入学で 9 期生。校長は 3 代目、下総高次教授が就任された時であった。そのため、私の 1 年修了時は、第 7 期と第 8 期生の同時卒業となったが、以後、学校は完全な 2 年制になった。

母校は 10 年を迎えつつあり、当時、大学紛争等も盛んで、学校運営の民主化等が検討されていた。1 年後輩の 10 期生について、下総教授は「20 周年記念誌」に「技工士学校自治会活動が活発であった」と寄稿されている。40 周年記念号では 10 期生が「我々の求めたものはなにか」を、「小さな学生運動の一つ」として寄稿している。

そのような気配を感じつつも、我々の学年はそれほど積極的ではなかった。私は自分の遅れて来た出直しスタートに精進し、翌年、実施される歯科技工士国家試験を完全マスターするべく問題集等に没頭した。

研修生の頃

昭和 45 年（1970）3 月、無事卒業。私は歯学部附属病院歯科技工研修科に進んだ。この時、名称を補習科にするような話もあったが、故川勝賢作病院長と私達との話合いもあって、最終的には研修科になったように記憶する。研修生は 1 期卒業生からいたが、臨床実習の他、新たに病院内の各科講座による特別講義、「歯科技工研修講座」が実施された。また、自主研修日も設定され、昭和 45 年研修生 9 名は当時有名になっていた保母須弥也の「オーラルリハビリテイション」（昭和 43 年 10 月 27 日初版発行、昭和 44 年 7 月 31 日第 4 版増刷）を輪読した。私はその中で知った TMJ 咬合器を使って、Ⅱ補の久保先生の患者の総義歯を製作した。製作過程をスライドに収め、故河合庄治郎教授の第 2 補綴研究会で発表できたことは得難い経験であった。

研修 1 年の後期、歯科理工学の井田先生の助手として NDC 歯科学院（現、大阪歯科学院専門学校）で歯科理工学実習のお手伝いもした。当時、口腔生理学の世界的権威、河村洋二郎歯学部長にアメリカへの就職紹介をお願いしたが、研修 1 年修了時、NDC 歯科学院の教務主任としての求人があり、志願した。技工室長の太田先生は少し心配されている面があったが、私は突き進んでいった。そして、下記のような人生を歩むとは思わなかった。

就　職

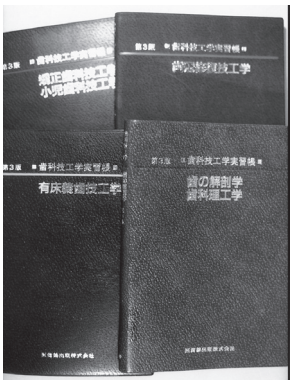
NDC 歯科学院は昭和 45 年（1970）に創立され（全国 30 番目）、枚方公園の側にあった。私と同期で、研修卒の岩田君と一緒に昭和 46 年（1971）4 月、就職した。私は前年に歯科理工学実習の助手としてお手伝いしたので、NDC の初年度から関わったことになる。校長は進歩的な歯科医師・故中井恕人先生で、「歯科診療所」と「海外の歯科材料輸入業」も行い、当時の先進的な歯科医療を積極的に実践されていた。セラムコ・メタルボンドシステムや登場し始めたビタ・システムも遅れず採用。ベテランの歯科技工士がいない分、積極的な学生にとってやりがいのある学校であった。

私は緩圧作用を発揮する「フローティングジョイントを有する部分床義歯の製作」に成功し、臨床例を添えて、昭和 47 年 8 月歯界展望第 40 巻第 2 号に丸山剛郎先生（後に阪大教授）、広田賢徳先生との共著で発表。昭和 49 年 7 月、全国歯科技工士教育協議会第 1 回研究発表会でも報告した。

教員時代

昭和 47 年（1972）3 月、NDC 第 1 期生を送り出し、卒業生の 2 名が私の後輩となる阪大歯学部附属病院研修生となり、以後毎年、優秀な卒業生が同研修生となっ

ている。昭和 56 年（1981）、大阪歯科学院にも専攻科を設置したが、その後も、優秀な卒業生は阪大研修生の道を選んだ。このことは、大阪歯科学院にも優秀な学生が入学し、卒業した証で、学校としても大いなる誇りであった。



私は NDC 歯科学院時代、就任 2 年後から夜間学科設置を準備し、昭 和 49 年（1974）3 月認可され、4 月からは夜間学科入学も受入れた。中井先生に代って新理事長となる歯科医師・渡瀬 透先生が、この実績を評価され、私を続投、「やる以上はもっと学校らしく大きくする必要がある」と私財を投入された。昭和 51 年（1976）4 月からは大阪歯科技工学院に校名を変更、校舎も大阪市東区農人橋に移転、更に、昭和 53 年（1978）1 月からは大阪市西区新町に移転、4 月からは名称も現在の大阪歯科学院専門学校と改め歯科衛生士学科も設置。定員は歯科技工士昼間学科 100 名、夜間学科 90 名、歯科衛生士学科 50 名となり、昭和 58 年（1983）には歯科衛生士学科新校舎を隣接地に建設、昭和 59 年（1984）から歯科衛生士学科定員 100 名になった。この間、書類作りは、未だワープロ以前で、和文タイプライターを使って行い、その慣れない作業に大変苦労した。

大阪歯科学院は NDC の創立当初から、非常勤講師は全て大阪大学と京都大学から派遣して頂いており、それ故、一専門学校生として歯科技工学、歯科衛生学を学習できることは大変恵まれた学校といえよう。

渡瀬時代にはソフトボール大会やデンタル・コンテスト（1976 発足）、特待生制度（1977）、学院技衛祭（1997）が実施され、学校長賞授与や日本育英会・大阪府育英会の奨学金授与対象校（1978）、新入生奨学特待生制度（1987）、私費外国人留学生奨学金授与対象校（1989）、教職員海外研修制度（1989）、学生引率海外研修旅行（1990）等、先進的な学校体制が築かれていった。

歯科技工学科は毎年、「歯科技工学会」に発表、歯科衛生士学科においても大阪の各歯科医師会からボランティア活動により感謝状を頂いている。他方、卒業生においても、1988 年 9 月、「昭和 63 年国際事業団青年海外協力隊第 2 次隊参加者（昭和 60 年（1985）卒、三牧；コスタリカ）」に選ばれたり、同年 11 月、「第 2 回国際歯科技工学会デンタル・コンテスト」で金賞（昭和 55 年（1980）卒、浜崎）、銅賞（昭和 56 年（1981）卒、木原）、佳作（昭和 57 年（1982）卒、増田）の優秀賞を受賞したりしている。また、平成 7 年（1995）、「大阪府歯科技工士会設立 40 周年記念歯科技工フェア・テクニカルコンテスト及びアイデアコンテスト」で岩佐（昭和 58 年（1983）卒）、河田（昭和 58 年卒）、藤川（昭和 59 年（1984）卒）、石松（昭和 60 年卒）、高田（昭和 60 年卒）、北野（平成 4 年（1992）卒）がそれぞれ優秀賞を受賞した。

しかし、歯科技工士学科は、昭和 59 年（1984）4 月から夜間学科入学生が減少し始め、昼間学科も定員を割り始めた。平成元年（1889）には、歯科技工士学校数が全国 73 校、最多となり、学校過剰のため、各校の経営は厳しくなりつつあった。90 年代のバブル崩壊、不況が歯科技工士学校の経営にも影響していたのであろう。

全技協・日技学会

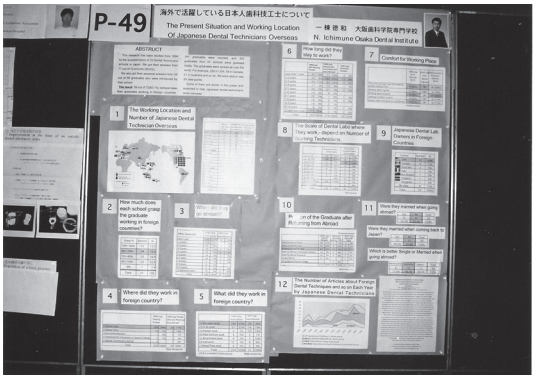
日本の歯科技工士教育について、「全国歯科技工士教育協議会（全技協）」と「日本歯科技工学会（日技学会）」の存在を無視できないであろう。全技協は、全国の歯科技工士養成機関が全て参加し、歯科技工士を目指す学生の教育の充実を図るため教員の資質向上や教育の資材開発を目的に組織され、昭和 46 年（1971）、発足した。

昭和 48 年（1973）、中井先生が理事（昭和 48.4.1 ～ 50.3.31）となられ、私も中井先生の鞄持ち（実務者）として同行し、中井先生の後任となられた渡瀬先生の代においても教務主任として同行した。渡瀬先生も同協議会の理事を昭和 56 年（1981）から 3 期 6 年、副会長を 1 期 2 年、再度、理事を 3 期 9 年、計 17 年務められた。故平安亮造先生も九大定年退官後、西嶋先生の後任、大阪歯科学院校長となられ、渡瀬理事長病気のため、代って同協議会の理事を平成 10 年（1998）から 2 期 6 年務められた。私は、渡瀬理事長が病床に伏す平成 13 年 3 月まで（同年 11 月末（70 歳）永眠）、全技協役員校の実務者として同行、幹事等の役職を拝命した。特に、大阪歯科大学の玉置敏雄先生（大歯技校長後に客員教授、大歯大常務理事）が昭和 56 年（1981）4 月より 3 期 6 年、全技協と日本歯科技工学会の両会長になられ、大阪歯科大同期卒である渡瀬先生との二人三脚で両会の一層の推進を図られた。私も及ばずながらお手伝いでき、両会の発展に貢献できた。

具体的には、「全国歯科技工士教育協議会研究発表会発足」（1974.7）、その後の「日本歯科技工学会学術大会発足」（1986.8）、「関西地区歯科技工士学校教員連絡会発足」（1979.4）、同 / 編集「歯科技工学実習帳発刊」（1978.4）、「厚生省委託・第 4 回専任教員講習会」（1981.7.27 ～ 8.8）、「同第 5 回」（1982.7.24 ～ 8.7）、「同第 16 回」（1993.7.23 ～ 8.6）、「同第 22 回（2000.7.23 ～ 7.27）および全国歯科技工士教育協議会第 29 回指導者講習会」（2000.7.23）の計 4 回を実施した。なお、前後するが、「平成 7 年度全国歯科技工士教育協議会

総会、理事長・校長会議並びに第 21 回教務主任会議」（1995.5）を実務担当として開催の準備を行った。

学会についても「第 3 回日本歯科技工士学会」（大阪歯科大学 1981.8.1 ～ 8.2）、「同第 4 回」（神戸国際会議場 1982.7.31 ～ 8.1）、「日本歯科技工学会第 10 回学術大会」（大阪国際交流センター 1988.8.7 ～ 8.8）等、関西で行われた学会の諸準備等、実務担当した。同 10 回学術大会では、玉置日技学会長より「日本歯科技工学会幹事として永年学会の発展に貢献した」と、学会設立 10 周年を記念して「感謝状」を受領した。



第 3 回国際技工学会　ポスター発表
1998.10.30 ～ 11.3

他方、「注解・歯科技工士国家試験問題集編集」（1986.1）、「歯科技工辞典」（医歯薬出版㈱平成 3 年（1991）9 月第 1 版第 1 刷）分担執筆（358 名協力）、平成 3 年（1991）10 月「歯科技工士養成の改善等に関する検討会」小委員会委員を拝命した（発令者：厚生省健康政策局長　古市圭治、平成 4 年 3 月末まで）。さらに「歯科技工士教本（1995 年度より使用）編集」、「新編～注解歯科技工士国家試験問題集編集」（1999.3）、等に携わった。

玉置敏雄日技学会長の後、奥野善彦阪大名誉教授が同学会長（平成 10 年（1998）～ 14 年（2002））になられ、同学会の一層の発展を図るため「日技学会認定士制度」発足に尽力された（1999.4.1 施行）。日技学会認定士は 1 期 5 年で、私は 1 期より認定され、現在 3 期目を迎えている。

日本歯科技工学会開催時、東京医科歯科大学附属歯科技工士学校はいつも同窓会（技友会）を開いており、私は全技協関係で同校卒の教務主任等との付合いがあるため、現在も親交を深めている。東京医科歯科大学歯学部は阪大同様、市川まで受験に行った若い頃の思い出もある。

東京医科歯科大学技友会・大阪大学歯技会
第 3 回懇親会

それは兎も角、山本靖廣氏（2 期卒 / 阪大歯技会第 3 代会長）が同校実習科卒、技友会員でもあり、逆に私と研修同期の近藤君が同校卒業、また、昭和 57 年（1982）、大阪歯科学院の教員となる入沢君が同校及び同実習科卒。何かと関係あり、同校卒業生は日本及び世界で大活躍している。近年は阪大歯技会執行部が学会時の同窓会兼懇親会に参加し、連携している。

褒　美

上述した事柄は、遅れていた歯科技工士教育界が右肩上がりの発展過程であったから、なしえた幸運であろう。お陰で、私は褒美として、関西地区歯科技工学校連絡協議会から昭和 58 年（1983）5 月、「西ドイツ国際デンタルショウ（IDS in Munich）」に参加、大阪歯科学院専門学校からは平成 2 年（1990）12 月から翌年 3 月まで「3 ヶ月間アメリカ研修旅行」をさせて頂いた。

西ドイツ国際デンタルショウ（IDS in Munich）については「1983 年西ドイツ研修旅行記」として「阪大歯技会報」にも寄稿、4 回に分載（1983.8 ～ 1985.1）された。

アメリカでは 15 都市、20 歯科技工所、6 歯科大学、5 大学、8 歯科医院、5 歯科器材製作所、1 歯科商社を訪問したが、その際、美術館、博物館、エジソン工場記念館等にも行くことが出来た。20 歯科技工所のうち 18 技工所が日本人経営、その中、私の教え子がアメリカで大活躍していることや他校の卒業生も沢山活躍していることを目の当たりにして、大感激、「歯科技工」（Vol.20 No.5　1992 平成 4 年 5 月　医歯薬出版㈱）等

に報告した。ロサンゼルスでは 24 名の日本人歯科技工士が集まり、ゴルフコンペに私も参加したのは、楽しい思い出である。

平成 9 年（1997）5 月には「海外で活躍している日本人歯科技工士について」で「平成 8 年度科学研究費補助金（奨励研究（B））」の助成を受けた。他方、同年（1997）12 月、「アジアの歯科技工事情」（歯科技工臨床研修講座 4、1998.6 発行、医歯薬出版 KK）執筆のため、台湾を訪問した。私の教え子、洪純成の勤務先、中台医事技術専科学校を見学。また、台北には謝振賢、張宋仁がそれぞれ歯科技工所を経営していたが、他の教え子も合流して、一時を過ごしたのも大きな思い出である。あれから早や、一昔、現在、彼らがどのように活躍しているか、再訪問してみたいと思っている。

大阪府歯科技工士会

余談だが、NDC 歯科学院就職後、昭和 46 年（1971）12 月、内田（6 期卒）先生の強いお誘いで、私は大阪府歯科技工士会に入会した。翌年、西大阪支部が新設され、当時、会員の長老、日本歯研工業㈱支社長 兵頭氏の勧めで、私は支部長（昭和 47 年（1972）4 月～同 49 年 3 月）に選ばれた。その後、住所変更により都島支部に移転したが、今度は本会の勤務理事（昭和 49 年（1974）4 月～同 50 年 6 月）となった。しかし、会長、突然の辞任で短期に終わった。その後、故米倉正雄会長（昭和 55 年（1980）4 月～同 57 年（1982）3 月、同 59 年（1984）4 月～平成 5 年（1993）3 月）の要請で、福祉理事（平成 2 年（1990）4 月～同 5 年 3 月）に就任。お陰で、大阪府歯科技工士会からは、平成 7 年（1995）6 月、同法人設立 40 周年記念に当たり大阪府知事感謝状受領。平成 8 年（1996）11 月には、大阪府が毎年、歯科保健活動功労者を表彰しており、同会の推薦で大阪府知事表彰を受領。平成 13 年（2001）12 月には、同会東南支部長より在籍 30 年の貢献により感謝状を受領した。

平成 8 年大阪府歯科保健活動事業功労者表彰

定年退職後

平成 15 年（2003）3 月、大阪歯科学院専門学校を定年退職した。阪大選科の大先輩、行岡医学技術専門学校・元科長であった中島先生（全技協理事、関技協会長、大阪府歯科技工士会副会長等歴任）が定年退職後、東洋医療専門学校非常勤講師をされていたが、平成 16 年（2004）7 月、病気で亡くなられた。私はその後任となり、平成 16 年度から「歯科技工学概論」、「歯科技工士関係法規」を現在、教えている。

また、平成 20 年（2008）4 月、大阪府歯科技工士会・速見 憲前会長（平成 11 年（1999）4 月～同 20 年（2008）3 月）の推挙で同会監事役を仰せつかり、先輩監事の内田氏（6 期卒 / 阪大退官 / 歯技会第 5 代会長）、田中淳三氏（1 期卒 / 阪大歯技会第 2 代会長）に続いている。歯科技工士養成校は、既に関西女子医療技術専門学校、行岡医学技術専門学校歯科技工科、大阪府立堺聾学校歯科技工科が閉科となり大阪歯科学院専門学校も平成 22 年度末を以って歯科技工士学科が閉科される。その結果、大阪では 5 校となり、全国で 53 校、定員 2,175 人になる。これは 1974 年、昭和 49 ～ 50 年当時の学校数に戻る。

現在、大学 1、短大 2、2 年制昼間校 44、3 年制昼間校 3、3 年制夜間校 3 である。歯科技工技術習得という観点から思考すれば、今後、3 年制昼間校が主流となるであろうが、大学はもう 1 ～ 2 校増えてよいのではないか。希望は、わが母校、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校も大学化して、広島大学のように大阪大学歯学部口腔工学科となって欲しい。

おわりに

以上、長々書き過ぎたが、これは「大阪歯科学院技衛誌」を昭和 55 年（1980）10 月 1 日発行以来、毎年編集に携わり、また、5 年に 1 度は「創立周年記念誌」を発行してきたお陰で、資料が記録されていたから書けた。「技衛誌」は故渡瀬理事長も喜ばれ、大阪大学名誉教授 奥野先生からも寄稿頂き、おほめ頂いた。今回、よい面ばかり書いたが、困難なことも種々あった。また、書き漏らしていることも多々あるだろう。ともあれ、

多くの出会いと支えがあって、これまでやって来られたと感謝している。大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年記念誌に寄稿させて頂いたことは光栄の至りである。そして、お世話になった先生方やお名前を挙げていない多くの皆さまに末筆ながらお礼を申し上げ、母校の益々のご発展を期待し、併せて皆様のご健勝とご多幸をお祈りする次第である。

「学生時代」

11 期生　森　正文

回顧録の原稿依頼を受け前回の周年事業記念号を久しぶりに拝読させていただきました。前回の記念号は編集委員長の大役を務められた 10 期生の大西正和氏が見事なまでに編纂され、大変立派な会誌が刊行されました。回顧録には選科の太田先生、1 期生田中氏、3 期生因田氏、7 期生内田氏、そしてご本人の大西氏が投稿されておられます。歯科技工士学校誕生の秘話、1 期生入学、自治会誕生とその後の活動など、当時の思い出や出来事が手に取るように分かる内容でありました。前回の記念号を読み終えて、その卓越した記憶力と内容に、安易に原稿を引き受けましたことを大変後悔致しております。

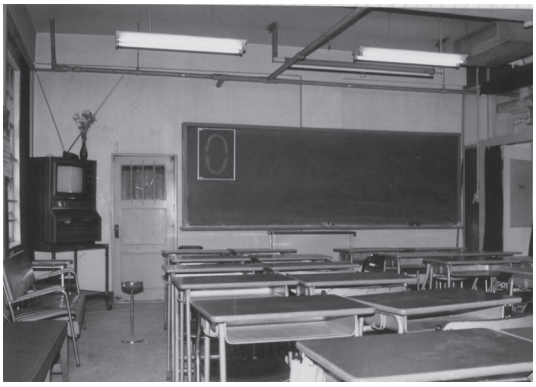
今回の私の原稿は取り留めもない内容になっていますが、特に日頃なかなか逢うことができない同級生に当時を思い出してもらえるような内容にしたいと思います。

私たち 11 期生が本校に入学したのは昭和 45 年、折しも大阪千里丘陵で日本万国博覧会が開催された年であり半年間の期間中約 6500 万人もの入場者がありました。我々の受験問題の一つに「日本万国博覧会」をポスター風にデッサンせよと出題され、いかにこの万博への期待と規模が大きかったかを物語るものでありました。

さて、私ごとでありますが本校志望動機は大学受験 2 浪中、これからは職業選択として資格を取得した方が良いと周りに勧められ、またこの 2 年間両親には大変心配をかけたので、出来るだけ低額で履修できるところがないか調べた結果、受験料、入学金、授業料が無料、くわえて国立で自宅から近距離であるということなどまさにここだと直感しました。しかしながら歯科技工士が具体的にどのような職業であるのかあまり知らずに選択したように思います。応募者 300 名受験者 250 名で定員 20 名、内 2 名が入学手続きをせず、実際に入学したものは 18 名であった。

歯科技工士学校は昭和 58 年に歯学部とともに吹田に移転しましたが、それ以前は現在の大阪大学中之島センター南側に位置していました。歯科技工士学校が本年で創立 50 周年を迎えるので卒業生の半数以上は中之島時代を知らないということになる。

当時の歯科技工士学校の校舎は歯学部病院とは別棟で、入学した時の期待とは裏腹に 2 階建てのかなり古い建物であった。1 階は講義室と講師控室、倉庫と更衣室らしい部屋、2 階は実習室で 1 階と 2 階は外階段で連絡していた。1 階はどの部屋も薄暗く、窓ガラスも 1 部ひび割れ、床も少し抜けかかっていた。当時は空調というものがなく夏はまさにサウナ状態だったと記憶している。



1 年時の基礎実習は解剖、有床、修覆で講師は担当講座の先生であった。現在の歯科技工士学校における解剖学の歯型彫刻は歯牙の展開図や彫刻の順序、寸法などがマニュアル化されているので学生にとっては取り組みやすくなっているが、当時は 4 倍大の大きさで、見本模型を参考にして各自好みの方法や順序でカービングしていた。同期の吉儀君は実習がずば抜けて優秀であったことから、当時解剖学の久米川先生が次年度から開校予定である城西歯科大学へ栄転するということで夏休みの 1 か月間城西歯科大学へ歯牙模型の製作に来てほしいと依頼を受けた。のちになって聞いたことであるが 1 斗缶サイズのものもカービングしたらしい。

有床の担当は代田先生で総義歯の排列を見てもらいに行くと、「ここを 0.5mm だせ」など当時なんて細かいことを言う先生なのだろうと思っていたが、のちにこの繊細さが必要と気づくのには時間はかからなかっ

た。

修覆の実習は作業模型に可徹式を用いずに直接ワックスアップするという製作法であった。当時はこの方法が一般的と思っていたが、どうやら我々の期だけだったようだ。また、鋳造も圧迫蓋による加圧鋳造、これも私たちだけだったらしい。銀合金は比較的成功しやすいものの、当時の実習用メタル、オルデンの鋳造は流動性が高く鋳込み率が低く吉儀君やアルバイト先で圧迫鋳造ばかりやっていた芝原君に頼んだものだ。

1年生も後期に入るとアルバイトに行くものが増えてきた。当時のアルバイトといえば歯科技工であり、最近では学生が歯科技工のアルバイトをすることは無資格者問題で禁止されているが、私も1年先輩の西村さんの後がまとして毎日歯科医院に通っていた。その医院は当時としては珍しく私費だけの診療をされており、あの松下幸之助氏も患者さんとして来院されていたこともあり、先生が歯科技工に対して大変厳しかった思い出がある。

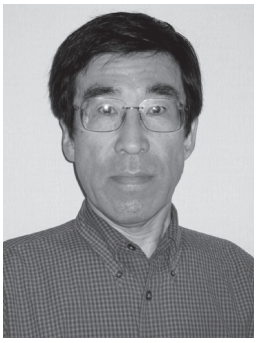
1年生の2月からは病院歯科技工室での実習が開始する。このころになると同級生の全員がアルバイトをしていたということもあり、それぞれがライバル心を持ち始め、臨床実習に闘志をみなぎらせていた記憶がある。実習担当の教員は歯科技工士であり、小谷先生、大番先生、久保田先生がわれわれを指導してくださった。1年生時は基礎実習ということもあり比較的のんびり実習をしていたが、病院歯科技工室での臨床歯科技工ということで180度頭の切り替えが必要になってきた。直接歯科技工士の先生に教えて頂くので先生方の器具の使い方など一挙一動すべてが勉強になった。当時は、技術は盗め、が当たり前という時代、小谷先生に私はよくお声をかけて頂いた。先生から頂戴した特に思い出の残るお言葉を披露しますと、臨床実習が始まって間もない頃、不注意にも印象に注入した石膏に気泡を入れてしまい、先生から「患者さんは貴重な時間を割いて来院しておられる。再度来院してもらわなければいけない。申し訳ないと思わないのか」と一喝。また、モデルトリーマーを使用していると、「模型をしっかり保持して指先が刃に当たるくらいで削らないと削りすぎたり破損したりしてしまう。皮膚は再生するが模型は再生しないぞ」と。臨床の厳しさを知る苦い経験であったが、先生から頂戴した教訓はずーと私の心の中に残っており、本当に感謝している。

2年生になると病院実習と夕刻からのアルバイトで時間と心に余裕がなかったように思う。2年生の実習も年が明けて2月で終了。国家試験までは自習ということで、私は自信がなかったせいもあって毎日学校に行って実習をしていたが、中には実習に自信があってアルバイトが忙しくほとんど顔を見せないものもいた。この国家試験の準備中に世間を揺るがす大きな出来事があった。浅間山荘事件です。学説試験の数日前に事件が起こり一番集中しなければならない時に、昼夜テレビ中継。ついつい見いってしまった記憶がある。このテレビ中継の視聴率は90%を超え今なおこの時の視聴率は破られていないそうです。

その後、全員無事卒業し歯科技工士免許を取得することが出来ました。1つの明確な目標に向かって2年間を過ごした同級生に出会えたことは人生の宝であると確信するとともに、在学中大変お世話になりました諸先生方、諸先輩方ならびに後輩の皆様に心からお礼申し上げます。

タイムスリップ

12期生　能勢　浩行



大阪大学歯学部附属歯科技工士学校を卒業して早や38年になろうとしています。

人は回顧する時に「あっという間に過ぎ去った」とか「月日のたつのは早いもの」と申しますが、歳を取ると分母が大きくなるので1年というものは若い時の1年に比べ当然早く感じるのではないかと思います。

私の場合は歯科技工士学校時代の2年間も含め今日まで大変長かったような気がしてなりません。もちろん最近の1年、2年はあっという間に過ぎ去っていきますが…。

今、過去にタイムスリップして最初に浮かんで来る事は、歯科技工士学校での初めての臨床実習です。太田正一先生をはじめ他の先生もおられたのですが、やはり最初の担当ライター、故坂口賢司先生の印象が強烈でした。よく怒られたりWAXUPを簡単に潰されたり、その実習での厳しい指導が今の私の歯科技工士としての出発点になっています。

昭和49年に歯科技工室職員（当時技官）として採用されてから、私は恩師である坂口賢司先生を手本として追いつけ追い越せという気持ちで日々歯科技工を行っていました。また先生とは昼休みに2人で五目並べの腕を競って遊んだりして、兄貴分のような存在でもありました。今、ご健在なら色々と相談や報告が出来ていたのにそれらが叶わないのが大変残念です。

タイムスリップして次に浮かんで来る事は、昭和58年の歯学部の中之島から吹田への移転です。

吹田の新しい歯科技工室は中之島の技工室とは比べ物にならないくらい優れていて、全体の面積もかなり広くなり、その上部屋の窓からの景色も良好で素晴らしいものでした。歯科技工台の配置や各部屋の割り振

り、受付の設計等は皆で分担して行っていましたが、技工室全員が右往左往して大変苦労したように記憶しています。また歯科技工室の隣には歯科技工士学校が置かれ、B 棟二階は技工室と技工士学校とで占有する形になり。太田先生も学校の設計等に連日連夜苦労されたと聞いています。

当時は新しい建物へ引っ越せるという喜びで、長年慣れ親しんだ病院の建物や、レトロな歯科技工士学校校舎など、それほど未練はありませんでした。しかしながら後々に懐かしさが増していき、今では中之島の国際美術館など旧歯学部近辺に行く時があれば、風景に昔の面影は殆どありませんが、当時の記憶を呼び戻して田蓑橋や玉江橋を渡ってまわりを見渡したりしつつその近辺を散歩し、通勤で使った淀屋橋や福島までの道のりを歩いたりして古き良き時代を懐かしんでいます。

タイムスリップするとまだまだたくさん浮かんで来るはずなのですが、歳のせいか事象が断片的になり繋がりません。これからは日記でも付けて記録していかないと回顧も出来なくなるのではないかと思ってしまいます。

私事ですが、最近介護をしている 90 歳になる親の口から毎日出る言葉は昔の話のオンパレードです。昔はあーだった、こうだったといつも支離滅裂に回顧しています。年齢を重ねて行くにしたがって、回顧が後から追いかけて来て自分自身を飲み込んでしまうような気がしてなりません。年齢とともに回顧に飲み込まれないよう、温故知新という言葉のように古き良き事を糧にして常に新しい事へ挑戦して行きたいものです。

最後に近い未来へのタイムスリップです。歯学部附属病院の職員歯科技工室が昭和 58 年の移転から 27 年ぶりに平成 22 年 12 月より全面改装されます。

しばらくは歯学部の実習室を借りて仮の技工室として作業を行いますが、来年 4 月には新しく生まれ変わる予定です。今考えられる新しい環境、設備等を色々な形で取り入れてのリニューアルとなる予定ですので、興味のある方は来年 4 月以降に是非見学においでください。

回顧録

16 期生　渡辺　克美

母校創立 50 周年ならびに本会発足 30 周年を迎えるにあたり、皆さんと共に喜びを感じたいと思います。
私が会長を勤めさせていただいた平成 14 年から 20 年までの二期 6 年間の活動のうち、二度に亘る参議院選と、あまり表に出ない技同協の活動を綴り、記念誌の回顧録としたいと思います。

1、参議院選挙

平成 14 年 5 月第七代目会長として一期目の執行部がスタートしました。
この年 4 月、第四代会長中西茂明氏が日技会長に就任されました。

8 月 25 日梅田ハートンホテルガーデンキッチンにて、40 名が集まり祝賀会を催したのが、仕事はじめであったように思います。

考えてみると、中西氏の参院選出馬へと続く大きな時流のうねりが目の前に迫っていたのでした。

＜平成 14 年 8 月 25 日　日技会長就任祝賀パーティー＞

国政選挙への協力の可不可、というこれまでに経験のない事態に混乱しながらも、同窓会と日技、同窓会と政治、改めて本会の存在意味について考えさせられました。そこには多くのジレンマがありました。
なぜなら、いうまでもなく同窓会は学舎を同じくする会員の集まりであり、統一したイデオロギーや価値観、

また会員としての利害とは対極にある組織であるからです。

そして、応援に望むにあたり、会費で運営されている同窓会の活動の透明性と公平性を原則とし、これを崩さないようにすることを執行部の意見としてまとめました。

そこで会員有志により、平成 15 年 8 月 28 日「中西茂昭氏を支援する会」を政治団体として発足、第一期生 田中淳三氏を会長に選出。

9 月 27 日、歯技会臨時評議員会において以下の「3 点についての協力」の承認を得ました。①組織としての協力　②各期から幹事選出する　③同窓会会誌・会報などの広報文書への掲載および、文書の同封会計を完全に別立てにしたことで、本会会費の集まりも低迷を続けていたときに、新たに「支援する会」の支援金の募集が必要になり、苦労しました。次の参院選に第 11 期生森正文氏に会長が交代し二度目の選挙活動をしました。同窓会と違った真剣勝負の世界を垣間見て、よい経験になったことは当然ですが、同窓会という緩い集合体と無垢の活動が逆に貴重であるように思えました。

＜平成 16 年 7 月 ヨドバシカメラ前にて：大西正和氏撮影＞

2、歯科技工士学校同窓会連絡協議会（技同協）

もうひとつ記録しておきたいこと歯科技工士学校同窓会連絡協議会の経緯です。昭和 59 年関西の五校（阪大・新大阪・大歯・兵歯・行岡）の同窓会で発足し、昭和 62 年には 12 校（滋賀・東洋・京都・堺聾・大歯学院・日本・関西女子）になりました。（歯技会誌第 26 号参考）

平成 14 年より第 5 代技同協会長に、中島元（新大阪技学同窓会長）が就任され平成 15 年より期の途中ではありましたが、次年度に迫っていた参院選への対応のため私が専務理事を引き受けました。

この集まりは、技同協会則第 2 項にあるように＜各校同窓会の交流を厚くすることにより、学術・福祉等に関する情報交換並びに時局に対応し、互いに知徳を磨き、各校の基本的方針の尊重を旨とした民主的な相互の協力を成すこと＞を目的としています。

したがって、親睦と情報交換が主な活動になります。同窓会相互の緩やかな連携といったところでしょうか。最近の活動は年 2 度の理事会と、親睦会です。

しかし驚いたことに、引き継いだ時点の会計は破綻寸前で往古盛衰の感がありました。会則の不備もあり帳簿も新たに作らなければなりませんでした。

＜平成 16 年 4 月 18 日　大阪ガーデンパレスにて＞

まず、会則の財務の項などを改定し会計の管理と監査を明確にしました。

そして平成 16 年 4 月 18 日、技同協発足 20 周年記念祝賀会を大阪ガーデンパレスで開催しました。開催に当たり、各同窓会の歴代役員のご協力と、中西氏ご本人にも出席いただくことで参院選への応援も兼ねる事業としました。

祝賀会の結果、余剰金を生じ、また本来の各会からの会費収入をあわせ、予算に余裕ができたことで理事会の運営も容易になりました。

加盟 12 校あった同窓会のうち、5 校（兵歯・行岡・堺聾・大歯学院・関西子）がすでに募集停止・廃校になり、各同窓会としてもその存続に様々な矛盾を抱え、葛藤を生じています。

＜平成 18 年 2 月 25 日　梅田にて懇親会：寺石勝氏より提供
前列左より、江島・中島・奥田・山田・船渡・河野各同窓会長＞

技同協の今後についても、お互いの周年事業への参加などが中心となるのかも知れません。現在、第６代会長として山桜会会長　江島彰徳氏（東洋医療歯技同窓会）が就いておられます。これまで繋いで来られた先輩方のご苦労が報われ、今後も継承されていくことを願いたいと思います。

私が勤めさせていただいた６年間、特に執行部の理事各位にご苦労をおかけしたことに心からの謝意とお礼を申し上げる次第です。
稿を終えるに当たり、記念すべき慶事に貴重な頁を与えていただきましたことを心より感謝いたします。

＜平成 17 年８月　第２期執行部＞

堂島川のほとりで

23 期生　町　博之

所要で大阪中ノ島センターに向かった。日曜の朝だったこともあり、街はひっそりと静まりかえっていた。思えば 28 年前、毎日スーツ姿のサラリーマンに交じり学校へ通った道だ。当時の歯学部および附属病院は周りがオフィスビルという立地にあり、学生が行き交うのは場違いのように客観的に思ったものだ。昔そこに存在していた歯学部および附属病院は、中ノ島センターに姿を変えひっそりとたたずんでいる。ふと堂島川の方へ目をやると、今もそこは多くの水をたたえ緩やかに流れている。その堂島川を挟んでの対岸には、医学部附属病院があったはずだ。しかし今は、水都・OSAKA α プロジェクトによる“ほたるまち”として、堂島リバーフォーラムや朝日放送などの近代的なビルが建ち並び、昔の様相とはずいぶん変わっている。

中之島での校舎

昭和 57 年４月に、我々第 23 期生は入学した（男性：17 人、女性：３人）。学校長は、当時補綴学第二教室の教授であられた奥野善彦先生であり、教務主任は太田正一先生であった。

入学式を終えた 23 期生は校舎のほうへ案内された。校舎は歯学部および附属病院から離れた敷地内の片隅にあり、背後には日本生命の建物が隣接していた。その古ぼけた２階建ての校舎は、１階に講義室兼休憩室や教官室、倉庫など、２階には実習室、鋳造室、陶材室があった。２階の実習室へ向かうには、建物の外に設置された鉄製の階段を使わなければならない状態で、雨が強く降る　日は、ずぶ濡れになって実習室への階段を“カン・カン・カン”と無機質な音をたて上がったものだ。

実習室

23 期生はその年齢に大きな差がなく、19 ～ 21 歳の中に分布していた。歯科技工概論の講義であったと思うが、河合庄治郎名誉教授がご担当されていた。その初めての授業に配付されたアンケート用紙には、「なぜ、歯科技工士の道を選択したのか？」との質問があった。講義終了時にアンケートは回収され、次週のその講義で資料となった。その中で何人かの者が、「大学がダメ

だったから…。」と書いており、歯科技工士になるという目的意識がなく入学してきたことに対してひどく嘆いておられたように記憶する。当時の同級生をみても、そのほとんどが大学との併願という者が多く、「新人類」などと揶揄された世代であり、また「モラトリアム世代」でもある。

そういった世代を象徴するかのような事件が起きた。当時、テレビ放送の公開録画に一般人（特に学生）の参加型番組が持て囃されていた。そんなある日、同級生の一人が出演するということで、こともあろうか半数の同級生が学校を欠席した。それは学校の知るところとなり、翌日には太田先生から一人ずつ呼び出しがかかり、厳重注意を受けたのではないかと思う。当時の日本国内はちょうど高度成長期のピークに達しており、個人差はあるものの豊かな家庭環境であった。そのような時代を背景とした我々の世代は、目的意識が希薄で、大学進学は遊ぶためという意識が強い傾向にあったと考えられている。私は縁あって、平成５年４月より母校の専任教員を務めているが、現在の学生は現役で入学した者は初めから歯科技工士を目指し、また概卒者では、就職が出来ないから手に職をつけるというはっきりした目標意識を持って入学してくる者が多く、恥ずかしい限りである。

23 期として特筆すべきは、やはり昭和 58 年夏の吹田キャンパスへの移転であろうか。真新しい建物の B 棟２階に技工士学校と技工室が並んで配置されており、新しい技工室で実習を行なうこととなった。当時２年生では、技工室内でライター（技官）による臨床実習が行われていた。そのためすぐ近くには病院研修生がおり、こっそりと技術的なことを教わったり、プライベートな相談にのってもらったりしていたので、学校と技工室間の交流が盛んであった。また土曜の昼まで授業が行なわれていた時代であったため、一年生を含め、病院研修生およびライターの先生方と、昼からキャンパス内の空地でソフトボールなどに興じていたのが懐かしく思い起こされる。現在では、学生の２年生での歯科技工実習は、学校内で行われており、学生と技工室職員や病院研修生との関わりが少なく残念に思う。

第 23 期生　卒業式（昭和 59 年３月）

しかし私にとって吹田移転は、太田先生の“朝一番の仕事”が見られなくなったのが残念であった。“朝一番の仕事”というのは、私の学生生活の中で非常に大きな思い出であろう。中之島での校舎は建物が独立していたため、周りは草が生え茂り、秋には落ち葉で地面を覆い尽くしていた。そんな中、毎朝一番に学校にやって来た太田先生が、校舎の周りの草引きや掃き掃除をされていたのが脳裏に焼き付いている。取り立てて太田先生が私に何かを言うでなく、ただただ、黙々と“朝一番の仕事”を行なっていた。

中之島で毎朝見たあの光景によって、無償で誰か（学生）のために仕事をするということを学び、転じて医療人として、人としてあるべき姿勢を学んだと思う。太田先生がそのような意図で行なっていたとは思わないけれど、「モラトリアム世代」である私にとって、それ以降の人間形成で大きな役に立ったことは間違いないと思う。そういう意味で太田先生は、私に大きな影響を与えた恩師である。

やはり堂島川は、多くの水をたたえ緩やかに流れている。雨が少ない時、また逆に台風などで増水して流れが激しい時もあっただろう。しかし、今は何事もないように流れている。歯科技工士学校も多くの困難、難題があり、その都度多くの先達が乗り越えてこられたのだろう。学校の発祥の地に今も息づいているこの堂島川のように、創立 50 周年を節目として、これからも流れが絶えることなく新たな歴史を刻むと信じている。

会 員 寄 稿

入れ歯の研磨時間 もっと短く出来ない？

選科　中島　徹

故河合庄治郎教授は阪大歯学部在任後期に、ご自身の天然歯を義歯研究のため、自分の意思で抜かれ、「入れ歯の本質を究められようとした」と聞いている。その先生が残された言葉に「歯科技工の本分は研磨にあり」といわれたと聞く。私はこれを聞いて、ちょっと驚いた。今まで入れ歯の良悪は、１に適合性。２に良く咬めること、３に患者さんが満足する審美性にありと思っていたからである。おそらく河合先生はそれらを踏襲した上で更に研磨の重要性を認識された上での言葉ではなかったかと思うのですが。その中には人工物から人工臓器への橋渡しと云う深い意味を汲み取らねばならない、と思います。

それにしても、床義歯の研磨というのは時間をとる。私が計測したところでは、フラスコ出しから仕上げまで、どんなに工夫しても、両側性パーシャルで 30 分、総義歯で２０～２５分かかってしまう。

２０年程前、床義歯の自動研磨機と云うのが出来、バリ取り、荒研磨まで済んだ義歯を小型の洗濯機の様な箱に、研磨剤と一緒に入れて電力でかき回すと云う仕組みなのだが、それだと凸部だけ多く研磨してしまって、歯間部や、人工歯の微細な凸部が飛んでしまうと云う理屈だから購入に至らなかった。しかるに私は未だに自分の手で磨いているのである。

そんな訳で３分でも５分でも時間を節約しようと云う方のために２つのアイテムを紹介します。（既に使っていらっしゃる方にはごめんなさい）

１）NT カッターＭ５００型

歯科材料店のカタログを見ると、模型トリマー、石膏かん子と彫刻刀との間に何も無い事に気付かれる事でしょう。その間に位置する物として、私は長年愛用してきた物です。

サイズ (12.5 × 1.5 × 2.2) で刃は切り出し型、ワンタッチで取り換えが出来、色は赤で何にでも使え実に便利である。又切っ先が折れた時はレーズストーン等で整えると何度でも使え経済的である。もちろん研磨時短縮には大いに役立っている。さらに古くなった刃を焼きなまして二つに割り、ハリエにロー着して自分好みの道具を作る事も出来る。

どこで買うか。これは町の文具店にはあまり出回っていない様で百貨店に電話で問い合わせ取り寄せてもらうか、又は次の事務所へ直接購入を申し込んでください。

大阪市東住吉区中野 4-3-29
NT 株式会社、電話 06-6702-1551

２）グレーズパウダー

云わずと知れた仕上げ研磨用剤である。阪大の技工室では使っているでしょうが、知らない方もいると思うので、この際取り上げた。材質は酸化アルミで（アルミナ）ブラストに使うものと同じで人体には無害である。鹿皮ホイールにルージュで仕上げている方にはぜひこちらに変えてほしい。1.5 キロ 4000 円と少し高めだが {1 床対 10 円以下}、何と云っても手が汚れない、クラスプもそのまま磨けてバフにひっかけることもない、水道水でさっと落ちる、したがって時間は 5 分以上短縮されていく気分的に楽である。ただ小売店では知らない事があるので卸店として次を明記しておく。

日本デンタルサプライ KK
大阪市北区天神橋 3-1-35　電話　06-6352-3390

歯科技工士となって、半世紀

２期生　山本　靖廣

1960 年、昭和 35 年 4 月に開校された、母校、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校が 50 周年を迎える、かかわられた多くの方々、同窓全ての方々と共に 50 年を生かされた慶びを分かち合い、感謝の気持ちで振り返ってみたいと思います。

1980 年、昭和 55 年 10 月 5 日、大阪太閤園迎賓館で挙行された創立 20 周年記念式典からはや 30 年の歳月が過ぎました。昭和 39 年卒業の小生は、東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校・実習科に入る機会を得、2 年後に歯科技工士として巣立つこととなります。今振り返ると歯科技工士になってからというもの、まさに休みのない永いマラソンをしているようで、肉体的、精神的に余裕の持てない時間だったような気がしています。反面、学生時代は経済的余裕は、無いものの時間に追われながらも最も充実していた一時であったような気がします。

我々の期でお世話になった初代校長、松村敏治先生、次代校長　河合庄治郎先生、至近では奥野善彦先生が故人となられたことをとってみても、年月の長さを感じ、初期の我々を育んで戴いた多くの皆様にも 50 周年を迎える慶びをご報告したいと思います。

さて、充実していた学生時代を思い返しますと、昭

和 36 年 3 月、中学校卒業と同時に当校に入学、3 年間を過ごし、39 年 3 月、2 期生として卒業（後、昭和 41 年、歯科技工士養成所指定規則改定に伴い 42 年 4 月、8 期生より修業年限 3 年から 2 年へ、入学資格中卒から高卒に、年齢制限も無しとなった。）授業料無料、教材費なし、更に月額 800 円という生徒手当が支給される技術教育環境というのは他に類を見ないものであり、少なからず授業費用の発生する高校への進学を断念せざるを得ない当時の小生としては、恵まれた運としか云いようがない、今この運を与えて戴いた田舎、社中学校の進路指導の岸本俊夫先生には心から感謝の気持ちでいっぱいである。経済的な余裕もなく、徒歩圏しか行動範囲の無かった時代に、15 歳で始めて単身大阪に来ることが出来ました。

3 部屋に 6 人家族が住まいする、伯母宅の玄関の板の間に居候させて頂くことが出来、大阪での生活が始まった。余裕のない環境の中でも暖かい、家族同様の扱いをして頂き、人の心、温かさを体験させて戴いたと、今は亡き伯父、伯母に感謝したい。しかしこのような境遇は当時、多くの同窓もしかり、特段珍しいことではなかったように思います。

当校で得た、最も大きい、後の我が歯科技工士人生での収穫は言うまでもなく“友”であり、人間関係でした。

のち昭和 39 年 4 月、から東京での生活が始まりました。東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校・実習科への進学です。ここでもまた多くの貴重な体験をさせて頂き、今なお大切な友人関係が続いている。最も歴史のある実習科では、大阪の 3 年間で得ることの出来なかった歯科技工士としての成長があったと感謝するばかりです。

さて、50 年を経た今、歯科技工業界についてはどうかと自問してみると、多くの優秀な先達の奉仕とも云える努力によって改善してきた。しかしこの努力のエネルギーに見合う結果は、はたして正当なものか？労働環境は、労働時間は、それに対する報酬（医療従事者としての収入）は、？残念ながら 50 年の歳月に見合うものではない。50 年を経た今、何が問題で、なにをすべきか、もう一度、総括すべきではないかと思う。

歯科技工士となったときから、歯科技工はそれだけでは成り立たない職種と考えてきた、端的には歯科医療システムの中での下請けと、下請けの特性から当然との見方もある。しかし、歯科技工がほぼ完全に分業化している今この“下請け”の考え方を整理、変換する知恵が必要ではないかと考えています。

過去に歯科技工を“代替から補完へ”と云う意識改革がアピールされた時期があった。小生は、“下請けから、独立へ”と解釈している。ここで云う“独立”とは人、もの、に頼らない、精神性、行動性ということである。自分ともども、歯科技工士一人一人のこの独立性が少々不足していた結果が現状ではないかと思っている。しかし現在の複雑な社会システムの中で個人一人ひとりが努力しても、その限界はあり、一つの職種の改善が安易なものでもないことも事実である。

今、歯科技工業界で躍進している一つは、審美であり、インプラント、そして PC を駆使した CAD・CAM の歯科技工への導入である。ここ数年まさに飛躍的な進歩を見る。これ等は代替の域を超え、正に補完の形になっているのではないだろうか。高度分業化の結果でもある。高度分業化の是非はあるが、この時期に精神性、行動性を加味することで技工業界の将来も見えてくる。しかし、またこれらの対応は多くの歯科技工士が出来るものではない。個人開業医、歯科技工所も淘汰が進行している。とはいえ町の歯科医院の存在は不可欠なもので、形が変わっても無くなることはありえないし、それに伴う歯科技工所もしかりである。

“誰かに”“なにかに”頼ることなく、独立性、独自性を探求し続け、行動すること、これがこれからの歯科技工業界を改善し、発展させ、生き続ける条件の一つになるのではないかと思う。夢はある。

2 期卒業生、18 名今、連絡の取れるのが 11 名、同朋のご健康を願い、50 年、半世紀を歯科技工士として生きてこられたことの幸せに感謝したい。

ありがとうございました！

写真：中西氏（前列中央）慰労会時
筆者（後列右二人目）

バードカービング念願のアメリカコンテストで１位

７期生　竹内　清

第二の人生に、何か長続きがして楽しめることが無いかなあ！と思っていましたところ、縁あってバードカービングに出会い７年が経ちました。

幸い歯科技工の道具があったことと、グラインダーテクニックは本職で、他のCarverとは初めから有利でしたが、バーニングテクニック（焼きごて）やペイントには慣れるのに時間がかかりました。まして、鳥に関する知識が皆無であったため本から骨格、羽の種類、色、サイズまで一からの勉強でした。

鳥の種類は大きく分けてもスズメ目からツル目まで二十種類近くあります。各科目事に殆どの鳥は作ってみましたが、やはり作る者の好みがあって、何故か好きな鳥は出来栄えが良いようです。結果、私はShorebird（シギ､チドリ）に落ち着きました。何といっても厳しい環境で生きる渡り鳥、長い旅で羽がすり減って形が変わってしまいやせ細って死ぬ寸前まで飛び続け目的地にたどり着く、正に感動的です。

歯科技工の経験が、バードカービングでどこまで通用するか腕試しで始めたバードカービング。過去、JBCA（日本バードカービング協会）主催で毎年11月に千葉県我孫子市で開催のコンテストの出展は５回。リボン（1位ブルー、２位レッド、３位イエロー、佳作グリーン）は５枚、ビギナーズクラスから出発して現在中級ですが、中々、中級のブルー（1位）に手が届かず苦戦しています。いつか、ブルーを手にして上級に上がりアメリカに挑戦したいと思っていましたが、月日が経つのみで上達できません。

バードカービングは難しいと思った初めての壁です。まず気付いたのは作品にかける時間、歯科技工の場合どんな難しい仕事でも１週間程度。それ以上かけると仕事にはなりませんし患者さんも待てません。バードカービングは無限の時間をかける作品です。そこが、大きな違いです。時間を十分掛けて妥協のないところまで行かないと良い作品には仕上がらないのです。

丁度、昨年末で再就職していたホームセンターを辞めて、今年から時間が出来ましたので軽い気持ちでアメリカへの出展でした。何度も行かれていますカービング仲間の坂倉さん（名張市）と昨年行かれた野部さん（向日市）と２月９日関西空港から出発しました。持参した作品は昨年我孫子に出展したマダイチドリです。リボンを貰えず落胆していた作品ですが、１月の台湾バードカービング展では結構人気が有って現地の人たちに熱心に見て頂きました。それに気を良くして再度アメリカに持って行きました。期待はせずに観光中心の下見のつもりでした。

会場は昨年と同MCMILLNEVENTCENTERでサンフランシスコから乗り付いてサンディエゴ。メキシコの近く温暖で気持ちの良いところで、カリフォルニアンブルーと言われる真っ青の空のところです。

会場

バードカービング中心のコンテストですが、絵画、写真、フィッシュカービング、アンティーク、椰子の葉を材料にした鳥のカービング、生体のチョウゲンボウやメンフクロウ、フクロウ等、バードカービング以外のものも展示されて大変賑わっていました。しかし、デコイの多いこと、正にカモが中心です。出展総数の半分はあるでしょう。そこが日本と違うところです。日本からデコイを持って行ってリボンを貰えたら十分自慢出来るでしょう。

審査中

審査中

結果

デコレティブ　ノン　フローティング　オープン（出展数 21）に坂倉さん　野部さんが出展。野部さんが佳作。

私、デコレティブ　ノン　フローティングインターメディエイト（出展数 11）で部門 1 位、総合 1 位でした。

故か、さめた気持ちで喜び半ばと言った所です。我孫子で佳作にも入らなかった作品なので複雑な気持ちでした。カリフォルニヤ在住の池田さん、佐竹さん、皆川さんは毎年出展され、皆さんリボンを貰っておられました。何といっても日本の方が現地に居られるのは心強いです。言葉の問題が解消されますので大助かりです。

それにハンバーグやホットドッグに嫌気がさしていた時に、おにぎり、たくあん、たまご焼きの差し入れは最高でした。

カリフオル二ャ在住の池田さん、皆川さん、佐竹さん

殆ど観光と思って出かけた旅行でしたが、サンフランシスコ、メキシコ、特にサンディエゴではミッドウェイ、動物園、自然史博物館、航空博物館（スペースシャトル）自動車博物館、オールドタウン、ダウンタウンと余すところ無く貧欲に周り目的を達成してきました。帰りは鳥の本 10 冊（安い）にお土産のチョコレート（いっぱい）でスーツケース一杯に詰め込んで帰ってきました。6 泊の旅でしたが、サンディエゴの土地勘はおおよそ頭に詰め込んできました。

カリフオル二ャ在住の池田さん、皆川さん、佐竹さん

来年もクラスをあげて出展です。毎年 4 月に開催の WORD（ワシントン、アメリカ最大のコンテスト、世界から約 2000 点出展される）にも参加して頭をガツンと打ってきます。

「学生時代の思い出」

９期生　中西　政博

歯科技工士学校を卒業して早や 40 年が過ぎてしまいました。振り返ってみると 1 年生の時は実習が思うように進まず、日曜日や、夏休みまで学校へ行き、石膏カービングやワックスアップや鋳造等をやりました。来ていたのは小生だけでなく同級生は何人もいたので実習が終わると男同士でミナミやキタへ遊びに行きました。それはそれで楽しい一日だったように思われます。

1 年生も終わり頃に近づくと先輩から歯科医院へのアルバイト（といっても掃除と雑用ぐらい）を紹介され、同期の鳥羽君（故人）と約 1 年間行き、歯科技工士とはどんな仕事をするのか、そこで教えられたような気がします。安い給料でしたが、給料日には 2 人で新世界へ出かけ「ずぼらや」でてっちりを食べて将来を語り合いました。

2 年生になると臨床実習が始まり、いきなり「天国」がやってきました。矯正実習に入り実習室は 2 階になり、出欠はきびしくとられる事も無く、午前中は 3 ヶ月の間自動車の免許を取りに通いました。学校へは昼から通う毎日でした。大変感謝しています。2 年生も秋頃になるとアルバイト（歯科技工）が先輩から回ってきて歯科医院へ行くようになりそこそこの収入を得られる様になりました。そして、同級生達と食べに行ったりしました。冬になるとそろそろ進路を決めるようになり、小生は研修に残る事にしました。9 期生は研修には 7 名残りました。いよいよ最後の学生生活を迎えるようになり全員で勉強会をやったり、ラボ見学、歯科材料の工場見学へも行ったりしてけっこう充実した忙しい 1 年になりました。そして就職することとなりそれぞれが歯科医院、ラボ、病院、会社の診療所等に分かれて行きました。

あれから勤務者は定年を迎える年になりましたが、私はラボ経営で終わりそうです。体力は未だありますが、いつ彫刻刀を置こうかと迷っているのが今日この頃です。

思　い　出

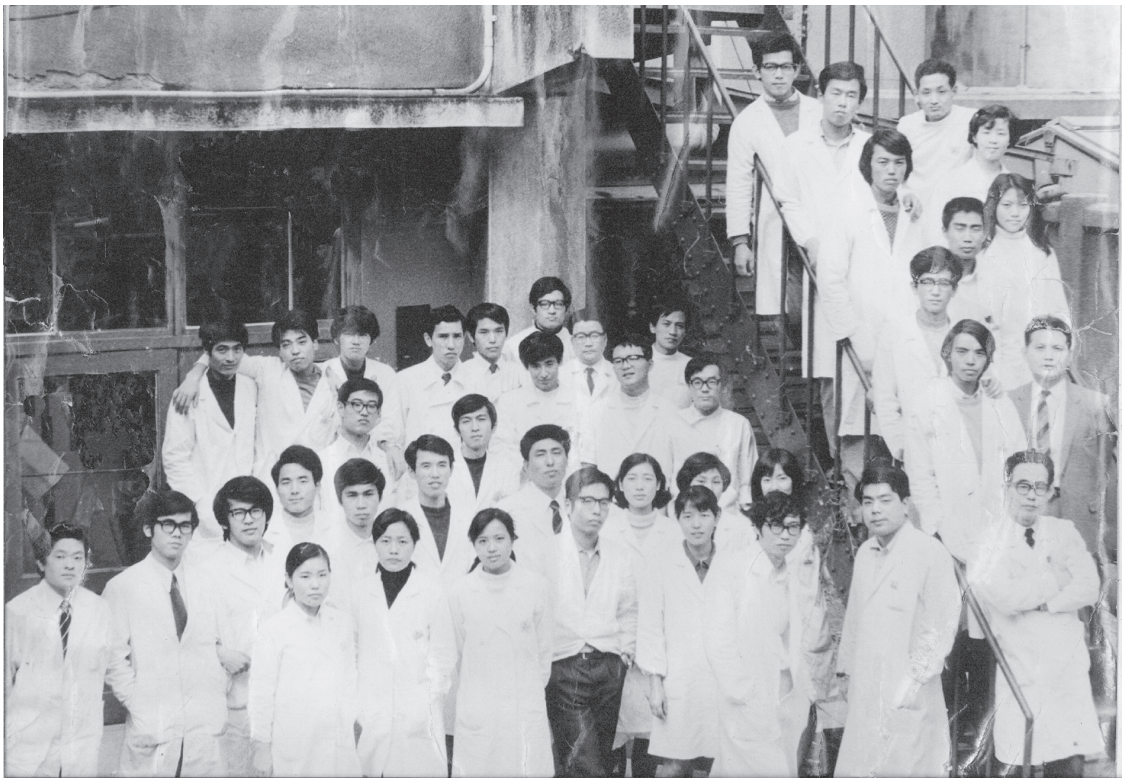
10 期生　釋　康祐

私たち 10 期生が歯科技工士学校を卒業して、もう 39 年になります。同級生の皆さんどうしていますか。この写真は二年生の時に撮った写真で、バックは中之島の歯学部附属病院の裏手にあった歯科技工士学校です。一階に講義室、右の階段を上がって二階に実習室がありました。この写真には、下総校長先生、岡田先生、小谷先生の顔も見えます。先輩の研修生の方や一年後輩の人達も写っています。

この写真を見ているといろんなことが思い出されます。授業をボイコットして、実習生の待遇改善や、臨床自習のカリキュラムのことで学校当局と団体交渉をするといった学生運動のまねごともやりました。大学祭には模擬店を出し、一階の教室に暗幕を張って雰囲気を出し、コンパを開催したこともありました。卒業に向けて、古い校舎の倉庫を借りて暗室にし、手作りの卒業アルバムを製作したものでした。2 年生になってからの附属病院技工室での臨床実習や矯正技工室での経験が、技工現場で役だったように思います。

歯科技工士学校の 2 年間は、本当に短い間ではありましたが、新しいことを学びながら、かなり自由で楽しい充実した期間だったと思います。

歯科技工が好きで今も現役で頑張ってはいますが、これから先、人生も含めてどのように軟着陸していくのか思案のしどころです。



アルプスに背を向け、ウォーキング

13 期生　北村　鉄之助

思ったほど客足が伸びない京阪中ノ島線が開通して早 1 年、「中ノ島」駅下車（出口①）徒歩約 5 分にある大阪厚生年金病院（S27.10 設立）は、当初リハビリ中心の整形外科病院として出発しましたが、バブル経済の崩壊や疾病構造・医療制度の変革に対応すべく、救急医療や ICU の整備など急性期病院への脱皮が図られました。次いで、地域医療連携の強化やワーク・ライフバランスの導入による職員の労働負担軽減が、他の病院に先駆けて企画されました。このような努力とともに、地域住民や医療関係者の厚い信頼と連携に支えられ、大阪市西部地区での地域医療支援病院の役割を担うまでに成長し、現在に至っています。

一方、小泉改革に端を発した年金福祉施設（H13.93 施設）の整理合理化案は着実に推進され、「青春の聖地」として多くの人々に親しまれた大阪厚生年金会館（H22.3.31 閉館）をはじめ、ハートピア熱海を除き、すべて譲渡売却先（民間や地方公共団体）が決まりました。というのも年金記録問題（社会保険庁）のせいで、国民に不信感・懸念・怒り・反感を抱かれ、年金福祉施設のみが集中砲火を浴びてしまいました。しでかした張本人にボーナスまでも支給され安穏としているのには、軟式野球・バレーボール・ボーリングの親睦大会で、交流のあった同じ厚生年金事業団の一員として断腸の思いです。クソッ、「グリーンピア・かんぽの宿」はどうなってるんじゃい！

さて当院の南側にある「野田ふじ」で有名な下福島公園は、中ノ島キャンパス世代にはソフトボールで馴染みと思われますが、今や京阪電車ハイキングの集合場所でもあります。母親の介護から開放され中高年ウォーキング（電鉄会社主催）に精励している私ですが、「阪急電鉄開業記念 100 周年 & 摂津市駅開業記念ウォーク」（約 12 キロ 857 人）に参加し、阪急・箕面駅＜芦原公園＞（10：00）—旧西国街道—萱野三平邸跡—千里北公園（11：15 昼食 11：41）—阪大病院前—万博記念競技場—万博スポーツ広場—阪急・摂津市駅（13：25）と、初めて箕面・千里（高 2 の大阪万博以来）地区を歩きました。循環器病センター・阪大病院前を通り抜けながら、

患者さん来れるの？元気でないと…

こぢんまりとした歯学部やね、…

北千里下車、東へ徒歩約 20 分って…

どこからやって来るのか子供連れの花見客を尻目に、セピア色に染まる大阪ダイビル・ドージマ地下センター・ミスド（JR 福島駅）のバニラシェイク・吉本キネマが瞼に浮かび、「中ノ島キャンパスで良かったぁ」と、しみじみ思いました。

2/7（日）から始まった、「京から大宰府への道ウォーク」（約 23 キロを 1 区間）をキッカケに、どれが天王山なのかわからぬまま桂川・宇治川・木津川縦断ウォーク（JR 長岡京駅 19 キロ 352 人）。乙訓・八幡歴史ウォーク：かぐや姫と西山の里コース（向日市→長岡京市約 11.6 キロ）では、乙訓寺・光明寺を経て「光風台って、ここなんだぁ」と思いながら、長岡天満宮へ。JR 西日本が歴史街道・なぎさ街道として応援している西国街道には、京都に立ち寄るスキーバスからの東寺、JR 車窓からの山崎サントリー工場、高橋大輔（バンクーバー冬季五輪　銅メダル）・織田信成（同 7 位）を擁しスケートリンクのある関大高槻キャンパス、芥川一里塚・郡山宿（椿）本陣にみる昔日の面影もあり、継体天皇陵の南側にあった東芝大阪工場（JR 摂津富田駅）が更地に。飛行ルート直下の西稲公園では、「さっさと伊丹・神戸を廃港にして、関空を救済しろ」と、甲武橋を渡ると、「報徳学園」が。阪神・御影駅の「沢の井」にヘェーッ、全く知らなかった甲南漬本店、潮のニオイがしないなぎさ公園の「人と防災未来センター」、「ヘェーッ、三宮のこんな所に出てきたよぉ…」JR 新長田駅からビューンと飛んでく鉄人 28 号。どんなシーンに出くわすのかワクワクもので、「ヒデキ、感激！」。JR 須磨駅～ JR 魚住駅（11/28）～ JR 御影駅（12/5）と、まだまだ緒についたばかりで参加者が漸減傾向なのが気掛かりで、どうなることやら…

2010 年は、何と言っても歯科技工士学校創立 50 周年ならびに歯技会発足 30 周年ですが、奈良県全域を舞台に繰り広げられている「平城遷都 1300 年祭」（1/1 ～ 12/31）でしょう。世界遺産「古都奈良の文化財」「法隆寺地域の仏教建造物」「紀伊山地の霊場と参詣道（吉野大峰）」があり、飛鳥・藤原、大和高原・宇陀、平城京、斑鳩・信貴山、葛城、吉野とそれぞれの地域どうしの位置関係もしっかり押さえておきたいものです。歴史探訪ウォーク：平城京遷都コース「歩き・下ツ道」（約 28 キロ 200 人）に参加し、近鉄・橿原神宮前駅（8：08）—藤原宮跡、694 年天武・持統天皇＞（8：49）—田原本町役場—唐古・鍵遺跡の西—子守神社・華蔵寺（12：05 昼食 12：23）—売太神社＜主祭神は稗田阿礼＞—秋篠川ちびっこ広場—平城宮跡・朱雀門＜ 710 年元明天皇＞（15：27）に、ヤマトタケルも歩いたといわれる日本最古の道「山の辺の道」に負けじと、案内板、マンホールの蓋・電柱プレート・軒下の風鈴などにみる田原本町・天理市・大和郡山市下ツ道沿道集落まちづくり協議会の熱意が伝わり、売太神社（13：31）からは、主催者である橿原市職員（同世代）と相前後して道連れとなり、リミットの 15 時には間に合わず苦笑交じりのエール交換となりました。

未だ平安京・大津京・紫香楽宮に踏み入っていない私ですが、平城宮跡会場（4/24 ～ 11/7）には、朱雀門・東院庭園・第一大極殿が復元され賑わっています。

半日で廻れますが、「せんとくん平城京１日電車乗車券」（せんとくん缶バッジつき！）で近鉄電車フリー区間大和西大寺⇔近鉄奈良・西ノ京（1 日乗降自由）に行く気力は、失せています。オプションとして神亀６年(729)に謀反の疑いにより自刃においこまれた長屋王邸跡（平城宮の東南に隣接）にあるイトーヨーカ堂奈良店（旧奈良そごう）2F の「珈琲館」に立ち寄ってみては…。

12 キロ（一般向）のウォーキングでは、矢印マークに従いゆったりと歴史・文化に親しみ写真撮影もできるのですが、19 キロ（健脚向）を越えるとそれどころではなく、同行スタッフのアンカー（苦り切った顔）にせっつかれて「今回は下調べ」と、「父の日」にもらったウォーキングサングラスを涙で曇らせながら、交通ルールを守りゴールを目指す「気持ちは 30 歳代」の私です。

「私の近況」

18 期生　星山　相律

友有り、遠方より来る
亦た楽しからずや

先日、アメリカ在住の石橋君の長男から、彼が日本に来ると、連絡がありました。
彼とは歯科技工士学校入学当初から意気投合し、偶然にも、生まれた年も生まれた日も同じ、親友であります。彼は、卒後３年程してアメリカに渡り、ラボ勤めを経て独立をしました。現在、イリノイ州シカゴから車で２～３時間離れたマトンと言う町に住んでいます。渡米後呼び寄せた彼女と結婚し２男の子宝に恵まれました。長男は、3年前に来阪し、英会話の講師をしています。

当日夕方、難波で待っていると、懐かしい顔がやって来ました。ニッコリ笑い合って握手。同時に思い出がいっぱい頭を過ぎります。挨拶もそこそこに、彼の家族と私達夫婦で食事へ。先ずは、互いの近況報告が始まりました。今の家は中古で買ったが、暖炉付で部屋数は７部屋。物価はそれほど安くなく冬は寒い地なので暖房費が高くつくらしい。町には、日本人は彼ら家族だけで、子供たちの小、中学校時代のクラスには中国系の子が２～３人。黒人も少数、他は皆白人だったとか。そんな事もあってか、彼の長男は自分がマイノリティーでなくなる日本に来たかったようだ。彼はアメリカに憧れたが、皮肉にも息子は日本に憧れてしまった。次男は地元の大学を卒業後、ニューヨークの学校に行っている。どの国にも悪い人はいるもので、悪質なデンティストにだまされ、技工料金をもらえなかった事もあったようだ。

そして、次に昔話に移りました。２人で北海道を１ヶ月かけて１周した時の話や、現在東京に住む桝本君と、毎日のように３人で酒を飲んでいた話。安い赤ちょうちんや彼らの部屋、時には学校に泊まって飲んだ事も。安い酒でしたが、おいしい、おいしい、お酒でありました。時を経て今思います。瞬く間に時が経ち、名残惜しいが又の再会を強く約束してお開きになりました。

在学中、２人でアメリカに行こうと彼と夢を語り合っていました。しかし、卒後彼はアメリカへ、私は諸事情で日本に残り、２人の人生は、かなり違ったものになりました。しかし、彼と又、楽しく会えるように、これからの人生も頑張ろうと強く思いました。

おきなわ生活も長くなりました

20 期生　吉岡　宏

学生のおり、母校創立 20 周年を機に、これまで別々であった同窓会を統合する形で歯技会が発足ることになり、その準備会でのことや、太閤園で行われた創立二十周年と歯技会発足記念式典に参加させていただき、祝賀会で学生の私達はあちこちのテーブルを飛び回り、はじめて見る様な料理をいただいたことなど、懐かしく思い出します。それから早三十年、時の経つのは早いものです。

私は、人より長い研修生を終えて、27 年前、沖縄にやって来ました。来た頃は、突然の停電で診療が打切りになったり、台風の後２日も電気がこなかったり、渇水で給水制限が毎年のようにあったりで、これは大変な所に来てしまったと思ったものです。２年後、現在の中部の北谷（ちゃたん）町に移った頃は、海岸沿いは米軍補助飛行場跡地と埋立地で何もない所でした。その後も、埋立地の企業誘致が不調で空地を駐車場にしていたのが、車社会の沖縄と観光客に便利であったこと、嘉手納基地の軍人さんの家族が居ることがアメリカらしいとのことで、店が出来始め、空き地を無料駐車場として整備した所、今やりっぱな観光地です。そうなると移住者向リゾートマンションまで出来る始

末です。ひとつの町が発展するきっかけがどこにあるか本当に判らないものです。唯一残念なのは、プロ野球のキャンプ球団が阪神でないことです。

診療所は丘の上で、米軍の飛行さえなければ（戦闘機のごう音は凄いもので地響きします）静かな普通の住宅地にあります。最近は、台風でもめったに停電しなくなり、大きなダムも完成して断水も無くなりました。今は、春の季節に窓を開け技工をしている時など、小鳥が鳴き、心地よい風が吹く、こんな生活もいいかなと思いながら穏やかな日々をすごしております。

『創立 50 周年』

21 期生　入江　国紀

阪大技学の同窓生の皆様、技学創立 50 周年おめでとうございます。

私も卒業して四半世紀以上になりますが、思い返せば学生のころは楽しいことばかりだったような気がします。中之島の 2 階で実習中に「ジョン・レノンが死んだらしい」と、太田先生から聞かされた時は、その一報にも驚きましたが太田先生から聞いたということにも驚いたものでした。

夏休みが終わって旅行先で台風に会い、新学期の初日に欠席したこともありました。解剖の試験日を勘違いして欠席してしまい、後に追試を受けさせていただいたこともありました。その他にもいろいろなことがあり、私個人としてはよく卒業できたなぁと、我ながら感心もしますが、太田先生はじめ、公私共にご指導いただいた諸先生方に感謝するのみです。卒後は社会の荒波にもまれ、いろいろなしがらみにとりつかれながらラボをやっております。あと、何年歯科技工士をやれるかわかりませんが、楽しかった学生の頃のように、シンプルに生きていければと、この文章を書きながら思う次第です。その為にもこれから先はひとつひとつ、身の回りから余計なものを取り外していかなければと思っています。おなかまわりの脂肪も含めてですが…

母校創立 50 周年に際し

25 期生　一色　忍

創立 50 周年おめでとうございます。25 期の皆様お元気でしょうか？

母校が創立 50 周年という節目を迎えるという事を聞くと、学生時代の思い出がよみがえってきます。しかし、中々集まれる機会もないので、私事ではありますが、近況をご報告させて頂きます。

私は今、名簿の住所は大阪だと思いますが、博多に住んでおります。単身赴任です。サラリーマンの性ではありますが、家族と一緒にすごしていて、いきなり単身赴任しますと、独身時代はそれなりに家事も出来たのですが、今となっては何にも出来ない自分に気がつきます。皆様、奥さんは大事にしましょう。

博多は転勤すると二度泣くと言われています。最初は転勤が嫌で一度泣き、博多での生活が長くなると、今度は戻るのが嫌で再度泣く。つまり博多は、一度住むと離れられなくなる街なのです。

魚は美味く、肉は美味く、（特に）焼酎も美味い。ほぼ毎日酒浸りの日々を送っています。ラーメンは豚骨ラーメン。これも最初は嫌かもしれませんが、慣れてしまえば癖になる味です。現在、九州全土、沖縄が私のテリトリーなので各地へ出張しますが、実は九州内でも、美味しい物、美味しい焼酎は地域によって全く違います。酒の肴にあきる事はありません。博多での一人暮らしを満喫しています。出来れば 25 期集まって近況報告会をしたいですねぇ。勿論焼酎持参します。

最後に、卒業生の皆様がお元気でご活躍され、母校が今後ますます発展し、未来の卒業生たちが、歯科技工業界に貢献されることを祈念し、記念の文章を閉じさせて頂きます。

年賀状の代わりに…近況報告

研 59 年　能間　英治

歯科技工士学校創立 50 周年、並びに、歯技会発足 30 周年、誠におめでとうございます。早いもので、大阪大学歯学部附属病院の歯科技工研修生として 2 年間研鑽を積んで以来、四半世紀が経とうとしています。諸先輩、同窓生の皆々様には、大変、ご無沙汰しております。

私ごとですが、結婚 10 年、ラボ開業 20 年経過して何とか平凡な（荒波立つ！？）毎日を過ごしております。3 年前には遅咲きながらパパデビューし、その 1 年半後 2 児のパパになりました。なかなか心身共にそのスピードとボリュームについて行けず落ち込むことも…。しかし、子供の目線で考えると新しい発見や反省する

ことも多いです。

こなした経験の少ない症例に出会うと躊躇するもので、インプラント上部構造のサブジンジバルカウントゥアなどの情報は、経験豊富な方に聞くのが一番！そんな時、阪大歯科技工室に問い合わせて背中を押して貰って、確信を深めてから仕事を前進させております。

口腔内撮影用にと用意したカメラも、子ども達を撮ることが多く、その 1 コマ添付しておきます。

これからも日々、精進して頑張りますのでよろしくお願いします。

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

技工士学校で得たものは

27 期生　別所　右一

創立 50 周年記念誌に投稿する機会をいただき大変嬉しく思います。何年か前、本誌に投稿した記憶がありますが、その時は終始旅行の話題でありました。今回は歯科技工士学校での事、近況について書いてみようと思い原稿依頼を引き受けた次第です。

歯科技工士学校を卒業し 20 数年、つい最近のように思いますがこのように考えるのは私だけでしょうか。高等学校卒業後すぐに歯科技工士学校に入学した私の同期は幅広い年齢層も奏して個性あふれる面々でした。現役組もいれば大学を卒業し社会経験のある人まで様々。その中でも私に大きな影響を与えたのは横山さんでした。学問に対する姿勢、方法など、今まで適当な勉強方法で過ごしてきた私には目の覚めることばかり。それに見習い今までの考えを一転し追いつき追い越せの精神で頑張ったものの、結局は追いつく事なく卒業しました。しかし自分なりに物の見方、考え方、方法などを身につけることができたのはこの時期です。横山さん以外にも同期の皆や当時の先生方、先輩にもお世話になりそのエッセンスが今の自分を形成したと言っても過言ではありません。本当に意味のある 2 年間を過ごす事ができ感謝しております。

残念ながら現在は歯科歯科技工の職から離れ同じ医療界でも別の仕事をしておりますが歯科技工士学校で得た精神をベースに日々頑張っております。その甲斐あってか、数年前に大学院修士課程を修了、翌年には採択率 3 割の欧州学会（電子ポスター形式の発表）に参加できました。昨年は研究論文を英文雑誌に投稿したところ幾度かの修正をしながらも無事にアクセプトされ海外論文デビューを果たせました。

職場ではつい最近まで下っ端スタッフだった私でしたが今では後輩の指導の傍ら部門システムの管理を担当しており、変わりつつある業務に対応するために四苦八苦しております。他部門との調整や院内 PHS にかかってくる依頼等に対応する毎日ですが、これからの業務にどう対応していくか、歯科技工士学校で得た精神で乗り切ろうと考えています。

創立 50 周年に寄せて

28 期生　後藤　哲史

創立 50 周年、誠におめでとうございます。

私の方はといいますと、会社を興してようやく 5 年が経ち“継続する”と言う事の大切さ、大変さを痛感している只中であります。継続するとは、同じ事をただ繰り返すに止まらず、その時代の変化に対応しつつも将来を見据え、計画を立て実行することなども非常に重要な要素であります。歯科技工士学校にいたっては、その地道な作業を 50 年もの間、繰り返し続けてきたということで、自分達の仕事に照らし合わせてみると感動さえ覚えます。そして、そのことは、私達の力となり、また、重みと伝統には頭が下がります。

私事で強縮ですが、起業時には、多大なエネルギーを必要としました。その時に思い出されたのは、何をそんな風に信じる事ができたのか、これさえ頑張れば大丈夫と、毎日遅くまで一心不乱に歯型彫刻を頑張った学生時代の事でした。その頃の経験があったからこそ、無心で目的に向かっていくことが出来たのだと思います。

それから私は、言いつけを守る出来の良い学生ではなく、先生方には随分とご迷惑をかけたものでした。それでもあたたかく支えてくださった事は、今でも感謝しています。現在も様々な方々に支えられ、日々精進しております。

現在、並行して週に一度、非常勤講師として学生に接する機会をいただいています。その学生達は、私達が学生のころに比べ、良く言うと“素直”で、“諦めがいい”様に感じます。「最近の若者は…」というのは、よく耳にするフレーズですが、日本の古典にすでにそういったくだりが登場するそうです。老婆心でしょうが、学生にはもう少し、“わがまま”に“悪あがき”して欲しいものです。そうする事で、自分にしか出来ない何かが見つかり、自分の力で成しえた喜びや自信につながるものでしょう。そして、それが仕事を継続する原動力となり、あなたにお願いしたいという信頼を得るに役立つ事と思います。

諸先輩方には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。皆様のご活躍、ご発展を祈念いたし、記念誌発行のご挨拶とさせていただきます。

創立 50 周年に寄せて

33 期生　石田　真里

この度創立 50 周年ならびに歯技会 30 周年を迎え誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

卒業して今年で 17 年目を迎え、年月の経過の早さに驚きと、感慨深いものがあります。

さて私事ですが、卒業後に大阪大学歯学部附属病院の歯科技工研修生として 2 年間臨床で学ばせていただいた後、東洋医療専門学校の歯科技工士学科の専任教員として勤務し、今年で 15 年目に突入しました。東洋医療専門学校は元々 2 年制でしたが、11 年前より 3 年制教育がスタートし、おかげさまで業界の方々から好評価を頂いています。

学生時代を振り返ると、33 期生の中でも学校に通うのは人一倍好きで学校生活を満喫していた私ですが、歯科技工実習の方ではふるわず隣の席の阿南くんにワイヤー屈曲を手伝ってもらったり（笑）、後ろの席の川端さんにワックスアップのぐちを何度聞いてもらったかわかりません。その私が教員を 15 年も勤め続けることができ、自分でも、そして同級生の皆様も信じられないことでしょう。

ただ、自分が学生時代に歯科技工を習得するのに苦労しただけあって、不器用な学生さんの気持ちが解かるので、どうやったらより簡単に理解してもらえるかを念頭において日々学生さんの前でデモンストレーションをしています。それでも、入職した当初はデモで手を動かしながら言葉の説明をいれることに慣れず、緊張して手も声も震えることはしょっちゅうでした。最近では手元を拡大するためにビデオカメラで撮影し、それを大型テレビで移しながら説明するデモが学生さんに好評です。ビデオ撮影は、時間を効率的に使用するのにも有効で、録画して早送り・巻き戻しが出来、一時停止して詳しい説明を加えるなどの工夫も可能ですので必須アイテムになりました。また最近は、左利きの学生さんも子供のときに矯正されることが少なくなったのか、必要なときは左利きのデモもできるようになりました。

何事もそうですが【好きこそものの上手なれ】をモットーに、歯科技工を“面白そう！”と思ってもらい、学生が今はできなくても何回もやればできるようになり、それが楽しいと思ってもらえるように時にはおっさんギャグをいれながら、私自身が楽しんで歯科技工をしているところを見せるよう心がけています。まだまだ未熟な私ですが、学生とともにこれからも成長していけたらなぁと思います。

仕事のお話ばかりしてしまいましたが、プライベートでは最近テニス仲間と夏はウェイクボード、冬はスノーボードと新しいことにチャレンジしています。何事も前向きに楽しく取り組むことで、☆アンチエイジング☆を目指して頑張りたいです。

それでは、33 期生の皆様、ぜひまた同窓会でお会いしましょう！

新婚旅行に多いハワイに行って参りました～

42 期生　大石　礼子

こんにちは。42 期生の大石です。今年の 1 月に結婚、5 月に新婚旅行兼友達の結婚式でハワイに行ってきました。まず、行き帰りのデルタ航空があまりにも狭くびっくりしました。キャビンアテンダントの女性（外国の方です）に WATER 下さいと飲み物を頼むとなんと！！！ビールが出てきました。サッポロ一番！！！そして帰りの飛行機の

中で免税品を買おうと注文書をキャビンアテンダントに渡すと”少し待って下さいね”と言われたので待ってみると…気が付けば日本！！関空の中〜〜…完全に忘れ去られていました…。

飛行機の話はここまでとして☆ハワイ☆の話に入りたいと思います。ホテルはヒルトンハワイアンヴィレッジでした。あまりにも広すぎて着いたそう受付がわからず探しまくり、受付に着いたと思えば、日本語がほとんどわからないスタッフでチェックインに時間がかかり、次に自分達の泊まる棟を探してもなかなか見つからず、やっと見つけたと思えばどこから部屋に行くのかわからず周りをグルグル周り、部屋に着いた頃には二人ともヘトヘト状態でした。

２日目、３日目ともなれば、やはりなにがどこにあるのかわかる様になり自分達の行きたい所へなんとか行けるようになって来ました。そこで…一度食べに行ってみたいお店があったので行きました。（もちろん人通りが多い場所です）しかし……買い方がよくわからず断念…少し裏にあるセブンイレブンで食べ物を買いホテルへ戻りました。日本と違い美味しくなかったです。食べ物はさておき、友達の結婚式はとても綺麗でした。もちろん主役の花嫁が一番綺麗でリムジンに乗ってお出まし〜海辺の教会は、神父さんが立つ後ろはハワイの海が一面に見えるように大きなガラスになっていました。日本の海とは違いとても綺麗！！！

そんなこんなで無事何事もなく？？私は帰る前日にトロリーバスに乗っている時に帽子がふっとんで行き置き土産をしましたが…無事帰路に着きホッとしながら飛行機に乗っていました。天候が悪く飛行機がかなり揺れ、二人共飛行機酔い…とても気持ちが悪かった…。とても思い出に残る旅行になりました。しかし、ハワイの人はとても前向きでとても明るい人が多かった。見習いたいものだと思いました。そして再びハワイに行きたいと思いました。

最近の趣味

45 期生　林　奈津子

早いもので、私が歯科技工士として働き始めて今年で５年目となりました。

学生時代にいろんな方から「この業界は本当に厳しい」と聞いていたので不安を抱えながらの就職でしたが、自分なりに必死に仕事に取り組み、周りの方々にも支えて頂いて、充実した日々を送りながら歯科技工士を続けております。

仕事を始めてすぐの頃は、仕事に精一杯でなかなか自分の時間をつくることができませんでしたが、少しずつ仕事に慣れたころから「このままではいけない」と思い始めました。

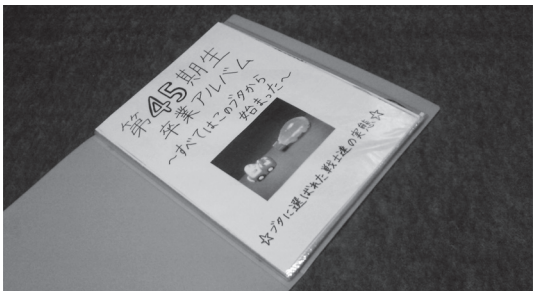
昔から休日は家でゆっくり過ごすのが好きでしたが、週末は出来るだけ外出するように心掛け、連休は旅行や少し遠出をし、初対面の人たちと話せる場にも積極的に行くようになりました。最近だと金沢や広島へ旅行に出かけたり、大勢の初対面の人たちがいるキャンプに参加してみたり。近場のお店を紹介している 雑誌を片手にいろんな場所を散策するという趣味もできました。まだまだ下手ですが、綺麗な景色や面白いものの写真も撮り溜めています。社交的な方々からすればあまりたいしたことではないのかもしれませんが、数年前の私ではとても考えられなかったことばかりです。

こんな風にたくさんの人たちと接する機会が増えると、自分の世界の狭さを実感させられます。もっと自分の周りの人たちの事を考えていけるように視野を広げていくことが大事だなと改めて思います。

これからもできるだけ自分から行動していろんな人たちと接し、もっと世界を広げられたらなと思います。

■想い出の品■

コメント：学生時代に作ったアルバムです。
みんなで想い出の写真を持ち寄り、コメントなどを集めて原稿を作り、印刷して全員に配布しました。



技学の思い出

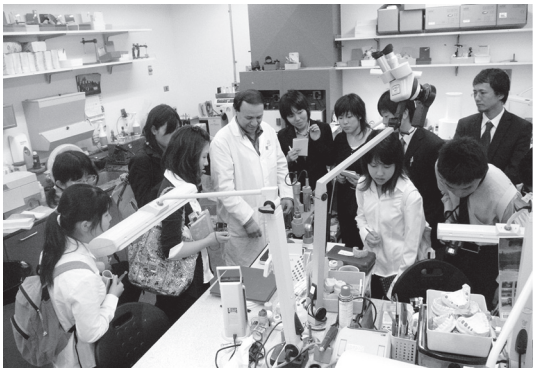
46 期生　貞松　寛観

エピソード１〜海外研修

わずか２年という就学期間、日々学業に励む中、在学中の最大のイベントは海外研修だったろう。自身はプライベートで何度か渡航経験はあったが、新卒で入った同期にとっては、いわば卒業旅行でもあった。当時は円安、原油高もあり懐には少々辛い時期であったが、それを補って余りある内容だったように思う。DenTech、フジセラミックスや UCLA 訪問など海外の歯科補綴の現状を目の当たりにし日本のそれを憂える一方で、半日はテーマパークやショッピング、宿舎では夜遅くまで語らうなど勉学あり遊びありのスケジュールで、皆にとって一生に残る思い出になった。

エピソード２～アルバイト

学生は、時間はあるが金はない。特に社会人を一度経験した後ではそれがことさら身に染みた２年でもあった。そんな中アルバイトでお世話になったJTCには、勉学の機会を提供してくれただけでなく卒後の進路にも助言をいただき大変感謝している。エネルギッシュな田中社長との出会いがなければ、おそらく今の僕はなかっただろう。就職先で歯科技工を行なうことはないが、間接的に歯科医療に携わることができているだけでなく、世界的に著名で今の歯科技工界の先駆者的存在たるテクニシャン、歯科技工士のパートナーであるドクター、あるいは海外から会社見学に訪れる方との出会いなどもあり、日々チャレンジングで充実した日々を過ごせている。



エピソード３～恩師

こぢんまりとしたクラスで常勤講師陣は３人の少数精鋭主義だったが、勉学だけでなくレクレーションが絶妙に配分されたカリキュラムは他校に誇れるものだったと思う。特に臨床実習は緊張の連続で、指導は厳しかったが、将来の僕達のことを思いやる町先生や横山先生には補綴物に真摯に取り組む姿勢を学んだ。言い換えれば補綴物に愛を注ぐということだろうか。また、教務主任の林先生には勉強や進路のことで陰日向に心をくだいてくれた他、卒後も後輩とコミュニケーションをとる機会を与えていただき、こうしたご恩は一生忘れられないだろう。

結び～同期の友へ～
顔を合わせる機会は段々少なくなってきたが、在関、地方でそれぞれの道を頑張っていると思う。時代はいっそう加速し刹那的になりつつあるが、ほんの一瞬で、そうそう巡って来ない縁を逃すことなくしっかり掴んでほしい。そしてその縁を枝葉のごとく伸ばしてくれたらと願う。それは周りだけでなく君達にも実をもたらすのだから。

「技工士学校を卒業して」

49 期生　中島　有香

この度は、歯科技工士学校創立 50 周年ならびに歯技会発足 30 周年、誠におめでとうございます。

49 期生である私は母校を今年 3 月に卒業しました。一度社会人を経験してからの技工士学校入学だったので、自分の年齢などを考えると卒後すぐに就職した方が良いかとも考えましたが、技工士学校での臨床実習などを通してもっと知識や技術を身につけたいと考えるようになり、現在は大阪大学歯学部附属病院で技工研修生として頑張っています。

研修が始まり、他の学校卒業した研修生の話を聞いてとても驚いたのは、学校によってカリキュラムや教育内容などが全く違うということです。私はこの学校に入学し勉強することができて本当に良かったと感じました。

今、私は歯冠班に所属しています。臨床実習が始まった当初は自分がほとんど何もできていないことにショックを受けることも度々ありました。インレーやクラウンの技工から始まり、それからブリッジや前装冠も配当されるようになり、まだまだ未熟ですが先生方にご指導いただきながら毎日研修に励んでいます。

先日初めて配当されたメタルボンドがやっと完成し（半分以上先生の手を借りましたが・・・）数日前にセットされるところを見学させてもらいました。実際に自分の作った修復物が患者さんの口腔内にセットされるところを見学することによって、私たちが作る修復物の先には常に患者さんがいるということを強く実感し、それと同時にその責任の重さを感じています。私が一生懸命作った修復物がこれから患者さんと一緒に何年も生きていくのかと思うと、なんだかうまく言葉では表せませんがとにかくとても感動しました。

研修が始まって約 4 カ月、臨床実習と併行して他には模型を使った基礎実習や、スーパーバイザーによる講義がありました。4 月にはスーパーバイザーの西村好美先生による講義を受け自分の彫ったカービングを見てもらう機会がありました。カービングの重要性を再確認するとともに目で見たものをそのまま同じように再現することがこれほど難しいことなのかと四苦八苦しています。8月にはカービングコンテストがあるので、今は必死に模刻カービングに取り組んでいます。

研修が進むにつれて学びたいことどんどん増えてきて、ぼんやりしていたら研修の 1 年間はあっという間に過ぎてしまいそうです。歯学部附属病院という整った環境の中で技工士の先生方やドクターの先生方に教えていただきながら、一つ一つのケースをここまで時間をかけて丁寧に作ることができるという機会はこの先二度とないと思うので、この環境で技工できるということを最大限に利用して、初心を忘れることなく残りの研修期間を有意義に過ごしたいと思います。

そして、「これだけは誰にも負けない」という技術を持った歯科技工士を目指してこれからも頑張ります。

母 校 だ よ り

岡野　香

この文章の下書きをしながら、今までの事柄を思い返しました。本校に入学してから１年半、現在に至るまでの日々は目の前にあることを１つ１つやっていくのに精一杯であっという間に過ぎてゆきました。そんな日々の中で、気になっている言葉があります。

学校見学に行った時のことです。すでにオープンキャンパスは終了していた秋、一人でも学校を案内して下さるということで早速（正確には慌てて）申し込みました。教室を案内していただいた後、先生との１対１の席で色々質問した中、「歯科技工士に必要なことは何ですか？」の問いに先生は「使命感です」とおっしゃられた。「使命感かぁ・・・。」考え足らずの私を先生は見透かしていたのか？いなかったのか？その時の私には『使命感』という言葉に響くものがありませんでした。

改めて考えると私は今とても恵まれた環境にいます。本校では歯科技工はもちろん、歯科に関連する幅広い事柄を学ぶことが出来ます。講師は大学の歯学部や附属病院の先生方、業界で活躍されている本校卒業生です。そして何の巡り合わせか一緒に机を並べることとなった同期の面々と、私は多くの人達と出会い刺激を受けています。

私にとっての『使命感』とは？以前は答えられなかったが、多くの人達との出会いの中で私の中にかすかに糸口が見えてきたような気がします。私なりに響く答えを見つけ、今後の道しるべとして社会人としてまた人として成長してゆきたいと思います。

岡本　莉奈

私が歯科技工士という職業を知ったのは中学３年生の頃、高校入試の志望動機に使う為に読んだ「13歳のハローワーク」の中で見つけました。高校生の間はそれ程歯科技工士という職業をはっきり知らないまま、と言うよりは何も考えずに過ごしました。再び歯科技工士を意識しだしたのは高校３年生の夏です。殆どの友達が大学進学を志望していましたが、私は目的なく大学にいくというのは嫌だったので、中学生の頃から頭のかなり隅の方にあった歯科技工士の専門学校に行くという進路を選択しました。そして無事にこの学校に入学して現在に至ります。

入学したての頃は何もかもが新鮮でした。専門的な内容ばかりの毎日で、テスト前などは特に勉強するのが嫌になったりしました。実習も入学したての頃は、ひとつひとつの作業が何の為にあるのかなど考える余裕も知識もなく、先生の教えるままにやっていました。今もまだまだ未熟ではありますが、以前よりは考えて技工作業をする事ができる様になったと思います。歯科の知識は覚えては忘れ忘れては覚えを繰り返し、また実践を経て理解できる事も増えてきて、着々と歯科技工の楽しさややりがいを見出せる様になってきています。

その中で、歯科技工士の現状も少しずつ分かってきた今、まだ発展途上にある私達が『自らの手で明るい未来を切り開くのだ』という熱い意思を持って、ずっと歯科技工士を続けられるよう努力したいです。

加藤　舞

歯科技工士を目指して日々努力にあけくれる毎日です。初めての事に失敗を繰返し、まわりに迷惑をかけてばかりで、こんな状態で本当に歯科技工士になれるのだろうかといつも不安になります。また現在の歯科技工とそれをとりまく現状は深刻な問題を抱えていると聞きます。なので、不安がよりいっそう一杯に思ってしまいます。

しかし私は歯科技工士になりたいと思います。それは何も知らなかったころの自分の思いとは現実は全く異なってしまいましたが、歯科技工の現状を知ったからこ

そ、よりよい歯科業界を築いていくのは私たちの世代なのだと思います。まだまだ未熟で失敗ばかりしますが、失敗なくして成功はないと私は思います。出来なかった事をくり返すうちに出来るようになった時の達成感はとても嬉しいものです。そしてまわりの人達が認めてくれる。それは大きな自信にもつながります。私は未熟という言葉でも足りないぐらいの人間だけど、失敗してもくじけないで頑張っていこうと思います。いつか患者さんに感謝してもらえるような歯科技工士になる為にそれが私の歯科技工士を目指してです。

齊藤　正樹

歯科技工士を目指して。が今日の文章の題目な訳でありますが、今現在、私の心境としては、この題目の目的に対して迷いが生じている為、おそらくではあるが求められている様な内容を書くことはできないということをご容赦願いたいと思います。

何故、歯科技工士を目指すということに迷いが生じたのか。これについては私にとって歯科技工士としての捉え方についてによるものです。私は歯科技工士とは、ある種の職業として捉えているからで、仕事ができなければ生活を営むことはできないと思います。学校で学ぶうちに私は歯科技工士としての素質が足りないと感じる様になりました。将来的に技工物を数多く製作している自分というものが想像できない状態にいます。そうすると、仕事が出来ないということは収入を見込めないイコール生活が出来ないということです。つまり、現時点において将来に対しての不安がある為迷いが生じているのです。

この業界は技術を持っていてナンボの世界です。言いかえると、いくら勤務態度が真面目だが技術が並みの者よりも、多少人間性に問題があっても技術を持っている者の方が重宝がられるのであろう。（社会主義ならともかく日本は資本主義社会であり、例えば同時間与えられて多数の物を製作する者の方が、収入が多いという当然の結果の様に・・・。）

よって、現在この様な心境により、迷いが生じているということを述べたましたが、そんなものはただの負け犬の遠吠えだと言われればそれまでであるので、あくまでも個人の考えとしてとらえていただきたい。

海外研修旅行：デンテックインターナショナル

柴田　崇継

歯科技工士の行う職業を知ったのは、約２年前のことでした。その頃に抱いたイメージは入れ歯を作ったり、銀歯を作ったりするという単純なものでした。そこから、歯科技工士の行う職業の探求が始まりました。自分の口腔内にも、身近な人の口腔内にも、歯科技工士の行った仕事の１つが存在している。こんな身近に仕事の軌跡があるのに、自分は全く知らなかったなんて驚きを隠せませんでした。しかし歯科技工士が、歯科医院に行っても表舞台に出て来た事がなかったことを思い出し、少しほっとしました。一般の人は知人に歯科技工士が居ないとか、あまり知らないようだということもその後いくつかの機会で判明し、ほっとした要因の１つです。歯科医師と歯科衛生士の陰に隠れた縁の下の力持ちという歯科技工士の存在に憧れのようなものも感じました。実際には歯科医師の指示に従って、顔も見えない患者さんの模型とにらめっこしながら、患者さんの笑顔を想像し、細かな作業をこなしていく。そして出来上がった技工物が、再製で戻って来ず、ものによっては長く使い続けられることを祈りながら見送る。そんな歯科技工士になるために現在、与えられた課題や作業だけでなく様々な情報を得て、常に何か新しい事を探していく日々を送りたいです。厳しい歯科医療界にあっても、楽しんだり苦しんだりしながら、こつこつと前へ進んで行きたいです。

立花　弘康

私が歯科技工士をめざしたきっかけは、友人の看護士さんから仕事のやりがいを聞いて、私も医療関係に興味を持ちはじめたからです。それから医療関係の仕事について調べていくうちに、直接的だけでなく間接的に患者さんの健康増進に寄与できる歯科技工士のことを知り本校へ入学しました。入学してから今まで、技術面での自分の理想と実力がかなりかけ離れ、授業についていくのがやっとでしたが、最近少しずつですが補綴物を製作し完成した時のなんともいえない達成感を得ることがありまする。またそれ以上に先生が授業で指導してくれるように作業し、問題なく補綴物が完成したときは、なんとも言い難い気持ちになります。本来は、先生が教えてくれる理屈を全て理解して製作していかなければならないですが、まだまだできていません。以前は先生が製作した補綴物をただマネするよう心がけていましたが十分な補綴物ができないので、今は理屈を考えるよう心がけています。そうすることによって多少補綴物製作の理論が理解できるようになった。講義で先生方が共通して「理屈を考える技工士は早く上手になる近道である。」と言われる。このことが私の頭に印象深く残っていて、卒業して社会に出ても自分の技術を理屈で説明できるようになりたいと思います。

谷川原　暖

私は今、歯科技工士になるために勉強しています。この学校に入る前は歯科技工士という職業があることさえ知りませんでした。高校を卒業してからの進路を何も考えていなくて悩んでいました。そこで色々な職業について調べていて目についたのが今目指している歯科技工士でした。自分で作った補綴物で少しでも困っている人の役にたちたいと思ったからです。

そして、入学してから１年と少しが経ちました。最初は初めてのことばかりでうまくいきませんでした。今でもうまくいかないことが多くあります。特に自分が苦手だと思ってしまった作業はとても難しく感じてしまいます。国家試験では実技と筆記があるので、筆記のための知識も実際に行う動作に関連させることによって覚えていきたいと思います。これからも、自分の能力を高めて、正確な技工物を作る歯科技工士を目指していきたいと思います。

海外研修旅行：UCLA

中芝　裕介

私の父は歯科技工士をしています。幼い頃から私は父の技工所に遊びに行っては、ワックスアップ、研磨をしている姿を眺めていました。父が暇な時には、終わったケースの模型をもらって、何度かワックスアップをやらせてもらいました。今考えればその時から歯科技工士になることを意識していたように思います。中学・高校になるにつれて、その気持ちはどんどん高まっていき、本格的に歯科技工士になることを夢見ていました。

高校を卒業してこの学校に入り、毎日知らないことや新しいことの連続で、正直ついていけるか不安でいっぱいでした。しかし、先生方には厳しくもとても熱心にご指導頂き、何とか授業についていくことができました。

この学校を卒業すると、さらに大変な毎日が続いていくと思います。しかし私は一医療従事者として、どんなことにも真剣に取り組み一人前の歯科技工士になりたいと思います。

永山　一聖

僕が歯科技工士になろうと思ったきっかけは、プラモデルなどの模型を作ることや細かい作業をするのが好きだったからです。
しかし、最初のころはどんなことをするのかわからなくて友人の親の方から話を聞いたりして、思っていた以上に大変だということを知りました。

この学校に入って様々な人、学校の先生方や先輩・後輩・臨床のドクターと関わることで自分の目指す歯科技工士に進化していくと２年に進級してから思い始めました。社会に出られるように様々な困難を玉砕し、自分の道を歩むのもいいですが、そんなに簡単なことではないと思うので、自分の得意な事・不得手な事に早く気づくことが大切であると思っています。失敗したとしてもそれらの悔しさを糧にして諦めずに、また次の課題の力として覚えておけば自分のためにもなり力もつくと考えていた時期もありました。

天武の才能を持っている人もいれば、そうでない人もおりますが、全員に歯科技工士になる資格があるので努力をすることで歯科技工士への道は開けると思っています。

日南　義貴

私が歯科技工士を目指したのは、やりがいのある仕事がしたい、誰かの役に立ちたい、モノづくりの仕事に携わりたいと思ったからです。元々、細かな作業が好きで、手先が器用な所を活かせる職業は何かと考えていた頃に家の近所の方が歯科技工士をされていたことをきっかけに、興味を持ち挑戦しました。

最近私は、歯科技工士という職業はとても奥深いものだと強く感じています。２年生になってか歯科技工実習が始まりましたが、実習を通して実際の患者さんの失われた歯を人工的に作り、審美性や機能面において回復させることの難しさを知りました。また、患者さんの健康面や精神面において、助けることが出来ると肌で実感したからです。

そして、歯科技工士は「ミクロン単位の世界」で勝負しています。その数ミクロンが狂えば患者さんは口の中で違和感を覚えますが、計算された高精度の補綴物が口腔内に入り、患者さんの体の一部となり食生活を支えます。このように、この仕事の難しさや責任の重さが逆に自身の向上心に繋がり、もっと早く上手くなりたいと思い、１つ１つの作業を考える様にしています。

最後に、これからも多くの事を学び、技術的にも精神的にも成長して社会に貢献できる歯科技工士になりたいです。

桃原　督雄

私は、サラリーマンを 10 年間経験し、その後アルバイト等をしながら、「天職とは何か？」、「自分が本当に

やりたい仕事は何か？」と模索していました。そんな中、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校のホームページを見つけ、歯科技工士の仕事の内容・製作物・阪大の講師陣の方々や研究への取り組みに興味を持ち、入学を決めました。

学校生活は、1年生時は講義がメインで材料の特性や解剖学的基礎知識を学び、実習では技工の基本中の基本、フィンガーレストを置くこと、エバンスの持ち方から教えて頂き、2年生になって歯科技工実習が始まりましたが、いざ患者さんの模型を前にすると、先生方からの指摘は基本的な事ばかりで、いかに基礎実習が大切だったのか痛感させられました。技工物は1つ1つの正確な作業の積み重ねと胸に実社会でも役立てたいと思います。

残りわずかな学校生活ですが、国家試験までガンバリたいと思っています。

海外研修旅行：ユニバーサルスタジオ

日高　美幸

2年前に定期健診で行った歯科医院の先生が歯について熱心に話をしてくれた時に、歯科技工士という職業があった事をふと思い出して調べ始めた事が、私の歯科技工士を目指すきっかけでした。医療にかかわる仕事に就く事を考えた事が無かったのですが、漠然と何か人の役に立つ物作りを仕事にしたいと思って模索し続けていた私は、「これだ！」と思いさっそく受験勉強を始めました。社会人を10年ほど経てからの受験だったので親に反対されると思い内緒にしていましたが、受験票が送られてきてバレた時に賛成して応援してくれたのがとても嬉しく思いました。受験勉強→合格→3月末まで仕事→4月から授業。気がつけば入学してから1年4ヶ月が経過。自分が歯科技工士を目指し始めた時の事を思い返す余裕も無く、毎日凄いスピードで過ぎていきます。将来は歯の事で悩んでいる患者さんが、歯の事を気にせず思いっきり笑顔になれるように、いい技工物を作る歯科技工士になりたいです。

山口　真理奈

私が歯科技工士という職業を知ったのは、高校3年生の時です。そのときは漠然と入れ歯や詰め物を製作する仕事だと考えていました。

しかし、実際入学して実習や講義を受けて、補綴物1つとっても単純なものではなく、本当に自分に製作することができるのかとても不安に思いました。

そして、実習が進むにつれ補綴物を製作することの難しさを実感しました。ワックスの扱い方や石膏の扱い方など、全て初めて触れる物ばかりで慣れるのが大変でした。今でも扱い方が完璧ではありません。そのように難しさを実感しながら初めて完成させた補綴物を見た時、「本当に自分で製作できた。」と、とても感動しました。

今は、歯科技工の新たな可能性を知り、ますます興味を持ち始めている所です。その可能性を広げるためにも、歯科技工の技術を磨き日々精進していきたいです。

星野　翔平

私が歯科技工士を目指したきっかけは、幼い頃の環境でした。私の母は4人兄妹の末っ子で、以前歯科衛生士をしていました。そして、他の3人の兄弟も、歯科医師、歯科技工士として現在も歯科医療従事者として働いています。そのため幼い頃から身近に歯科医院や歯科技工所があったのがきっかけでした。

高校生で進路決定の時期となり、歯科技工士を選択した私は歯科医療に従事している身内（母親も含め）全員から反対されました。理由は、この業界をよく知っているからこそのことでした。理由は「長時間労働」、「低賃金」、「自身の健康を損なう」などといった決して楽な仕事ではないからでした。実際に、入学しわずかではありますが歯科技工士業界の現状がわかってきて身内が反対した理由にも納得しました。しかし、どんな業種と比べたってそういった環境に差はないと思います。私は苦しい環境の中で努力や工夫をし、成功と失敗を積み重ねることで人は成長していくと思っています。だから私はこの道がとてもスリリングであり、すごくやりがいのある仕事だと思ったので歯科技工士という「職人」になることを決めました。

これからのビジョンはやはり日本に留まらず世界にも進出できるようになることです。幸い自分はまだ二十歳で時間は残されていると思います。なので、より多くの技術と経験を、より多くの環境で学びたいです。

五年後、十年後、二十年後先の自分が高い技術を持ってトップレベルの歯科技工をするためには、日々の鍛錬が必要不可欠です。「妥協ばかりしていたら、結局それなりのモノにしかならない。」と私は思います。

これが私の情熱であり、動機です。この気持ちが冷めることなく歯科技工を続けていきたいです。

業　績　目　録

平成 12 年　2000 年

●論文原著

○「マウスガードシートの研磨方法に関する評価」
スポーツ歯誌　3：25-30,2000 3：25-30, 2000.3
前田芳信、町　博之（第 23）、米畑有里、林　克哉（第 12）、
横山菜穂子（第 27）、髙橋純造

○「マウスガード製作のための模型の準備条件」
日本歯科技工学会雑誌　21：44-48,2000 21：44-48, 2000.5
町　博之（第 23）、前田芳信、米畑有里、林　克哉（第 12）、
横山菜穂子（第 27）、竹内正敏

●雑誌投稿分

○「金属芯・セラミック管・セラミックス中空人工歯の 3 構造模型にて、色および形態の構造を検討する。」
QDT.2000 vol.25 No,10
下澤　茂（第 17）

○「ゴミ袋を作業ボックスとした集塵道具の開発・試作」
QDT.2000 vol.25 No,12
楠　智恵（研 2）、大野健夫

○「加圧埋没法と鋳造精度の検証」
歯科技工　2000 vol.28 No,7
松永　章（研 1）

○「歯科技工室における粉塵対策「新方式の集塵機とフィトンチッド併用効果について」
歯科技　2000 vol.28 No,8
山本靖廣（第 2）

●講演・学術学会発表

○「Retention Force of Full and Roofless Dentures in Vitro.」
IADR,7.4.2000. Washington.
Fumio Teraoka, Masafumi Nakagawa（研 4）, Junzo Takahashi.

○第 35 回日本歯科理工学会　2000 年 4 月 13 日　鶴見
「義歯床用レジンの改質に関する研究」
寺岡文雄、中川正史（研 4）、木林博之（第 22）、髙橋純造
「プラズマ処理による材料表面の改質（第 1 報）高分子材料の濡れ性」
寺岡文雄、中川正史（研 4）、濱田吉之輔、髙橋純造

○第 36 回日本歯科理工学会　2000 年 10 月 15 日　岡山
「裏装材による義歯の変形に関する研究」
中川正史（研 4）、寺岡文雄、髙橋純造

「生体分解性高分子材料の物性制御に関する研究　第 1 報」ポリ乳酸の分解速度について」
寺岡文雄、中川正史（研 4）、髙橋純造

○日本歯科技工学会　第 22 回（平成 12 年 9 月 16 日・17 日）静岡県コンベーションセンター
【一般講演】
「残留モノマー量を抑えたレジン製頭蓋骨欠損修復物の製作」
池永　司（研 9）

「シェードテイキング・トータルシステム　NCC システムとは？」
藤野大輔（研 8）、岡田尚士

【デモンストレーション】
「磁気アッタチメント『マグネックス 2 』について」
岩切信也、小原正夫、沖本祐真、中野靖史、高橋　均、
小堀美絵、藤野大輔（研 8）、岡田尚士、吉田比呂志

「歯冠用リン酸塩系新規埋没材『ベルベティ 』について」
中野靖史、小原正夫、沖本祐真、高橋　均、小堀美絵、
藤野大輔（研 8）、岩切信也、岡田尚士

【ポスターセッション】
「Ag-Sn 系・Ag-In 系の各二元合金における金属間化合物の物性に及ぼす影響について」
塚口真守、一棟徳和（第 9）、福間正泰

「学生実習における金属の消耗量について　その 1.　歯冠修復技工物」
谷内秀寿（第 10）、宮川　崇、宮腰啓史、笠原悦男

平成 13 年　2001 年

●論文原著
○「Adaptation of acrylic dentures reinforced with wire.」
J. Oral. Rehabil. 2001,28,937-942.
Teraoka F, Nakagawa M（研 4） and Takahashi J.
○「New Method for divesting cobalt-chromium alloy castings：Sandblasting with a mixed abrasive powder.」
J Prosthet Dent, 2001.85：357-362,
Yoshiaki Taga（第 17）, Keiji Kawai and
Takashi Nokubi.

●雑誌投稿分
○「シンメトリーな咬合床の製作方法　－基準となる咬合床の製作方法－」
QDT.2001 vol.26 No,1
大野健夫、小山詩生、下澤　茂（第 17）

○「可変性人工歯（列）の試作　その 2　－常温重合レジンによる実施例－」
QDT.2001 vol.26 No,2 102 ～ 103
下澤　茂（第 17）、大野健夫

○「可変性人工歯（列）の試作　その 2　－ CAT の部分応用－」
QDT.2001 vol.26 No,3 100 ～ 103
下澤　茂（第 17）、大野健夫

○「連載 マウスガード製作のすすめ「第 1 回：マウスガード　入門編」
QDT.2001 vol.26 No,5 70 ～ 80
前田芳信、米畑友理、山田純子、多賀義晃（第 17）
松田信介（研 10）、町　博之（第 23）

○「連載 マウスガード製作のすすめ「第 2 回：マウスガード製作　中級編＜シングルレイヤーマウスガード＞」
QDT.2001 vol.26 No,6 90 ～ 101
多賀義晃（第 17）、松田信介（研 10）、
町　博之（第 23）、前田芳信、米畑友理、山田純子

○「金銀パラジウム合金の面粗れを検証する」
歯科技工　2001 vol.29 No,4
北原一慶（研 62）

○「歯周補綴の新しい材料―オールセラミックスと CAD / CAM」
PERIODONTICS & RESTORATIVE DENTISTRY　2001.4
町　博之（第 23）、前田芳信

○「ティッシュコンディショナがレジン床に及ぼす影響 DE.」（2001）
寺岡文雄、中川正史（研 4）、髙橋純造

●講演・学術学会発表
○第 37 回日本歯科理工学会　2001 年 3 月 31 日　東京
「プラズマ処理による材料表面の改質　（第 3 報）濡れ性の経時的変化」
中川正史（研 4）、濱田吉之輔、寺岡文雄、髙橋純造

○日本歯科理工学会近畿中四国支部夏期セミナー　2001 年 8 月 24 日　岡山
「プラズマ処理による材料表面改質」
中川正史（研 4）、寺岡文雄、髙橋純造

○日本歯科技工学会　第 23 回（平成 13 年 8 月 25 日・26 日）アクロス福岡
【一般講演】
「歯冠用光重合型硬質レジンにおける築盛層の厚さと色調の関係」
藤野大輔（研 8）

「石膏彫刻実習の評価についての一考察」
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、髙橋純造

「窒化チタンコーティングについての考察（補綴物の着色と金属表面の改質）」
見田智明（第 32）、宮當信行、武田浩二

「歯科受診患者の欠損状態におけるアイヒナーの分野に関する研究　Ⅱ .」
松村　裕（選）、浜田　徹、柳田勇夫

「歯科技工士学校 30 年の自己点検」
一棟徳和（第 9）、山田勝康、有馬立人、広島　開

「試作加熱膨張型鋳造材による鋳造冠の精度」
北原一慶（研 62）、髙橋純造

【テーブルクリニック】
「水噴射・サイクロン方式による新集塵システムの実際」
塚口真守、富田英二、内木雄一、山本靖廣（第 2）

【デモンストレーション】
「新規石膏系埋没材の提案（クリスト 21）」
岩切信也、小原正夫、沖本祐真、中野靖史、高橋　均、
小堀美絵、藤野大輔（研 8）、岡田尚士

「歯科技工用光重合器『アクセルキュア』」
藤野大輔（研 8）、小原正夫、沖本祐真、中野靖史、高橋　均、
小堀美絵、岩切信也、岡田尚士

【ポスターセッション】
「金銀パラジュウム合金の鋳造欠陥」
北原一慶（研 62）、友西康輔、小田切朋和、松永　章（研 1）、
橋野利一、森　茂光、中谷幸一、平岩健介、塚原敏彦

「水噴射・サイクロン方式による新集塵システムの作動原理と性能」
山本靖廣（第 2）、塚口真守、富田英二、内木雄一

「チタン鋳造体の表面粗さ」
三村嘉洋、北原一慶（研 62）

「臨床的模型実習における金属の消耗量について　その 2.　有床義歯技工物」
谷内秀寿（第 10）、宮川　崇、笠原悦男

○第 38 回日本歯科理工学会　2001 年 10 月 6 日　福岡
「遠赤外線が口腔粘膜と脳波に及ぼす影響」
寺岡文雄、中川正史（研 4）、濱田吉之輔、髙橋純造

「プラズマ処理した材料と歯科用セメントとの接着」
木林博之（第 22）、寺岡文雄、濱田吉之輔、中川正史（研 4）、髙橋純造

「プラズマ処理によるポリ乳酸の表面修飾　第 1 報」雰囲気ガスの種類が表面に及ぼす影響」
中川正史（研 4）、寺岡文雄、濱田吉之輔、松本卓也、
木林博之（第 22）、髙橋純造

平成 14 年　2002 年

●論文原著
○「ナノコンポジットを用いた硬質レジン歯の特性」
歯科材料・器械,2002. 21（6）,351 － 356.
寺岡文雄、松本卓也、中川正史（研 4）、髙橋純造

○「マウスガード製作課程における作業用模型表面処理の影響」
スポーツ歯誌,5：37-40,2002 5：37-40, 2002.3
山田純子、岡本守人、前田芳信、堀坂充広、米畑有里、
町　博之（第 23）

○「石膏彫刻実習の評価についての一考察 」
日本歯科技工学会雑誌,23：51-55,2002 23：51-55, 2002.6
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、髙橋純造

●雑誌投稿分
○連載「未来を決定する技工学校－東洋医療専門学校－」
QDT.2002 vol.27 No,11
宮川藤一郎、杉田順弘（研 56）

○「岐路に立つ病院歯科・口腔外科と技工室」
口腔顎顔面技工懇話会会報　2002 第 3 号
吉川昇平（第 23）

●講演・学術学会発表
○第 39 回日本歯科理工学会　2002 年 4 月 12 日　東京
「ポリ乳酸の分解制御に関する研究　第 1 報」結晶性が in vitro での分解に及ぼす影響」
中川正史（研 4）、寺岡文雄、髙橋純造

○日本歯科技工学会　第 24 回（平成 14 年 8 月 10 日・11 日）大宮ソニックシティー
【一般講演】
「陶材焼付け用金属合金の鋳造欠陥防止対策に関する研究」
北見賢司、都賀谷紀宏、松永　章（研 1）、森　茂光、久保文信、
橋野利一、友西康輔、風間堅一、中谷幸一、平岩健介、塚原敏彦

「マウスガードの基礎的研究－適合性に関する一考案－」
萬永喬義、深井祐介、深田雄大、倉田浩二、杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

【ポスターセッション】
「レジン製人工修復物を用い前頭骨欠損を修復した一症例」
池永　司（研 9）、三谷忠昭

「グレー石膏の彫刻実習への導入」
敷島丈晴、堀　夏樹、吉谷勇二、播本光平、杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

○第 40 回日本歯科理工学会　2002 年 9 月 1 日　松本
「結晶化度を制御したポリ乳酸と擬似体液との濡れ性」
寺岡文雄、池野正幸、中川正史（研 4）、髙橋純造

「複合化によるポリ乳酸の細胞接着制御に関する研究　第 1 報」トレハロース添加の影響」
池野正幸、寺岡文雄、中川正史（研 4）、髙橋純造

「プラズマ処理による歯冠修復物の表面自由エネルギー」
木林博之（第 22）、寺岡文雄、池野正幸、中川正史（研 4）、髙橋純造

平成 15 年　2003 年

●科学研究費補助金（奨励研究）
○「マウスガード用作業模型の三次元的寸法精度についての研究」
町　博之（第 23）

●論文原著

○「Influence of plasma treatment on surface properties, cell response of poly（L-lactic acid）.」
Archives of BioCeramics Res.（2003）3：231-236
Teraoka F, Nakagawa M（研 4）, Hara M and Takahashi J.

○「The influence of working cast residual moisture and temperature on the fit of vacuum-forming athletic mouth guards.」
J Prosthet Dent　2003.2
Yonehata Y, Maeda Y, Machi H（第 23）, Sakaguchi RL.

○チタン用加熱膨張型リン酸塩系鋳型材の開発
阪大歯学誌,48（1）
北原一慶（研 62）

●雑誌投稿分

○「石膏系埋没材による陶材焼付用金合金の鋳造　クローバー会実験班からの報告」
歯科技工　2003 vol.31 No.8
都賀谷紀宏、北見賢司、小田切朋和、友西康輔、山本吉保、
朱　可希、森　茂光、久保文信、橋野利一、谷幸一、平岩健介、
松永　章（研 1）、風間堅一、塚原敏彦

○「歯科技工士の国政への挑戦」
歯科技工 2003 vol.31 No,10
中西茂昭（第 5）

○緊急インタビュー：「一般歯科技工士の国政への挑戦」
歯科材料・器材 2003 vol.31 No,10
中西茂昭（第 5）

○「患者が納得できる補綴物を構築するためのアンテリア・アッタチメントの試作検討
－ノンクラスプ・デンチャーの応用より－」
QDT.2003 vol.28 No,11
奥田裕久、下澤　茂（第 17）

○「補綴設計を目的とした樹脂アンテリア・アッタチメントの試作－ 1 本義歯から歯冠修復へ－」
QDT.2003 vol.28 No,12
奥田裕久、下澤　茂（第 17）

○「上林　健氏を招いての Creation 陶材の臨床実習、開催される
－講師と受講生が同一患者の技工物を同時に作製、患者がその中 1 つを選択－」
QDT.2004 vol.29 No,2
大塚正季（第 29）、大谷　昌、河田登美男、上林　健、畠山織恵

○「歯科技工士のための感染知識と対策例」
（社）日本歯科技工士会版
監修　　池田正一
協同執筆　奥田克爾、大西正和（第 10）、大澤正樹、福間正泰

●講演・学術学会発表

○第 41 回日本歯科理工学会　2003 年 4 月 12 日　東京
「ポリ乳酸射出成形体のプラズマ処理による表面修飾と細胞応答」
中川正史（研 4）、寺岡文雄、濱田吉之輔、髙橋純造

○日本歯科技工学会　第 25 回（平成 15 年 8 月 9 日・10 日）札幌コンベンションセンター
【一般講演】
「義歯用高分子材料としてのポリアミド樹脂（ナイロン）の物性について
第 1 報　吸水膨張ならびに着色」
林　克哉（第 12）、町　博之（第 23）、横山菜穂子（第 27）、
内田多恵子（第 7）、小野高裕、野首孝祠

「義歯用高分子材料としてのポリアミド樹脂（ナイロン）の物性について
第 2 報　硬さならびに引張り強さ」
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、
内田多恵子（第 7）、小野高裕、野首孝祠

「義歯用高分子材料としてのポリアミド樹脂（ナイロン）の物性について
第 3 報　曲げ特性ならびに疲労特性」
町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、横山菜穂子（第 27）、
内田多恵子（第 7）、小野高裕、野首孝祠

「チタン用加熱膨張型リン酸塩系鋳造型材の開発」
北原一慶（研 62）、髙橋純造

「スリープスプリントに関する研究」
石田暁子、齊藤紀子、川口由佳、倉田浩二、
杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

【ポスターセッション】
「吸引加圧型シート成型器を用いた副模型の精度」
八尾孝一、中川正史（研 4）、岸本秋朗、寺岡文雄、髙橋純造、高砂文彦

「硬質レジン歯と歯冠用硬質レジンの接着強さについて」
花田佳代子、久保佐弥佳、幡本宏美、杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

「石膏練和における遠心練和機の検討」
中嶋千浪、中野未来、町　沙織、能勢ちひろ、山本高徳、
杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

「教育用歯牙模型の歯冠形態標準化について　第 1 報　臼歯の咬合面観」
三浦恒幸、谷内秀寿（第 10）、宮川　崇、笠原悦男

「新規光重合型歯冠用硬質レジンについて（開発コード SI-324）」
藤野大輔（研 8）、沖本祐真

○日本歯科理工学会 , 近畿・中国夏期セミナー　2003 年 8 月 23 日　京都
「プラズマ照射によるポリ乳酸成形体の表面修飾と細胞応答」
中川正史（研 4）

○第 42 回日本歯科理工学会　2003 年 9 月 19 日　盛岡
「生分解性モノマーの in vitro における細胞障害性」
原　征、寺岡文雄、濱田吉之輔、中川正史（研 4）、玉崎秀樹、髙橋純造

「プラズマ処理した粉末焼結ポリ乳酸足場材料の細胞応答 .」
寺岡文雄、原　征、中川正史（研 4）、玉崎秀樹、髙橋純造

○ 3rd Asian BioCeramics Symposium ABC2003. November 18-20, Fukuoka, Japan.
「Influence of plasma treatments on surface properties, cell response of poly（L-lactic acid）.」
Fumio Teraoka, Masafumi Nakagawa（研 4）, Masashi Hara,
Junzo Takahashi.

○口腔顎顔面技工懇親会 第 4 回学術集会 ミニシンポジューム（2003 年 8 月 9 日）
横浜市立大学・よこはまアーバンカレッジ
「これからの総合病院歯科口腔外科における技工室のありかた」
吉川昇平（第 23）

平成 16 年　2004 年

●論文原著
○「Thermal expansion typed investments for casting titanium.」
Dent. Mater. J.,（2004）：23（1）, 1-7
Kazuyoshi KITAHARA（研 62）and Junzo TAKAHASHI.

○「Retention Force of Complete Palate Coverage and Palate-less Dentures in vitro.」
Dent. Mater. J.,（2004）：23（1）, 19-23
Teraoka F, Nakagawa M（研 4）and Takahashi J.

○「Phosphate-bonded ZrSiO4 investments added with ZrC and ZrN for casting titanium.」
Dent. Mater. J.,（2004）：23（3）, 314-320
Takahashi J, Kitahara K（研 62）, Kubo F.

○「A method for evaluating accuracy of fit for mouthguard in clinical situation：Comparison between 2D and 3D method, 147.」
スポーツ歯学誌 2004.5
Maeda Y, Yonehata Y, Machi H（第 23）, Tsugawa T.

○「義歯用高分子材料としてのポリアミド樹脂（ナイロン系）の物性について
第 1 報　吸水特性および寸法変化」
日本歯科技工学会雑誌 25：87-92,2004 80-86, 2004.6
林　克哉（第 12）、横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、
内田多惠子（第 7）、小野高裕、野首孝祠

○「義歯用高分子材料としてのポリアミド樹脂（ナイロン系）の物性について
第 2 報　表面硬さならびに引張り強さ」
日本歯科技工学会雑誌 25：87-92,2004 87-92, 2004.6
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、
内田多惠子（第 7）、小野高裕、野首孝祠

○「義歯用高分子材料としてのポリアミド樹脂（ナイロン系）の物性について
第 3 報　曲げ特性ならびに疲労特性」
日本歯科技工学会雑誌 ,25：93-99,2004 25：93-99, 2004.6
町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、横山菜穂子（第 27）、
内田多惠子（第 7）、小野高裕 , 野首孝祠

●雑誌投稿分
○「義歯装着の改善を目ざした弾性樹脂（ビニール系）床の試作検討
－模型および腔内での仮着体験より－」

QDT.2004 vol.29 No,3
中本　桂、新貝尚久、下澤　茂（第 17）

○「注入型レジンの 3 分間加熱加圧重合法による即時仮義歯製作の検討」
QDT.2004 vol.29 No,4
加藤竜二、下澤　茂（第 17）

○「患者個々への適合向上を目ざす義歯製作の工夫」
QDT.2004 vol.29 No,5
大野健男、下澤　茂（第 17）

○「加圧冷凍加工によるオリジナル人工歯の開発と展開
－「セラリード」の材質・形態構造および臨床応用へのアプローチ（前）
Part 1 加圧冷凍加工法によるオリジナル人工歯セラリードをベースにしたオーダーメイド
人工歯（アクリルレジンン歯・歯冠用硬質レジン歯・陶歯）製作への新たな試み」
歯科技工 2004 vol.23 No,5
下澤　茂（第 17）

○「Hotz 床の製作」
QDT.2004 vol.29 No,6
浅井美孝（第 7）、吉母節子、川上裕嗣

○「加圧冷凍加工によるオリジナル人工歯の開発と展開
－「セラリード」の材質・形態構造および臨床応用へのアプローチ（後）
Part 2 セラリードの咬合面・側面形態（維持）の改善に伴う自然な色と透過性実現のための
積層構造 “ マーブル層 ” の導入」
歯科技工 2004 vol.32 No,6
下澤　茂（第 17）

○「歯科技工の将来を見据えた教育で学生に夢を与えたい」
歯科技工 2004 vol.32 No.6
中川正史（研 4）

○「装着感と安定感を得るためのレジンとビニール樹脂との併用床」
QDT.2004 vol.29 No,7
中本　桂、新貝尚久、下澤　茂（第 17）

○「人工歯の個性化を目ざす－口腔内でのワックス成形から活きた形を学ぶ（前歯）－」
QDT.2004 vol.29 No,8
下澤　茂（第 17）、八巻賢一、大野健夫

○「体験を技工に活かす－表情を確認し、記録を組み立てる個人トレーの試作体験とその応用－」
QDT.2004 vol.29 No,9
下澤　茂（第 17）、加藤竜二

○「歯科技工と消毒」
日歯技工誌　2004　第 25 巻　第 2 号　p.268
大西正和（10 期）

●講演・学術学会発表
○ 43 回日本歯科理工学会　2004 年 4 月 11 日　東京

「プラズマ処理によるポリ乳酸のナノ構造制御と界面反応」
寺岡文雄、原　征、中川正史（研 4）、髙橋純造

○日本高分子学会　2004 年 5 月 27 日　神戸
「大気中プラズマ処理によるポリ乳酸表面のナノ構造変化と擬似体液界面反応」
寺岡文雄、原　征、中川正史（研 4）、髙橋純造

○日本歯科技工学会　第 26 回（平成 16 年 7 月 31 日・8 月 1 日）新潟・朱鷺メッセ
「コバルトクロム合金の湯流れについての研究」
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、木下慎一、髙橋純造

「歯科技工士のための大学院進学について」
北原一慶（研 62）、髙橋純造

「硬質レジン歯とレジン床の接合力」
稲垣芽未、水上拓史、倉田浩二、杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

平成 17 年　2005 年

●論文原著
○「Surface Modification of Pure Titanium by Plasma Exposure and its Bonding to Resin.」
Dent. Mater. J.（2005）, 24（1）, 53-58.
Kibayashi H（第 22）, Teraoka F, Fujimoto S, Nakagawa M（研 4）and Takahashi J.

○「マウスガード用作業模型に関する考察」
スポーツ歯学誌 8：9-13 2005.3
町　博之（第 23）、前田芳信、三浦治郎、髙橋純造

○「コバルトクロム合金の湯流れについての研究
第 1 報　従来型スプルーによる鋳込み率について」
日本歯科技工学会誌　2005.6
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、木下慎、髙橋純造

○「コバルトクロム合金の湯流れについての研究　第 2 報　オーバージェットスプルーによる鋳込み率の改善」
日本歯科技工学会雑誌　2005.6
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、木下慎一、髙橋純造

○「コバルトクロム合金の湯流れについての研究　第 3 報　鋳造欠陥と凝固解析」
日本歯科技工学会雑誌　2005.6
横山菜穂子（第 27）、町　博之（第 23）、木下慎一、髙橋純造

●雑誌投稿分
○「第 16 回　全国国立大学法人歯学部附属病院歯科技工士協議会」に参加して
歯科技工　2005　vol.33　No,1
浅井美孝（第 7）

○「補綴臨床家のためのマテリアル & テクニック　WOL-CERAM システムの特徴と臨床応用」
QDT.2005　vol.30　No,2
郷上　勲、庄　慶彦、林　俊明、竹内　積（第 5）、酒井茂行

○「第 16 回　全国国立大学法人歯学部附属病院歯科技工士協議会」に出席して
QDT.2005 vol.30 No,2
浅井美孝（第 7）

○「第 15 回歯科鋳造研究会が開催される」
QDT.2005 vol.30 No,5
多賀義晃（第 17）

○「Step by Step で見る臨床テクニック－歯科技工ベーシックアトラス
第 6 回　確実性のある埋没操作」
QDT.2005 vol.30 No,7
梁本時君（第 12）

○「Step by Step で見る臨床テクニック－歯科技工ベーシックアトラス
第 7 回　確実性のある鋳造操作」
QDT.2005 vol.30 No,8
梁本時君（第 12）

○「Research & Presentation Lesson
第 1 回　研究に先立つ情報収集～インターネットによる文献検索テクニック」
歯科技工 2005 vol.33 No,1　10 ～ 13
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 2 回 研究方法～デザインテクニック」
歯科技工 2005 vol.33 No,3 382 ～ 386
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 3 回 データ処理テクニック」
歯科技工 2005 vol.33 No,5　618 ～ 624
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 4 回 グラフ作成テクニック」
歯科技工 2005 vol.33 No,8　1018 ～ 1023
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 5 回 歯科統計の基礎知識（前）」
歯科技工 2005 vol.33 No,9　1172 ～ 1179
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 6 回　医学統計の基礎知識 統計処理テクニック」
歯科技工　2005　vol.33　No,11　1434 ～ 1439
中川正史（研 4）

○日技 50 周年特別企画 「歯科技工の明日を拓く」
Revue 再生医療分野から見た歯科技工学の行方
日本歯技雑誌（2005 年） 第 432 号　6 月　1 ～ 8
中川正史（研 4）

○「歯科技工士教本　歯科理工学　全国歯科技工士連絡協議会　医歯薬出版」
中村正明、武田昭二、大島　浩、篠崎照泰、福間正泰、
中川正史（研 4）

●講演・学術学会発表

○第 45 回日本歯科理工学会　2005 年 4 月 17 日　東京

「ポリ乳酸の分解制御に関する研究　（第 2 報）熱処理効果とモルホロジー」

寺岡文雄、中川正史（研 4）、原　征 , 髙橋純造

○厚生労働省委託　香川県感染予防歯科技工士講習会（2005.10）

「歯科技工における感染対策」

大西正和（第 10）

○京都府歯科技工士会　平成 17 年度臨床講座（2005.12）

「歯科技工における感染対策」

大西正和（第 10）

○長野県歯科技工士会　平成 17 年度臨床講座（2005.12）

「歯科技工における感染対策」

大西正和（第 10）

○日本歯科技工学会　第 27 回（平成 17 年 9 月 18 日・19 日）東京　国際フォーラム

【デモンストレーション】

「最新機器を活用する効果的なシェードテイキングの提案」

藤野大輔（研 8）、沖本祐真、中野靖史、高橋　均、岩切信也、岡田尚士

【ポスターセッション】

「QR コードの義歯への応用－携帯電話による情報の認識－」

田中杏奈、大塚慎一、遠藤隆久、中山栄治、倉田浩二、山本高徳、
石田真里（第 33）、大石直之（研 1）、杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

「チタンインプラントのプラズマ照射による表面修飾と細胞応答」

中川正史（研 4）、濱田吉之輔、寺岡文雄

「アパタイト被覆二酸化チタン光触媒の歯科への応用－義歯床用レジンへの添加－」

新村佳嗣、石本晶子、小西一篤、杉原理恵、三好博子、倉田浩二、山本高徳、
石田真里（第 33）、大石直之（研 1）、杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

○第 46 回日本歯科理工学会　2005 年 9 月 19 日 , 長崎

「ポリ乳酸多孔体内へのプラズマ処理が in vivo での骨再生に及ぼす影響 .」

原　征、中川正史（研 4）、寺岡文雄

「ポリ乳酸多孔体内表面へのハイドロキシアパタイトのコーティングと in vivo での骨再生」

寺岡文雄、原　征、中川正史（研 4）

平成 18 年　2006 年

●論文原著

○「Improvement of cell adhesion on poly（L-lactide）by atmospheric plasma treatment.」
J. Biomed. Mater. Res.（2006）, Part A, 112-118.

Nakagawa M（研 4）,Teraoka F, Fujimoto S, Hamada Y,
Kibayashi H（第 22）and Takahashi J.

○「Surface Modification of Poly（L-lactide）by Atmospheric Pressure Plasma Treatment and Cell Response.」
Dent. Mater. J.（2006）, 25（3）, 560-565.
Teraoka F, Nakagawa M（研 4）and Hara M.

○「マウスガード成形時の冷却方法が経時的変形に及ぼす影響」
スポーツ歯学誌 9：29-32 2006.3
町　博之（第 23）、前田芳信、津川　剛、三浦治郎、高橋良平

○「Hotz 型口蓋床の製作」
2006 年広島の日本歯科技工学会でポスター発表
川上裕嗣、浅井美孝（第 7）、一宮里美

●雑誌投稿分
○「今、歯科技工が知るべき感染対策の要点～厚生労働省局長通達を踏まえて～」
歯科技工 2006 vol.34 No.2 176 ～ 186
大西正和（第 10）

○「Research & Presentation Lesson 第 7 回　スライド作成テクニック」
歯科技工　2006　vol.34 No.1　117 ～ 122
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 8 回　論文作成テクニック」
歯科技工　2006　vol.34 No.3　407 ～ 415
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 9 回　実践編　①理工学的研究に関するプレゼンテーション」
歯科技工　2006　vol.34 No.5　620 ～ 629
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson　　第 10 回 海外投稿テクニック」
歯科技工　2006　vol.34 No.7　838 ～ 843
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson 第 11 回 実践編　②海外論文作成テクニック」
歯科技工　2006　vol.34 No.9　1122 ～ 1129
中川正史（研 4）

○「Research & Presentation Lesson　第 12 回 ポスター発表テクニック」
歯科技工　2006　vol.34 No.11　1384 ～ 1387
中川正史（研 4）

●講演・学術学会発表
○第 47 回日本歯科理工学会　2006 年 4 月 22 日
「東京オールセラミッククラウンブリッジ修復物のチッピング」
寺岡文雄、原　征、中川正史（研 4）

○歯科技工フォーラム 2006 TOKYO（2006.1）
「構造設備基準を展望した感染対策」
大西正和（第 10）

○大阪府歯科技工士会基礎研修（2006.5）
「構造設備基準を展望した感染対策」
大西正和（第 10）

○厚生労働省委託　滋賀県感染予防歯科技工士講習会（2006.11）
「歯科技工における感染対策」
大西正和（第 10）

○京都府歯科技工士会生涯研修（2006.11）
「構造設備基準および品質管理指針を展望した感染対策」
大西正和（第 10）

○日本歯科技工学会　第 28 回（平成 18 年 9 月 17 日・18 日）広島国際会議場
【テーブルクリニック】
「印象採得物に対する実用的除菌システムについて」
大西正和（10 期）、佐藤晶子

【デモンストレーション】
「WELOM　TO“VINTAGE”WORD － WHAT　IS　NEXT　MATERIAL“ZR”？－」
藤野大輔（研 8）、沖本祐真、中野靖史、高橋　均、岩切信也、
川崎喬佳裕、池部雄生、岡田尚士

「ハイブリッドタイプ硬質レジンの展望 - フローアブルコンポジットレジンとガムシステム」
沖本祐真、藤野大輔（研 8）、中野靖史、高橋　均、岩切信也、
川崎喬佳裕、池部雄生、岡田尚士

【ポスター発表】
「スポーツ歯学技工室実習を通して
第 1 報　マウスガードの辺縁設定位置による影響の体験的評価」
中林　諒（第 46）、福富太郎（第 46）、兼井寛行（第 46）、
新井　恵（第 46）、町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、
横山菜穂子（第 27）、前田芳信

「スポーツ歯学技工室実習を通して
第 2 報　有効的な体験学習について」
兼井寛行（第 46）、新井　恵（第 46）、中林　諒（第 46）、
福富太郎（第 46）、町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、
横山菜穂子（第 27）、前田芳信

「よりわかりやすい歯科技工録へのアプローチ」
上原禎治（第 22）、吉田忠司、藤原綾子、山本篤史、入澤広志

「試作除菌システムが印象採得物の寸法変化に及ぼす影響について」
佐藤晶子、大西正和（10 期）

「メタルフリーデンチャーの適合性とレジンの性質」
迫田隆一郎、坂本　隆、八木祐樹、中川正史（研 4）、岸本秋朗、寺岡文雄

「アパタイト被覆二酸化チタン光触媒の歯科への応用－歯冠用硬質レジンへの添加－」
鳥岡あゆみ、福田　晶、山内由美、織田千紗、杉田順弘（研 56）

「オールセラミックス修復物とセメントの接着性」
礒辺　裕、石畠遼子、押領司達也、小長光均、中川正史（研 4）、
岸本秋朗、寺岡文雄

「オールセラミックス修復物の破折と形態設計」
鈴木佑輔、北川雄基、樋口博士、吉岡裕記、
中川正史（研 4）、岸本秋朗、寺岡文雄

「環境に優しい新吸引混和法による石膏硬化について　第 2 報　埋没材への応用」
藪上雅彦、入澤　保、車谷和之（研 62）、伊庭哲也、黒田宣宏、
山田勝康、福間正泰、野村穐生、井上　瞳、堤　定美

「マウスガードの適合性と使用するレジンの性質」
浅野麻澄、秋田康博、荒木真也、粟津昌明、八尾孝一、
中川正史（研 4）、岸本秋朗、寺岡文雄

○第 48 回日本歯科理工学会学術大会 ,2006 年 10 月 28 日（土）　名古屋
「オールセラミック修復物の性能向上　第 1 報　セメントとの接着性」
稲葉陽二、寺岡文雄、中川正史（研 4）、原　征、荘村泰治

「メタルフリーデンチャーの機械的性質と適合性」
寺岡文雄、中川正史（研 4）、稲葉陽二、原　征、荘村泰治

●その他
○「日本歯技」平成 17 年度最優秀論文賞受賞（2006.5）
授賞論文名「歯科補綴物等の消毒」
大西正和（第 10）

平成 19 年　2007 年

●論文原著
○「Mouthguards：Difference in longitudinal dimensional stability between single- and double-laminated fabrication techniques Dent Traumatol 」
Dental Traumatology 23：9-13 2007.1
Miura J, Maeda Y, Machi H（第 23）, Matsuda S.

○「歯科技工士学校におけるマウスガード製作実習の効果－体験学習法の有効性について－」
日本歯科技工学会雑 28（1）：86-91 2007.6
町　博之（第 23）、前田芳信、兼井寛行（研 57）、
中林　諒（第 46）、新井　恵（研 46）、福富太郎（第 46）、
林　克哉（第 12）、横山菜穂子（第 27）

●講演・学術学会発表等
○第 49 回日本歯科理工学会学術大会 ,2007 年 5 月 13 日（日）　札幌
「義歯製作システムの開発　第 1 報　フラスコ温度と内部圧力変化」
中川正史（研 4）、寺岡文雄、稲葉陽二、荘村泰治

「義歯製作システムの開発　第 2 報　重合精度」
稲葉陽二、寺岡文雄、中川正史（研 4）、荘村泰治

○第 2 回歯科院内感染予防技術均てん化会議（2007. 7）
「歯科技工領域の感染対策」
大西正和（第 10）

○厚生労働省委託　感染予防歯科技工士講習会（徳島）（2007.8）
「歯科技工と感染症対策」
大西正和（第 10）

○厚生労働省委託　感染予防歯科技工士講習会（群馬）（2007.10）
「歯科技工と感染症対策」
大西正和（第 10）

○厚生労働省委託　感染予防歯科技工士講習会（秋田）（2007.12）
「歯科技工と感染症対策」
大西正和（第 10）

○日本歯科技工学会　第 29 回（平成 19 年 9 月 22 日・23 日）仙台市民会館
【テーブルクリニック】
「新しいシリコン印象材の寸法精度」
高橋麻乃（第 47）、井上美穂（第 47）、西村綾子（第 47）、
馬場弘隆（第 47）、町　博之（第 23）、前田芳信、
横山菜穂子（第 27）、林　克哉（第 12）

【デモンストレーション】
「新規・歯科金属焼付用陶材について」
川崎喬佳裕、沖本祐真、中野靖史、高橋　均、藤野大輔（研 8）、
岩切信也、岡田尚士

【ポスター発表】
「歯科医療従事者における就学時モチベーションの向上と維持」
中川正史（研 4）、吉本直樹、平尾彰規、濱田吉之輔

「顎顔面補綴の実態調査－資格化に向けてのアプローチ－」
内山耕二郎、杉田順弘（研 56）、大石直之（研 1）、宮川藤一郎、岸本秋朗、
吉田輝男、浦野　弘、中川正史（研 4）、森下裕司、濱田吉之輔

「学生教育のためのカスタムメイド人工歯（陶歯）製作－加圧冷凍加工法の応用」
大野健夫、菅野恭助、小松　勝、八巻賢一、
楠　智恵（研 2）、野首孝嗣

「義歯床用常温重合型レジンを用いた高精度義歯製作システム　第 1 報　基礎評価」
千星和彦、中川正史（研 4）、吉岡裕記、小長光均、寺岡文雄

「義歯床用常温重合型レジンを用いた高精度義歯製作システム　第 2 報　技工評価」
上西永司、中川正史（研 4）、小長光均、寺岡文雄

「各種 CAD /CAM で製作したジルコニアコーピングの適合性」
寺岡文雄、上原美穂、小長光均、中川正史（研 4）、小城由佳

「薬液が石膏模型表面に及ぼす影響」
矢倉和樹、池田直也、澤　達也、山田大輔、光本和矢、青島春奈、

十河夏奈子、倉田浩二、杉田順弘（研 56）、内山耕二郎

「石こう系埋没材における急速加熱時の注意点について 第 1 報」
高橋　均、沖本祐真、中野靖史、藤野大輔（研 8）、岩切信也、
川崎喬佳裕、岡田尚士

「石こう系埋没材における急速加熱時の注意点について 第 2 報」
藤野大輔（研 8）、沖本祐真、中野靖史、高橋　均、岩切信也、
川崎喬佳裕、岡田尚士

「スプルーイングと鋳造欠陥の関連を解明する湯流れ・凝固シュミレーションを利用した
視覚教材『溶湯になりたいっ！』」の開発
宇高明宏（第 47）、井上由偉（第 47）、上野真実（第 47）、
梶浦真由美（第 47）、倉知美帆（第 47）、高橋麻乃（第 47）、
田中佐知（第 47）、中山由紀（第 47）、永山さゆり（第 47）、
渡辺みゆき（第 47）、髙橋純造、前田芳信、木下慎一、
久保文信、桑折欣也、熊澤洋一、横山菜穂子（第 27）、
町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）

平成 20 年　2008 年

●論文原著

○「3D morphological assessment of occlusal treatment by measuring dental casts with a micro-focus X-ray CT.」
J Oral Rehabil.（2008）, 35（5）：382-9.
Kamegawa M, Nakamura M, Kitahara K（研 62）, Ohtomo H,
Hasegawa T, Nakakura T, Tsutsumi S.

●著書

○『新歯科技工士教本　歯科技工実習』顎顔面補綴
全国歯科技工士教育協議会、医歯薬出版（東京）、183-188、2008.
杉田順弘（研 56）（分筆）

○『新歯科技工士教本　歯科技工実習』スポーツ歯科における歯科技工
全国歯科技工士教育協議会、医歯薬出版（東京）、189-194、2008.
前田芳信、町　博之（第 23）（分筆）

●雑誌投稿分

○「5 種のスプルーイングによる金銀パラジウム合金ブリッジの鋳造実験結果および湯流れ・凝固解析結果との比較」
歯科技工、医歯薬出版、36（2）：176-193、2008.
横山菜穂子（第 27）、髙橋純造、前田芳信、木下慎一、久保文信、
熊澤洋一、桑折欣也

○「Step で実践！　補綴物製作過程での感染予防
－印象採得前～リペアまで、いまできる最良の対策法－」
QDT. クインテッセン出版、33（4）：15-32、2008.
池田正一、大西正和（第 10）

○「根拠ある補綴治療を目指す　連載　対策例付き・補綴の疑問を文献から考える
第 12 回　補綴装置に与える咬合について－咬合調整、人工歯の排列は？－」
QDT. クインテッセン出版、33（12）：78-88、2008.

前田芳信、松田信介（研 10）、田中佑人

○「顎顔面補綴領域における歯科技工士の貢献に関する実態調査～歯科技工士有資格者の
短期再教育による顎顔面補綴士の資格化に向けてのアプローチ～」
歯科技工、(2008 年)、36 巻 第 8 号 978 ～ 984
内山耕二郎、杉田順弘（研 56）、大石直之（研元）、宮川藤一郎、岸本秋朗、
吉田輝男、中川正史（研 4）、森下裕司、濱田吉之輔

●講演
○（社）大阪府歯科技工士会東淀川支部学術講演会（大阪）(2008.4)
「マウスガードの製作－エビデンスに基づいて－」
町　博之（第 23）

●学術学会発表
○第 51 回日本歯科理工学会学術大会　2008 年年 4 月 26,27 日　鶴見大学記念会館（横浜）
「FRP ポストの開発　第 1 報　FRP ポストの表面処理効果」
稲葉 陽二、寺岡 文雄、中川正史（研 4）、荘村 泰治

「FRP ポストの開発 第 2 報　試作 FRP ポストの特性」
寺岡 文雄、稲葉 陽二、中川正史（研 4）、荘村 泰治

○第 52 回日本歯科理工学会学術大会　平成 20 年 9 月 20 日（土）,21 日（日）
千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市）
竹エキスの口腔内細菌に対する抗菌性
寺岡文雄、稲葉陽二、山本恒一、中川正史（研 4）、荘村泰治

○平成 19 年度（社）日本補綴歯科学会関西支部学術大会（大阪）、2008.
「サーモフォーミングテクニックにより製作したオーラルアプライアンスの補綴臨床への応用」
松田信介（研 10）、前田芳信

「印象材の硬度とインプラントの印象精度－クロードトレー法について－」
町　博之（第 23）、前田芳信

○第 10 回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会（兵庫）、2008.
「加圧型熱成形器を使用した中空型顎義歯 1 回重合法」
宮本哲郎（研 13）、堀　一浩、小野高裕、前田芳信

「エアブラシ・メイクアップによるエピテーゼ辺縁の不顕化処理」
神　桂二（研 51）、太田圭二、牧野エミ、鵜川由紀子、丸尾幸憲、
西川悟郎、神尾和加子、皆木省吾

○第 25 回日本顎顔面補綴学会学術大会（福岡）、2008.
「加圧型熱成形器を使用した中空型顎義歯 1 回重合法」
宮本哲郎（研 13）、堀　一浩、小野高裕、前田芳信

○日本歯科技工学会　第 30 回日本歯科技工学会学術大会・第 4 回　国際歯科技工士学術大会
（平成 20 年 11 月 21 日・22 日・23 日）　大阪国際会議場
【ポスター発表】
「CAD / RP-CAM による歯科技工　第 1 報　基礎床および個人トレーの製作」
西山貴浩（第 48）、横江千絵（第 48）、川田智子（第 48）、
下村章子（第 48）、大西　聡（第 48）、田中　悟（第 48）、

北原一慶（研 62）、町　博之（第 23）、絹田宗一郎、山口　哲、
熊澤洋一、荘村泰治

「CAD / RP-CAM による歯科技工　第 2 報　RP-CAM 造形用レジンの特性およびの改良」
中尾真由紀（第 48）、仲野由利子（第 48）、堀　愛深（第 48）、
町　博之（第 23）、北原一慶（研 62）、林　克哉（第 12）、
熊澤洋一、荘村泰治

「CAD / RP-CAM による歯科技工　第 3 報　CAD / RP-CAM で製作したレジンパターンの歯科鋳造」
岡田友里（第 48）、高階愠子（第 48）、山本佳奈（第 48）、
坂上結加（第 48）、西山貴浩（第 48）、北原一慶（研 62）、
町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、荘村泰治

「CAD / RP-CAM による歯科技工　第 4 報　CAD / RP-CAM による歯型彫刻教育用モデルの製作」
北原一慶（研 62）、西山貴浩（第 48 期）、町　博之（第 23 期）、
山口　哲、林　克哉（第 12 期）、熊澤洋一、荘村泰治

「CAD / RP-CAM による歯科技工　第 5 報　CAD / RP-CAM 法によるセラミック修復物の製作」
中島有香（第 49）、中井貴子（第 49）、林部仁美（第 49）、
徳山　希（第 49）、北原一慶（研 62）、諏訪充頼、桐原聡秀、
熊澤洋一、荘村泰治

「セラミッククラウンの破壊機構の検討　第 1 報 コアー形態の影響」
森　圭司、下原元太、白石康朗、小原沙由利、岡野一樹、
中川正史（研 4）、山口　哲、寺岡文雄

「セラミッククラウンの破壊機構の検討　第 2 報 コアーの厚みによる影響」
横田裕樹、森口尚紀、小村　灯、足立昌敏、生越遥子、
中川正史（研 4）、山口　哲、寺岡文雄

「新卒者による新旧サーパスシリーズを使用した臼歯部排列の評価」
大竹裕之、新井　恵（第 46）、町　博之（第 23）、高橋麻乃（第 47）、
永山さゆり（第 47）、能勢浩行（第 12）、前田芳信

「高品位な金属床義歯－フィニシングラインでの接着の考察－」
松田信介（研 10）、多賀義晃（第 17 期）、前田芳信

「寒天埋没法によるレジン床義歯の性能評価」
上西永司、中川正史（研 4）、小長光均、寺岡文雄、荘村泰治

「射出成形ノンクラスプデンチャーの性能評価　第 1 報　応力分布」
佐藤有起、久留野翔太、水田和則、黒石洋平、中川正史（研 4）、
寺岡文雄、荘村泰治

「射出成形ノンクラスプデンチャーの性能評価　第 2 報　適合性」
松岡郁子、玉井佑典、松井優朋、佐野由佳、平川昴明、
中川正史（研 4）、寺岡文雄、荘村泰治

「ハイブイッドタイプ光重合型硬質レジン『セラマージュ』ホワイトニングシェードの提案」
藤野大輔（研 8）、寺前充司、沖本祐真、川崎喬佳裕

「サンドブラスト処理がジルコニア表面性状に及ぼす影響について」
兼井寛行（第 46）、池田正臣、二階堂徹、田上順次、渡辺昭彦、
安江　透、三浦宏之

「加圧型熱成形器を使用した中空型顎義歯 1 回重合法」
宮本哲郎（研 13）、堀　一浩、小野高裕、前田芳信

「ポリ乳酸樹脂を使用したバイオマスプラスチックスプルーの開発」
永山さゆり（第 47）、多賀義晃（第 17）、横山菜穂子（第 27）、
前田芳信、木下慎一

「新規歯科鋳造用金合金の研磨性について　-Super Gold Pt Rose-」
中野靖史、藤野大輔（研 8）

「ルージュのみで Co-Cr を効率的に研磨できるか？」
中林　諒（第 46）、松田信介（研 10）、多賀義晃（第 17）、前田芳信

「歯科技工士教育における卒前臨床技能評価試験に関する研究」
末瀬一彦、二川浩樹、尾崎順男、福間正泰、杉上圭三、
杉田順弘（研 56）

「顎顔面補綴物製作者の資格化に向けたカリキュラムの構築」
中川正史（研 4）、内山耕二郎、宮川藤一郎、杉田順弘（研 56）、
大石直之（研 1）、岸本秋朗、吉田輝男、森下裕司

平成 21 年　2009 年

●科学研究費補助金（奨励研究）
○「オーラルアプライアンス用硬質シート圧接時の適正温度についての研究」
町　博之（第 23）

○「拡張現実感表示技術を応用した歯型彫刻ナビゲーションシステムの開発」
北原一慶（研 62）

●雑誌投稿分
○「Next Proposal & Trial　患者の要望や歯科技工士の意志を反映させた個性的な人工歯の応用」
歯科技工、医歯薬出版　　37（6）：771-780、2009.
楠　智恵（研 2）、野首孝詞、堤　嵩詞、下澤　茂（第 2）、今中俊三、
山本靖廣（第 2）、宇都宮周一、下澤定志

○「口唇口蓋裂治療に用いる口蓋床の強度向上と製作法の簡便化 /
Hotz 床の術前外鼻歯槽矯正装置としての応用と問題点」
歯科技工、医歯薬出版　　37（ 4 ）：504-514 , 2009
浅井美孝（第 7）、川上裕嗣、一宮里美、岩本　勉、野中和明

●講演
○徳島県歯科技工士会（徳島市）（大阪）（2009.12）
「歯科技工士の大学院進学について」「有床義歯の適合性」

「CAD/RP-CAM による歯科技工」
北原一慶（研 62）

●学術学会発表
○「Control of Decomposition rate of PLLA scaffolds. 」
IADR, 2.4.2009. miami.
Masafumi Nakagawa（研 4）,Fumio Teraoka, Taiji Sohmura

○第 53 回日本歯科理工学会学術大会 , 平成 21 年 4 月 11 日（土）,12 日（日）
タワーホール船堀（東京）
「CAD/RP-CAM 法によるセラミック修復物の製作　－焼成およびガラス浸透による強度改善－」
荘村泰治、中島有香（第 49）、徳山　希（第 49）、
北原一慶（研 62）、諏訪充頼、熊沢洋一、桐原聡秀

「試作 FRP ポストコアの荷重時の応力特性」
稲葉陽二、寺岡文雄、山口　哲、中川正史（研 4）、荘村泰治

「FRP と修復用レジンとの接着特性」
寺岡文雄、稲葉陽二、中川正史（研 4）、荘村泰治

○第 54 回日本歯科理工学会学術講演会 , 平成 21 年 10 月 1 日（木）,2 日（金）
かごしま県民交流センター（鹿児島）
「CAD/RP-CAM による歯科修復物製作法」
荘村泰治、西山貴浩（第 48）、桃原督雄（学生）、
岡野　香（学生）、北原一慶研 62）、山口　哲 , 熊澤洋一

「CAD/RP-CAM 法で製作したレジンパターンを用いた歯科鋳造」
荘村泰治、北原一慶（研 62）、石倉茉莉（第 49）、
中島有香（第 49）、星野翔平（学生）、町　博之（第 23）

「荷重時にポスト周辺の気泡が歯根の応力分布に及ぼす影響」
寺岡文雄、稲葉陽二、山口　哲、中川正史（研 4）、荘村泰治

○第 7 回市民フォーラム『口福への誘い』平成 21 年 10 月 17 日（土）
毎日新聞大阪本社オーバーホール（大阪市）
「入れ歯を作っているのは、だれ？」
町　博之（第 23）

○ 日本歯科技工学会　第 31 回　平成 21 年 11 月 22 日（日）・23 日（月・祝）　アクロス福岡
【テーブルクリニック】
「CAD / RP-CAM による歯科技工　バーチャルサイベリングと部分床義歯の CAD（第 2 報）」
西山貴浩（第 48）、桃原督雄（学生）、岡野　香（学生）、
北原一慶（研 62）、山口　哲、熊澤洋一、荘村泰治

「CAD / RP-CAM による歯科技工　VR による歯型彫刻教育法の開発　（第 2 報）」
北原一慶（研 62）、大坂圭彦（第 49）、山口　哲、西山貴浩（第 48）、
町　博之（第 23）、林　克哉（第 12）、荘村泰治

【デモンストレーション】
「新規・金属焼付用陶材（SI-P10701）について」
川崎喬佳裕、中野靖史、藤野大輔（研 8）、藤井玲奈、岡田尚士

「松風人口歯の設計コンセプトについて」
岡田尚士、中野靖史、藤野大輔（研 8）、川崎喬佳裕、藤井玲奈

【ポスター発表】
「新規・金属焼付用陶材（SI-P10701）ペーストオペークの有用性」
藤野大輔（研 8）、中野靖史、川崎喬佳裕、藤井玲奈、岡田尚士

「CAD / RP-CAM による歯科技工　セラミック修復物の製作　（第 2 報）」
中島有香（第 49）、林部仁美（第 49）、柴田崇継（学生）、
北原一慶（研 62）、諏訪充頼、桐原聡秀、荘村泰治

「CAD / RP-CAM による歯科技工（第 2 報）RP 製作レジンパターンによる歯科鋳造」
石倉茉莉（第 49）、中村有香（第 49）、星野翔平（学生）、
北原一慶（研 62）、町　博之（第 23）、荘村泰治

「オーラルアプライアンス用硬質シートの圧接 - 圧接時の適正温度について」
小室美穂（第 49）、徳山　希（第 49）、日高美幸（学生）、
町　博之（第 23）、前田芳信、荘村泰治

「竹エキスの抗菌性　第 1 報　アルコールが石膏の性質に及ぶ影響」
山本洋平、衣笠智美、上元優香、涌田昌秀、山城　航、
上原美穂、中川正史（研 4）、寺岡文雄

「竹エキスの抗菌性　第 2 報　アルコールがアルジネートの性質に及ぶ影響」
吉田翔太、水島ゆかり、松井博司、野口夕嘉里、上田進也、
上原美穂、中川正史（研 4）、寺岡文雄

「竹エキスの抗菌性　第 3 報　アルコールが義歯床用レジンの性質に及ぶ影響」
倉本敏広、白濱健一、石川宏一、栗林和也、堤　拓磨、
上西永司、中川正史（研 4）、寺岡文雄

「竹エキスの抗菌性　第 4 報　アルコールがナイトガードの性質に及ぶ影響」
尾崎達也、片桐秀幸、坂上公一、亀井雄二郎、杉岡孝宣、
下郡俊映、中川正史（研 4）、寺岡文雄

「ラミネートによるナイトガードの機械的性質の制御」
森　達哉、谷口香織、出口麻亜、堂元章弘、忠政智之、
吉岡裕記、中川正史（研 4）、寺岡文雄

「Hotz 型口蓋床の製作」
川上裕嗣、浅井美孝（第 7）、一宮里美

平成 22 年　2010 年

●科学研究費補助金（奨励研究）

○「拡張現実感表示技術を応用した歯型彫刻ナビゲーションシステムの教育的効果および応用」
北原一慶（研 62）

●論文原著

○「Fabrication of sintered porous poly（L-lactide）scaffold with controlled pore size and porosity.」
Journal of Applied Polymer Science.Volume 117, Issue 3, Date：1 August 2010,
Pages：1566-1571
Fumio Teraoka, Masashi Hara, Masafumi Nakagawa（研 4）,
Taiji Sohmura.

○「Decompostion rate control of PLLA scaffold by heat treatment.」
Journal of Applied Polymer Science. 2010,
Masafumi Nakagawa（研 4）, Fumio Teraoka, Taiji Sohmura.

○「硬質熱可塑性レジンの圧接に関する研究　第 1 報 シート表面の適正温度について」
日本歯科学会誌 2010.10 accept
町　博之（第 23）, 前田芳信

○「新しい複合研磨材を応用した効率的な補綴物の研磨法 / エアロラップ法を応用した簡易・効果的な鏡面仕上げについて」
歯科技工 , 医歯薬出版 , 38（２）：188-195, 2010.
浅井美孝（第 7）、川上裕嗣

○「金属材料の特性を生かした補綴装置製作の要点」
歯科技工 , 医歯薬出版 , 38（３）：318-325, 2010.
多賀義晃（第 17）

○「緩圧性アタッチメントを応用したインプラント・オーバーデンチャーの製作 /
義歯の安定化とインプラントへの負担過重を防ぐための活用法」
歯科技工 , 医歯薬出版 , 38（６）：656-667, 2010.
浅井美孝（第 7）、松下恭之、川上裕嗣、宮　里美、諸井亮司、野林勝司

●講演・学術学会発表

○第 55 回日本歯科理工学会学術講演会　平成 22 年 4 月 17 日（土）,18 日（日）
タワーホール船堀（東京）
「アルコールが石膏模型の性質に及ぼす影響」
寺岡文雄、中川正史（研 4）、稲葉陽二 , 荘村泰治

「CAD/RP-CAM 法によるセラミック修復物の製作　－焼成およびガラス浸透による強度改善と適　合性評価－」
荘村泰治、中島有香（第 49）、林部仁美（第 49）、
北原一慶（研 62）、諏訪充頼、桐原聡秀、熊沢洋一

○ 第 56 回日本歯科理工学会学術講演会　平成 22 年 10 月 9 日（土）,10 日（日）
長良川国際会議場（岐阜）
「テラヘルツ時間領域分光法による歯科材料の解析」
寺岡文雄、中川正史（研 4）、稲葉陽二

＜会誌 33 号学術論文の公募について＞

歯技会会誌 33 号に掲載する学術論文を公募します。

テ ー マ：原則として未発表の歯科学全般とその周辺学識
文　　量：歯技会会誌 5 ページ程度
選　　考：応募が複数の場合は一題を学術委員会にて選考いたします。
　　執筆内容の概要を御提出下さい。選考後に執筆に御着手下さい。
締め切り：平成 23 年 5 月末
申し込み：学術理事　町　博之（第 23 期）まで
　　E-mail : machi@dent.osaka-u.ac.jp

大阪大学歯技会ホームページ開設によせて

歯技会会長　指輪光良

時下、会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、記念事業の一環として、もう一つ「大阪大学歯技会」のホームページを開設する運びとなりましたので、ご報告申し上げます。

同窓会事業計画や会員皆様のご活躍および母校の教育活動など、様々なニュースを迅速にお知らせすることが可能となり、非常に嬉しく思っております。

このホームページの活用により、会員名簿内容の変更連絡、学術業績や関連学会、研究会の情報提供、また会員からの様々な要望の受信と会費徴収などの業務発信の迅速化などが飛躍的に容易になって行くと思われます。そしてホームページを通して、同窓会は組織活動の充実と会員相互の交流や母校との連携強化の発展に努めたいと考えております。

以上のような取り組みから考えて、ホームページ開設は同窓会運営にとって絶好の転換期であるといえるでしょう。そこで、皆様方の積極的なアイディアと提言をお待ちしておりますので、率直なご意見をお聞かせ頂ければ幸いかと存じます。

今後とも同窓会活動のさらなる活性化に向けて努力を続けて参りますので、何卒ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、本ホームページ開設にあたり、絶大なるご支援とご尽力を頂きました 26 期生の株式会社シーエス 24 代表取締役梁本昌功氏に感謝の意を表します。

【編集後記】

母校と同じ昭和 35 年生まれの私にとって、過去を含め周年事業の折りには、自分を再認識させられる機会でもあります。今回は記念誌編集に携わる事になりましたが、4 月春に立ち上げ 7、8 月の暑い夏に皆様への原稿依頼、秋に校正、12 月冬に発刊とあっという間でしたが、大きな節目に母校ならびに幣会にとってふさわしい記念誌になるよう、限られた同窓会組織運営の中、少数精鋭・質実剛健の阪大技学魂をもって編集委員一同頑張りました。

幣誌に御寄稿下さいました先生方ならびに会員の皆様、そして御協賛いただきました企業各社様には深く感謝する次第です。

記念誌編集委員長　西　康 文（第 20 期）

母校創立 50 周年並びに歯技会発足 30 周年という節目の年に当たり、この記念誌の発行に携わることが出来ましたことに感謝いたします。先日、大阪市立科学館に行きました。今では駐車場となってしまった母校の跡地を見て、通っていた校舎が無くなってしまった事に少し寂しさも感じながら、ここに校舎があったとか、ここで体育の授業でソフトボールをしていたなとか、在学中の事を懐かしく思い出していました。

本年の記念誌発行に当たりご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも弊誌発行にご協力お願い申し上げます。

副編集委員長　上原　禎治（第 22 期）

多くの皆様のご協力を得て、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校創立 50 周年ならびに大阪大学歯技会発足 30 周年記念事業として、記念誌を発行することが出来ました。編集には正確を期したつもりですが、万が一遺漏や不備な点がございましたら、誠に申し訳ありませんが、何卒、ご寛容下さいますようお願い申し上げます。

副編集委員長　北原　一慶（研 62 入）

記念誌編集委員

大西　正和（第 10 期）　アドバイザー
大塚　正季（第 29 期）　広告担当
境　　潤哉（第 31 期）　名簿担当
藤本　美紀（第 37 期）　会員統計担当

大阪大学歯技会会則
大阪大学歯技会会員名簿
大阪大学歯技会役員名簿
大阪大学歯技会名簿索引

広告掲載企業名

石福金属興業株式会社
医歯薬出版株式会社
社団法人 大阪府歯科技工士会
社団法人 大阪府歯科技工士会 北支部
クラレメディカル株式会社
株式会社コスモデンタル
株式会社須山歯研
高園産業株式会社
株式会社デンケン
株式会社デントロニクス
株式会社トクヤマデンタル
日本デンタルサプライ株式会社
白水貿易株式会社
パナソニックヘルスケア株式会社
株式会社松風
丸石石膏株式会社
株式会社モリタ
ライフスタイル コーポレーション
株式会社ロータリービジネス
和田精密歯研株式会社
相田化学工業株式会社
アサヒプリティック株式会社
アルディ株式会社
大阪セラミックトレーニングセンター
尾崎歯材株式会社
きばやしデンタルクリニック
有限会社グローイン
昭和歯研株式会社
株式会社ジーシー
ddoミリングセンター
株式会社トミヤ
株式会社橋本歯科商店
Bionic株式会社
山本貴金属地金株式会社

（五十音順）

大阪大学歯技会
会　　則

第１章　総　　則

第１条　本会は大阪大学歯学部附属歯科技工士学校同窓会で大阪大学歯技会という。

第２条　本会は会員相互の親睦融和を図り、会員と母校の密接な連絡を保ち、もって母校の発展並びに斯界の進歩向上に寄与することを目的とする。

第３条　本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

１．会誌・会員名簿などの刊行

２．各種会合の開催

３．その他本会の目的を達成するために必要な事業

第４条　本会の本部事務局を大阪大学歯学部附属歯科技工士学校内におく。

第２章　会　　員

第５条　会員の構成は正会員、特別会員および名誉会員とする。

１．正会員

イ．大阪大学歯学部附属歯科技工士学校卒業者

ロ．大阪大学歯学部附属病院歯科技工研修修了者で本会の主旨に賛同するもの

ハ．平成４年３月現在正会員であったもの（ただし、前項イ、ロに属するものを除く）

２．特別会員

母校の専任講師及び非常勤講師、又はその職にあったもので、本会の主旨に賛同するもの

３．名誉会員

母校歴代学長および本会の発展に尽力し功労顕著なるもの

第６条　前条２、３項は評議員会の議を経ることを要する。

第７条　会員が規定の手続きにより申請し、理事会の議を経て評議員会の承認を得たものは休会とする。

ただし休会期間中は、総会通知を除く会務の連絡を休止する。

第３章　役員及び評議員

第８条　本会に次の役員をおく。

会　　長　１　名
副 会 長　若干名
専務理事　１　名
理　　事　若干名
監　　事　２　名

第９条　会長および監事は評議員会において選出する。

副会長、専務理事および理事は会長が委嘱する。

第10条　評議員は原則として、各期代表者１名とする。

役員および評議員は互に他を兼任することはできない。

第11条　会長は本会を代表し、会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
専務理事は会長の旨を受けて会務を掌理する。
理事は会長の委嘱により会務を分掌する。
監事は本会の会計および会務を監査する。

第12条　本会に相談役、顧問および参与をおくことができる。相談役、顧問および参与は理事会の議を経て会長委嘱する。相談役、顧問および参与の任期はこれを委嘱した会長と同じとする。

第13条　役員の任期は３年とし４月１日に始まり３月31日に終る。ただし、再任を妨げない。
役員に欠員が生じたときは、速やかに補欠役員を選出する。補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。評議員の任期は役員のそれに準ずる。

第４章　会　　議

第14条　会議は総会、評議員会および理事会とする。

第15条　総会は定時総会および臨時総会とする。
１．定時総会は毎年１回会長が召集する。
臨時総会は会長が必要と認めたとき会長が召集する。
議長、副議長はその都度出席した会員のなかから選出する。
２．総会において会長は当該年度における庶務および会計の重要事項、評議員の決議事項、その他の事項を報告し承認をうるものとする。
３．総会の承認は出席会員の過半数の同意をもって成立する。

第16条　評議員会は定時評議員会と臨時評議員会とする。
定時評議員会は毎年１回会長が召集する。
臨時評議員会は会長が必要と認めたとき、または評議員の２／３以上から要求があったときは会長が召集する。
議長、副議長はその都度出席した評議員の中から選出する。

第17条　次の事項は評議員会の議決または承認を要する。
１．会長および監事選出
２．事業計画
３．予算および決算
４．会則の改正
５．その他本会の運営に関して必要な事項

第18条　評議員会は評議員の過半数の出席をもって成立する。ただし、委任状もこれを認める。議事は出席評議員の過半数の同意をもって決する。
ただし会則改正の議決は出席評議員の２／３以上の同意による。

第19条　理事会は次の事項を審議する。
１．評議員会の召集に関する事項およびこれに付議する事項
２．総会に関する事項
３．その他重要な会務

第20条　本会に各種の委員会をおくことができる。

第５章　会　　計

第21条　本会の経費は正会員の会費および寄付金その他の収入をもってこれに充てる。

第22条　正会員は所定の会費を納入するものとする。ただし、第７条により休会を認められたものは休会期間中の会費を免除する。

納入した会費はいかなる事由があっても返還しない。

第23条　資産は評議員会の定めた方法によって会長が管理する。

第24条　会計年度は毎年４月１日により翌年３月31日までとする。

第７章　弔意と見舞

第25条　会員が死亡した場合は、別に定める基準により会長の承認をえて弔慰する。

第26条　会員が非常災害で被害をうけまた長期間にわたり療養を必要とする疾病にかかった場合は、会長の承認をえて見舞金等を贈ることができる。

第８章　賞　　罰

第27条　本会に対し功労顕著なるものは、評議員会の議決により表彰することができる。

第28条　本会の対面を著しく汚したものは、評議員会の議決によって適当な処置を講ずる。

附　　則

１．本会会則は平成５年５月29日より改訂施行する。

２．本会の運営に関する細則は別にこれを定める。

３．会の所在地：大阪府吹田市山田丘１番８号

※　本会会則は昭和56年４月１日施行

※　本会会則は平成４年５月30日改訂

大阪大学歯技会
弔　慰　規　定

第１条　本規定は、会則25、26条に基づいてこれを定める。

第２条　会員が次に該当する時、その定められたる弔慰を行うものとする。

会員の死亡に対する弔慰・弔慰金として、金10,000円を贈る。

但し、休会会員、または会費未納会員を除く。

第３条　前条に該当する事態が生じた時は、評議員を経由して速やかに本会に報告するものとする。

第４条　その他必要ある時は、理事会において決定する。

附　　則

本規定は平成15年６月30日より改定施行する。

※　本規定は平成４年５月30日施行

平成22年10月現在

歯技会会員名簿

【おことわり】

プライバシー保護の観点により、御住所、電話番号、勤務先の名簿への記載を希望されない方は巻末の葉書にて御連絡下さい。次回名簿より消させて頂きます。
（郵便物は今まで通り発送させて頂きます。）

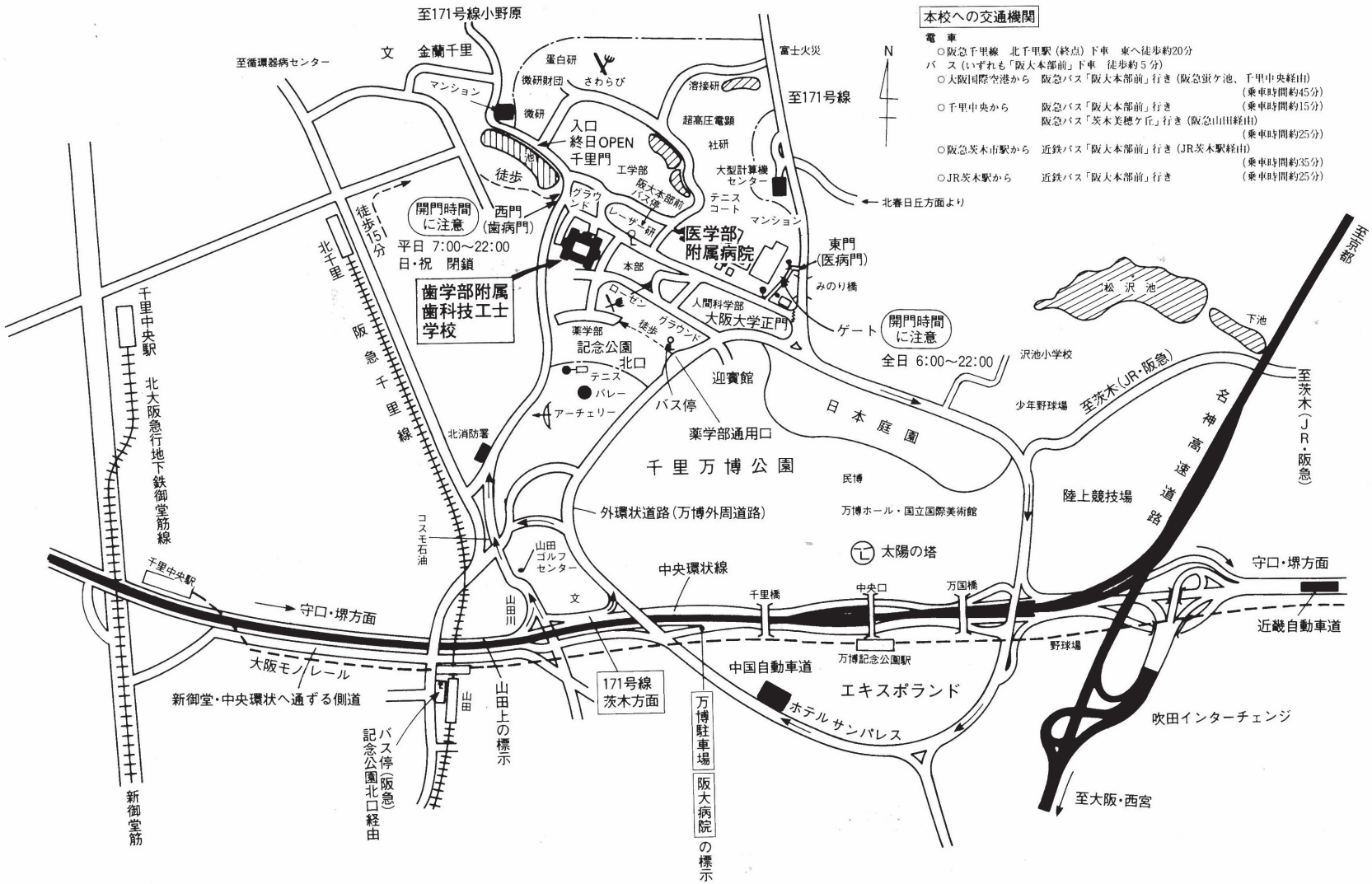
【お　願　い】

本会では、できる限り正確な会員名簿を皆様にお届けできるように、会員の転居や異動などの情報収集に努めておりますが1000名を超える会員すべての確実な把握は困難です。自他にかかわらず、掲載内容に変更が生じました場合や誤脱につきましては、お手数ですが巻末の「住所・勤務先変更届」にてご連絡をお願いいたします。

（電話・ＦＡＸはお断りいたします）

組織理事

〔大阪大学歯学部附属歯科技工士学校案内図〕



本校への交通機関

電　車
- ○阪急千里線　北千里駅（終点）下車　東へ徒歩約20分

バ　ス（いずれも「阪大本部前」下車　徒歩約５分）
- ○大阪国際空港から　阪急バス「阪大本部前」行き（阪急蛍ケ池、千里中央経由）（乗車時間約45分）
- ○千里中央から　阪急バス「阪大本部前」行き（乗車時間約15分）
- 阪急バス「茨木美穂ケ丘」行き（阪急山田経由）（乗車時間約25分）
- ○阪急茨木市駅から　近鉄バス「阪大本部前」行き（JR茨木駅経由）（乗車時間約35分）
- ○JR茨木駅から　近鉄バス「阪大本部前」行き（乗車時間約25分）

平成２２年１２月

会員各位

同窓会費納入のお願い

歯技会会長　指輪　光良
会費会計理事　山口　静穂

平素より会員の皆様におかれましては会費徴収にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本年度評議員会・総会並び会員だより・会費納入のお願いハガキにおいてお伝えしました通り、最近同窓会では会費収入の激減により本年度以降の安定かつ永続的な運営が危ぶまれ、危機的な状況に陥っております。

そこで執行部では健全財政の推進を掲げ、危機感を持って会費納入率の向上に取り組んでいます。

何卒ご理解の上、未納会費のある会員の方は早急に会費の完納（ご事情により完納できない方は分割並び可能な範囲での会費納入でも結構です）をよろしくお願いいたします。

記

＜同窓会費＞

年会費　　**２．０００円**
郵便振替　　口座番号　　００９５０－５－５６８０５
　　加入者名　　大阪大学歯技会

住所・氏名・期別を明記してください
尚、振込用紙は歯技会誌の後ろにも綴じ込んでいます

会費納入についてのお問い合わせ　　歯技会会長　指輪光良
会費会計理事　山口静穂

第32号 歯技会誌

平成22年11月

編集・発行　大阪大学歯学部附属歯科技工士学校同窓会

大阪大学歯技会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番8号
大阪大学歯学部附属歯科技工士学校内
TEL　06-6879-2285

発行人　指輪光良

編集人　西　康文

印刷所　株式会社ロータリービジネス
〒561-0841 大阪府豊中市名神口1丁目8番16号